

MieMu

みえむ

2015

三重県総合博物館 年報

Mie Prefectural Museum Annual Report

通
卷

2

号

ごあいさつ

新しい博物館三重県総合博物館MieMu(みえむ)は、平成26年に開館いたしました。三重の自然と歴史・文化に関する大切な資産を保全・継承していくことはもちろんのこと、次代を担う子どもたちをはじめ、県民のみなさんや利用者の方々の学びと交流の場となり、郷土への愛着や誇りを感じることができるように、人づくり、地域づくりに貢献できる博物館を目指して活動しております。また、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動の理念と位置づけ、県民のみなさんや利用者の方々との協創や、多様な主体との連携による博物館づくりを前進させるべく日々活動しております。

ここに、当館の平成27年度の事業概要を取りまとめ年報を発刊いたします。この年の企画展は、前年から引き続き行いました高田本山専修寺をとりあげた歴史の展示、昆虫を軸とした自然の展示、世界の人びとを引きつける三重県の重要なコンテンツといえる鈴鹿サーキットのF1グランプリをとりあげた展示、くらしの道具をとりあげた民俗の展示、当館の公文書館機能を活かした展示と、バラエティーに富んだ特色あるものとなりました。また、研究についても業績を重ねつつあります。おかげさまで、開館2年目であるこの年の5月には、入館者数40万人を達成いたしました。さらに、9月には入館者数50万人、翌平成28年3月には入館者数60万人を達成いたしました。

館の運営をさまざまな面から支えていただいているみなさまに深く感謝を申し上げますとともに、三重県総合博物館への一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年3月

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)

館長 大野 照文

MieMuとは・・・

「三重」の「ミュージアム」を表現しているとともに、“みえむ”という音は“三重の夢”に通じ、三重への愛着や誇りを持ち、未来への夢を持てるような博物館になりたいという思いを表現しています。



目 次

ごあいさつ	1	5.3.1 講座	44
目次	2	5.3.2 フィールドワーク	47
I 博物館の概要	3	5.3.3 学習支援冊子・マップ	48
1 使命と理念	3	5.3.4 人材育成支援活動	48
2 ビジョンと戦略目標・戦術	4	5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業	48
3 沿革	5	5.4.1 学校	49
3.1 MieMuの日（周年事業）	6	5.4.2 大学	50
4 施設概要	7	5.4.3 博物館	52
II 平成27年度の取組概要	9	5.4.4 文化交流ゾーン	54
1 運営管理	9	5.4.5 国県市町など	56
1.1 事業体系	9	5.4.6 その他の諸機関・諸団体	57
1.2 組織体制	9	5.5 他機関・団体への協力（職員の諸団体への 協力活動）	59
1.3 運営状況	10	5.5.1 委員、講師等の依頼	59
1.4 利用者数	10	6 企業との連携	63
1.5 歳入歳出決算	11	6.1 事業の趣旨・目的	63
1.6 三重県総合博物館協議会	11	6.2 パートナー企業数	64
1.7 三重県総合博物館協議会評価部会	13	6.3 連携事業	64
2 調査研究事業	13	7 利用者との協創	65
2.1 研究概要	13	7.1 事業の趣旨	65
2.2 研究成果一覧	15	7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パート ナー	65
3 資料収集・保存	18	7.3 ボランティア	70
3.1 収蔵資料概要	18	8 広報	71
3.2 資料収集	18	8.1 新聞・テレビ・ラジオ	71
3.3 歴史的公文書の移管	20	8.2 雑誌	72
3.4 資料保存	21	8.3 ホームページ	72
4 展示	21	8.4 Facebook・Twitter	72
4.1 基本展示	21	8.5 その他	73
4.2 企画展示	22	9 博物館の評価	73
4.2.1 企画展	22	9.1 評価のしくみ	73
4.2.2 交流展	28	9.2 平成27年度の戦略目標と戦術の評価結果	74
4.2.3 トピック展	35	9.3 みんなでつくる博物館会議	75
4.3 こども体験展示室	36	9.4 アンケート結果概要	76
4.4 三重の実物図鑑	36	III 資料	
4.5 オオサンショウウオ生態展示	38	1 条例・規則	81
4.6 学習交流スペース展示等	38	1.1 三重県総合博物館条例	81
4.7 三重を知る1,000冊	39	1.2 三重県総合博物館条例施行規則	85
4.8 野外展示	39	1.3 三重県総合博物館協議会評価部会 設置要綱	91
4.9 移動展示	40	1.4 観覧料免除要項	92
5 交流創造活動事業	40	2 事業成果一覧	94
5.1 事業の趣旨・目的	40		
5.2 閲覧レファレンス活動事業	40		
5.2.1 レファレンス事業	40		
5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）	41		
5.3 学習支援活動事業	44		

I 博物館の概要

1 使命と理念

1) 使命

1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる100年、200年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

MieMuでは、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓くきっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

2) テーマ

三重が持つ多様性の力

MieMuでは、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらし、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

・多様性の探求がもたらす力

多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらします。

・新たな文化を創造する力

多様（＝異なるもの）であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらします。

・今をつくり未来を切り拓くちから

三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらします。

《三重の多様性とは》

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くに及ぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらしや歴史が育まれてきました。また、三重は古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会い場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおこり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

3) 活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者みなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

2 ビジョンと戦略目標・戦術

1) 活動と運営に係る評価のしくみ

長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(平成26年度～平成28年度)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしている。なお、戦略目標とは計画期間中、重点的に目的をもって取り組むことであり、戦術とは戦略目標達成のために、具体的に取り組むこととした。

2) ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもつたことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者みなさんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

3) 戦略目標と戦術

戦略目標		戦術	
1	新たな利用者のすそ野が広がり、何度も利用してもらえるために、事業内容を充実させます	1	多様な層を獲得するため、行ってみたいくなる企画展を実施します
		2	基本展示を何度も利用してもらうために、展示の更新や解説を実施します
		3	学校利用を促進するために、館内プログラムを充実します
2	博物館の存在が広く伝わるために、開館の利点を活かして積極的な広報を展開します	4	利用者が受動的に目に入るメディアに掲載してもらうため、メディア向け説明会や内覧会をします
		5	利用者が受動的に目に入る広報ツール(ポスター)を活用するために、みりょく発信隊による広報活動を強化します
		6	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得る広報ツールであるホームページを充実させます
		7	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るツイッターを定期的に更新します
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します	8	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るフェイスブックを定期的に更新します
		9	活動への参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します
		10	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します
		11	経営への参画促進のために、みんなで作る博物館会議をします

戦略目標		戦術	
4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します	12	収蔵資料を保全するために、収蔵庫と展示室の定期清掃を行います
		13	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、保存・保全環境を改善します
5	地域にある資料の学術的価値づけとその意義を伝えるために、地域づくりに貢献できるような総合的な研究を対象を絞って集中的に取り組みます	14	地域が研究に参画するために、小中学校に調査カードを配布し一緒に調べます
		15	地域の人々が研究に参画するために、研究調査を兼ねた観察会などの事業を実施します
		16	研究成果の意義を伝えるために、発表会や企画展示、シンポジウムを開催します
6	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期および臨時の戦略会議の場をもちます
		18	評価制度が有効に働いているかを確認するために、評価士に定性評価していただきます

3 沿革

年 月	経 緯
平成19年 2月	○知事選挙公約に新博物館構想の検討を掲載
平成19年 7月	○生活部文化振興室に新文化政策特命監・新文化政策グループを新設し整備に着手 ○三重県文化審議会に「三重の文化振興方針(仮称)」および新博物館のあり方についての検討を諮問
平成19年10月	◆県議会「新県立博物館整備にかかる基本的考え方」を提言 ・建物老朽化のため三重県立博物館の常設展示室を閉鎖(博物館業務は継続)
平成20年 2月	○三重県文化審議会より「三重の文化振興方針(仮称)」および新博物館のあり方について答申
平成20年 3月	○「三重の文化振興方針」および「新県立博物館基本構想」を策定
平成20年11月	○三重県文化審議会より新博物館整備の着実な整備について要望書
平成20年12月	○「新県立博物館基本計画」を策定
平成21年 3月	○「新県立博物館事業実施方針」を作成
平成21年 6月	○「新県立博物館概略設計案(建築・展示)」を公表
平成22年 2月	○「新県立博物館詳細設計(建築)最終報告」を公表
平成22年10月	○「新県立博物館詳細設計(展示)最終報告」を公表
平成22年 6月	○新県立博物館建築予定地の造成工事に着手(～12月)
平成22年11月	○新県立博物館建築工事に着工
平成23年 1月	・新県立博物館建築工事起工式(平成23年1月28日)
平成23年3・5月	・建設地の地層化石調査を実施
平成23年 6月	・県議会全員協議会において新県立博物館整備の今後の方針(整備検証による3方向7項目)について報告
平成23年10月	○新県立博物館展示製作・施工に着手
平成24年 4月	○新県立博物館外構関係工事に着手
平成24年 6月	○新県立博物館情報システム構築に着手
平成25年 4月	○新県立博物館建築工事竣工 ・建築物環境総合性能評価システム「CASBEE」認証のSランクを取得
平成25年 6月	○三重県総合博物館条例公布(平成26年4月19日施行)
平成25年 8月	・愛称決定・発表(MieMu:みえむ) ・三重県立博物館からの移転に着手(～平成26年1月)
平成26年 1月	○三重県総合文化センターとの連絡通路竣工

平成26年 2月	○新県立博物館外構関係工事完了 ・三重大学・皇學館大学と相互協力協定を締結
平成26年 3月	○新県立博物館展示製作・施工完了 ○三重県総合博物館条例施行規則公布(平成26年4月19日施行)
平成26年 4月	○開館(18日：開館記念式典 19日：グランドオープン)
平成26年 6月	○入館者数10万人達成 (6/1：開館39日目)
平成26年 8月	○入館者数20万人達成 (8/6：開館95日目)
平成26年11月	○入館者数30万人達成 (11/16：開館183日目)
平成27年 5月	○入館者数40万人達成 (5/17：開館334日目)
平成27年 9月	○入館者数50万人達成 (9/22：開館444日目)
平成28年 3月	○入館者数60万人達成 (3/20：開館592日目)

3.1 MieMuの日（周年事業）

開館日である4月19日を「MieMuの日」と銘打ち、毎年「MieMuの日」前後の日曜日に記念イベントを実施し、利用者の皆さんや地域の方々に日頃の感謝を伝える取組を行っていくこととした。平成27年度については、開館1周年を記念して先着プレゼントやワークショップ等を開催した。

1 実施日時

平成27年4月19日（日）午前9時から午後7時まで

2 当日の特典

- ・先着100名様にオリジナルポストカードをプレゼント
- ・「家庭の日」（第3日曜日）のため、全展示の観覧を2割引き

3 イベント

行事名	会場	概要	人数
オレンジグッズを着て MieMuに行こう！	エントランス ホール	オレンジグッズを身に付けてきた方に缶バッジをプレゼントする。	約1,000
ワークショップ 「三重にまつわるエトセトラ」	学習交流 スペース	参加者が見えについて知っているモノ・コトを書き込み、三重県地図を作っていく。	107
ワークショップ 「缶バッジづくり」	学習交流 スペース	ミエゾウの絵柄の缶バッジを、好きな色を選んでもらい自分で製作する。	250
ワークショップ 「あいうえお作文」	レファレンス カウンター	愛称にちなんで「み え む」の3文字であいうえお作文を考える。	26
サンドブラストワーク ショップ	実習室	ミエゾウのシルエットをサンドブラストで彫刻し、オリジナルグラスを製作する。 講師：中尾美希（ガラス工房MIKI）	13

※サンドブラストワークショップは、ミュージアムショップ「MieMu SHOP」協賛で実施した。



当日の館内風景



ワークショップの様子

4 施設概要

名 称	三重県総合博物館(愛称: MieMu(みえむ))		
種 別	登録博物館(総合)	開 館 日	平成26年4月19日
所 在 地	〒514-0061 津市一身田上津部田3060		
電 話	059-228-2283(代)	ファックス	059-229-8310
メール	MieMu@pref.mie.jp		
ホームページ	http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/		
ツイッター	https://twitter.com/mie_pref_museum		
フェイスブック	https://www.facebook.com/mie.pref.museum		

【敷 地】

敷地面積	38,884m ²
地域地区	第1種低層住居専用地域、第2種住居地域

【建 物】

建築面積	6,889m ²
延床面積	11,705m ² (各階延床積 1階:4,760m ² 、2階:2,125m ² 、3階:4,637m ² 、屋上階:60m ²)
構 造	SRC造一部RC造、免震構造、3階建て
設 計 G L	18m

〔主要室の面積〕

3F	2F
① 学習交流スペース 586m ²	⑮ 正面入り口
② 三重の実物図鑑 126m ²	⑯ エントランスホール
③ こども体験展示室 196m ²	⑰ 受付カウンター
④ 自然・民俗・考古資料閲覧室 77m ²	⑱ 交流展示室 147m ²
⑤ 古文書・公文書等資料閲覧室 41m ²	⑳ 交流活動室 49m ²
⑥ 美術・古文書資料閲覧室(和室) 20m ²	㉑ 実習室 112m ²
⑦ 特別閲覧室 14m ²	㉒ 飲食・休憩スペース
⑧ レクチャールーム 127m ²	㉓ ミュージアムショップ
⑨ 基本展示室 820m ²	㉔ 事務室 84m ²
⑩ 企画展示室 912m ²	㉕ 館長室 21m ²
⑪ 展示準備室 150m ²	㉖ 応接室 33m ²
⑫ 授乳室 20m ²	㉗ 会議室 48m ²
⑬ 学芸作業室 77m ²	㉘ 救護室 17m ²
⑭ 共同研究室 22m ²	㉙ 歴史資料・公文書整理室 48m ²
⑮ 学芸事務室 128m ²	㉚ 歴史資料・公文書保存処理室 46m ²
⑯ 県民活動室 24m ²	
⑰ 展示テラス 35m ²	

1F

③ 収蔵庫エリア 2361㎡

美術工芸資料収蔵庫 214㎡

歴史資料・歴史的公文書収蔵庫 411㎡

特別収蔵庫 69㎡

借用資料収蔵庫 40㎡

人文系収蔵庫 前室 81㎡

地学資料収蔵庫 318㎡

生物標本資料収蔵庫 521㎡

大型資料収蔵庫 176㎡

自然系収蔵庫 前室 60㎡

民俗考古資料収蔵庫 238㎡

写真・映像資料収蔵庫 50㎡

液浸標本収蔵庫 67㎡

仮収蔵庫 64㎡

冷凍・冷蔵庫室 15㎡

③④ 資料受入準備室1・2 55㎡

③⑤ 生物被害処置室 45㎡

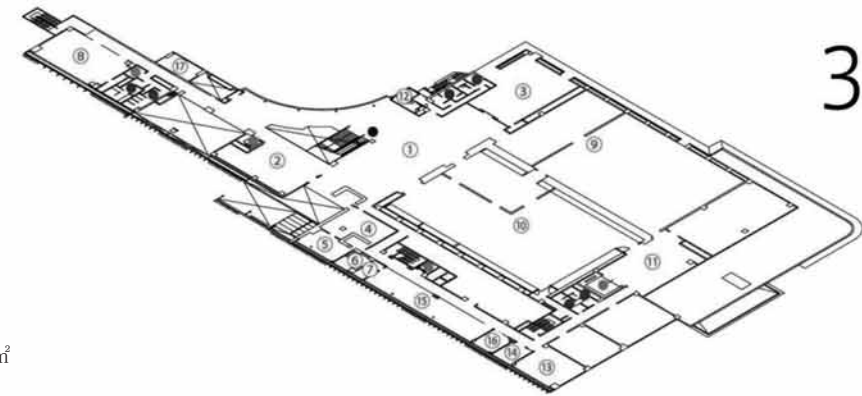
③⑥ 荷解室 160㎡

③⑦ トラックヤード 118㎡

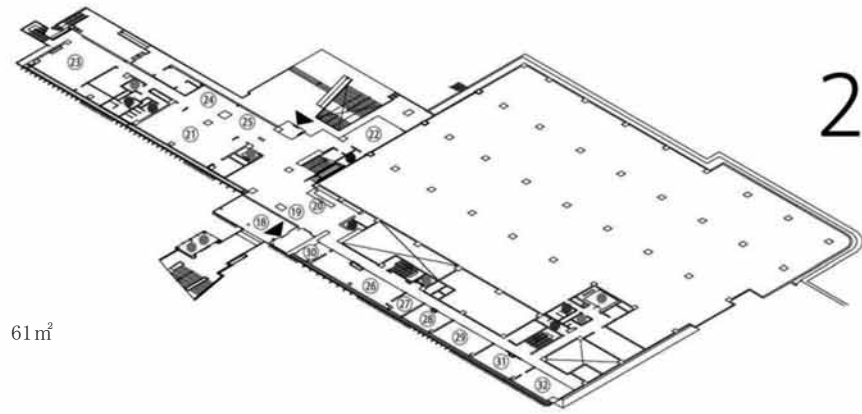
③⑧ 地学標本製作室

③⑨ 薄片製作室

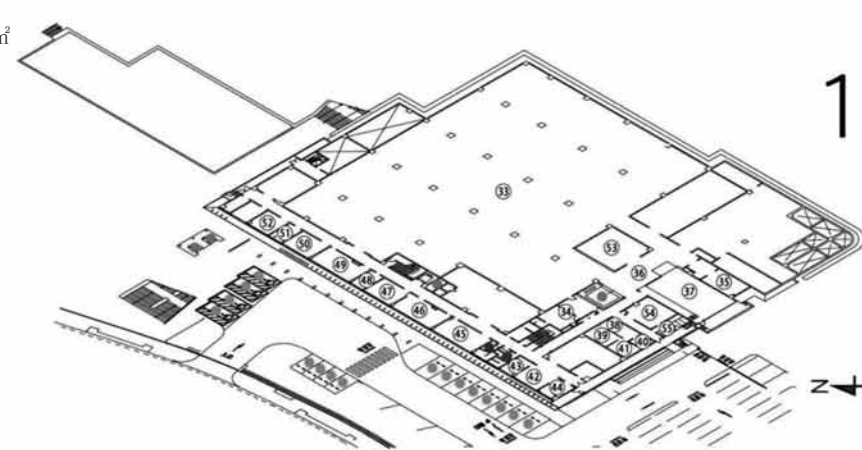
④⑩ ドラフト室



3F



2F



1F

③⑧ ③⑨ ④⑩ } 61㎡

④⑪ 化石クリーニング室

④⑫ 液浸・剥製標本製作室 37㎡

④⑬ 飼育・観察室 12㎡

④⑭ 解剖室 16㎡

④⑮ 人文資料整理室 46㎡

④⑯ 植物標本製作室 45㎡

④⑰ 昆虫標本製作室 31㎡

④⑱ 薬品庫 15㎡

④⑲ 科学分析室1 46㎡

④⑳ 科学分析室2 15㎡

④㉑ 保存科学処理室 25㎡

④㉒ X線撮影室

④㉓ 写真撮影室 73㎡

④㉔ 中央監視室 41㎡

④㉕ 守衛室 18㎡

- ▲ 出入口
- ロッカー
- 男子トイレ
- エレベーター
- 女子トイレ
- エスカレーター
- 多目的トイレ
- おもいやり駐車場

II 平成27年度の取組概要

1 運営管理

1.1 事業体系

●総合博物館管理運営費

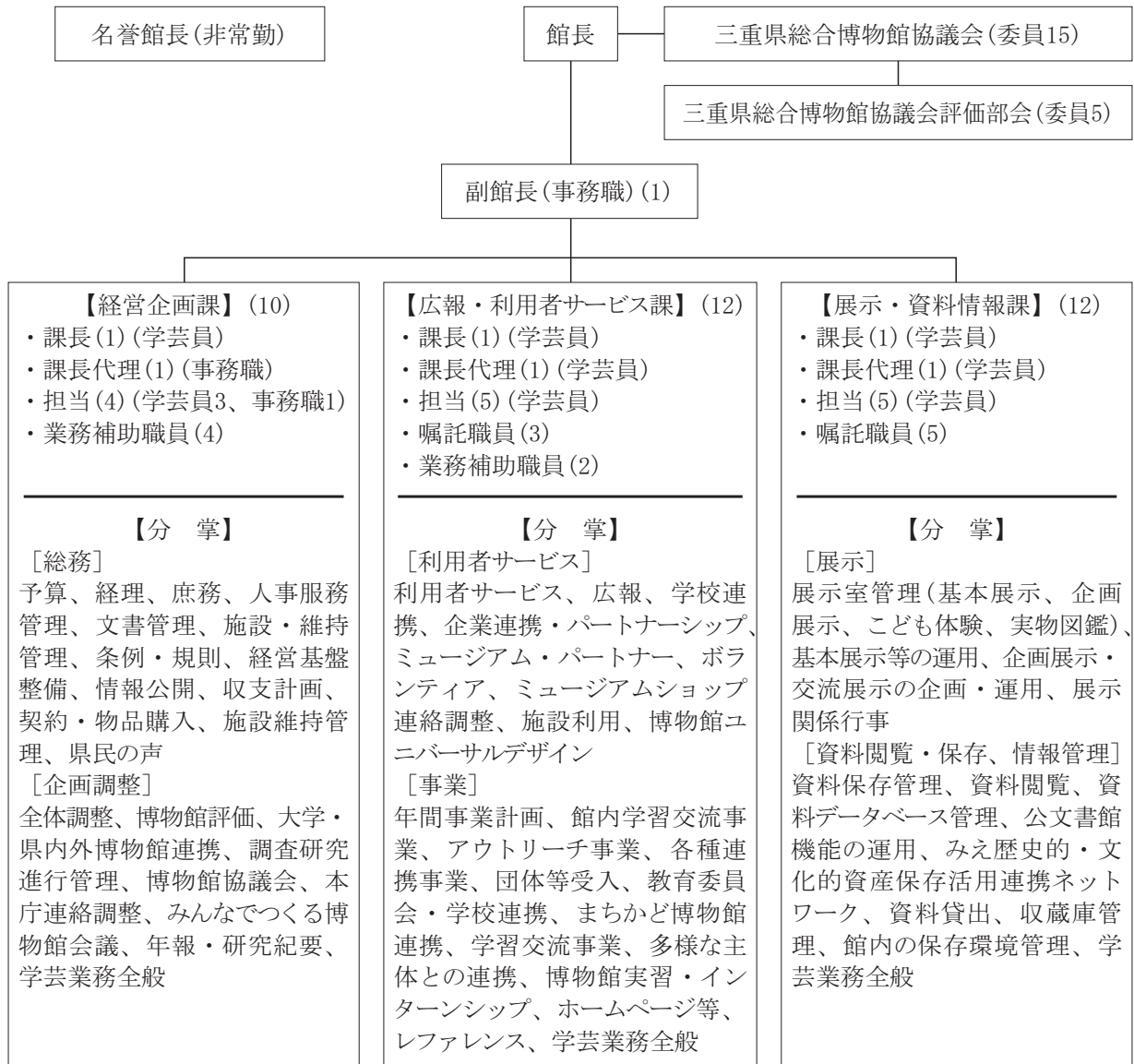
- ・総合博物館管理運営費 施設保守、維持 等

●総合博物館展示等事業費

- ・調査研究費 総合研究、専門研究、共同研究及等の調査研究活動
- ・資料収集管理費 資料収集、資料修復、資料保存環境の管理 等
- ・交流創造活動費 学習交流スペースでのレファレンス活動、ワークショップ 等
- ・展示企画運用費 各種企画展の開催準備 等
- ・アウトリーチ活動費 フィールドワーク等の博物館活動を地域との連携により県内各地で実施
- ・広報宣伝営業推進費 広報宣伝及び企業等への営業活動

1.2 組織体制

1) 組織図・分掌



2) 職員名簿(平成28年3月31日時点)

館長	布谷 知夫	名誉館長	野呂 昭彦
副館長	松井 一明		
経営企画課		広報・利用者サービス課	展示・資料情報課
課長	杉谷 政樹	課長	天野 秀昭
課長代理	山崎 章弘	課長代理	松本 功
主査	中野 環	主査	大西 到
主査	松本 浩一	学芸員	中川 良平
主査	北村 淳一	学芸員	大島 康宏
主事	田村 香里	学芸員	門口 実代
業務補助職員	加藤 美智子	学芸員	中村 千恵
業務補助職員	田畑 友莉子	嘱託員	山本 伸一
業務補助職員	玉置 紀子	嘱託司書	伊藤 泉子
業務補助職員	畑井 真由	嘱託学芸員	稲垣 玲弥
(業務補助職員	中瀬 綾乃)	業務補助職員	堀江 真季子
		業務補助職員	打田 美紀
			嘱託員
			岸田 早苗
			瀧川 和也
			藤谷 彰
			宇河 雅之
			間渕 創
			太田 光俊
			森田 奈菜
			津村 善博
			水谷 憲二
			和田 明子
			井上 有希
			山本 梨加

【職員体制】 常勤職員22(館長1、副館長1、事務2、学芸員18)、嘱託8、業務補助職員6

1.3 運営状況

- ・開館時間 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア]
休館日を除く全日 9時～19時
[展示エリア]
火～金曜日 9時～17時 土日祝日 9時～19時
- ・休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、別途定める日(くん蒸など)
- ・観覧料等 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 無料
[展示エリア] 下表のとおり

	基本展示	企画展示	セット券	年間パスポート	
当 日 券	一般	510円	その都度定める 基本展示+企画展示 料金の2割引	1,640円	
	高校生以下	無料	その都度定める (無料を基本)	設定なし	
	学生(大学、各種専門学校等)	300円	その都度定める (割引を基本)	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,020円
	障がい者及びその付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
	学校、児童福祉施設としての利用	無料	無料	設定なし	設定なし
	県民の日の記念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
	家庭の日 (毎月第3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	—
	団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし
前売券	設定なし	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし	

1.4 利用者数

平成27年度における当館利用者数は、以下のとおりである。平成27年度の開館日数は308日となっている。

また、詳細な利用者統計に関しては、Ⅲ 資料 2 事業成果一覧 に掲載する。

- 1) 入館者数 253,100人 ※博物館への入館者総数(無料スペースのみの利用者を含む)
- 2) 展示観覧者数 170,218人 ※基本展示及び企画展示の観覧者総数(無料観覧者数を含む)
(うち、基本展示93,172人 企画展示77,046人)
[参考(外数)] 交流展示、トピック展示観覧者数 43,481人
- 3) こども体験展示室利用者数 85,858人
- 4) 資料閲覧室利用者数 入室者数 2,181人 資料閲覧者 1,262人
- 5) 学校による利用者数 185校 8,621人(引率者を除く)
- 6) 各種イベント等参加者数 5.3学習支援活動事業に記載

1.5 歳入歳出決算

●歳入

単位：円

【項目】	【平成27年度決算額】
観覧料収入	37,107,750
企業からの協力(企業パートナーシップ等)	4,060,000
施設活用による収入(ミュージアムショップ等)	6,949,438
その他事業関連収入(資料利用収入等)	2,203,351
公的団体等からの外部資金の獲得	33,665,000
外部資金を活用した基金からの繰入	9,000,000
県費	402,488,099
合計	495,473,638

●歳出

単位：円

【項目】	【平成27年度決算額】
事業費(総合博物館展示等事業費)	121,014,022
維持管理費・一般管理費(総合博物館管理運営費)	115,497,604
人件費(職員・嘱託員・業務補助員)	258,962,012
合計	495,473,638

1.6 三重県総合博物館協議会

1) 目的

三重県総合博物館協議会は、三重県総合博物館の経営や、調査研究、資料の収集・保存、展示やワークショップなどの博物館活動、並びに、博物館活動を通じた人材育成や地域づくりについて、委員の方々に専門的立場や利用者の観点から意見・提言をいただき、博物館の事業推進に活かすことを目的として設置した。

2) 設置根拠

博物館法第20条、三重県総合博物館条例第14条

3) 設置年月日 平成26年4月19日(土)

4) 委員 県内の大学、経済界、報道機関、文化・教育機関、博物館関係者等で構成。

阿部和久 中日新聞社三重総局 総局長

衛紀生 可児市文化創造センター 館長兼劇場総監督

大西かおり NPO法人大杉谷自然学校 校長

岡野友彦 皇學館大学文学部 教授 皇學館大学研究開発推進センター長 佐川記念神道博物館館長

岸本多万重 NHK津放送局 局長

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問
 角川咲江 東近江市教育委員会歴史文化振興課 西堀榮三郎記念探検の殿堂 副主幹
 田部眞樹子 NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター 理事長 [副会長]
 中尾正己 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー 代表
 中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長
 西岡慶子 株式会社光機械製作所 代表取締役社長
 樋口巧 三重県小中学校長会幹事 尾鷲市立三木里小学校校長
 福島幸宏 京都府立総合資料館庶務課 新館担当兼歴史資料課行政文書担当 副主査
 山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役
 山田康彦 三重大学教育学部 教授 [会長] (敬称略：五十音順)

5) 協議会

①第1回 三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成27年7月31日(金)14時～17時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 阿部和久、岡野友彦、岸本多万重、齋藤彰一、角川咲江、田部眞樹子、中尾正己、
中村忠明、西岡慶子、樋口巧、山下治子、山田康彦
- 4 内容
 - 報告事項
 - (1)平成26年度の三重県総合博物館の活動と運営
 - 1)前回の協議会でご指摘いただいた課題
 - 2)入館者・展示観覧者・企業連携・広報の状況の概要
 - 3)展示アンケート結果概要
 - 検討・協議事項
 - (1)平成27年度事業と入館者確保につながる取組
 - 1)企画展の考え方と事業概要
 - 2)企業連携と広報の取組
 - 3)入館者の動向
 - (2)平成26年度評価結果と今後の改善視点
 - (3)第2期(平成29年度から)戦略目標の策定スケジュール
 - (4)その他博物館活動に対するご意見等
- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は9名

②第2回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成28年3月11日(金)14時～17時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 阿部和久、大西かおり、岡野友彦、岸本多万重、齋藤彰一、中尾正己、中村忠明、
西岡慶子、樋口巧、山下治子、山田康彦
- 4 内容
 - 報告事項
 - (1)平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画
 - 1)前回の議事でご指摘いただいた課題の対応状況
 - 2)企画展
 - 3)平成27年度の入館者・展示観覧者の概要およびアンケート結果

4) 平成28年度予算要求状況

協議事項

(1) 平成28年度の広報の考え方と計画

- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は6名

1.7 三重県総合博物館協議会評価部会

1) 目的

三重県総合博物館協議会に、三重県総合博物館の活動と運営に対して評価を実施するために設置。

2) 設置根拠

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱に基づき設置。

3) 設置年月日 平成26年9月5日(金)

4) 委員

- | | | | |
|------|------------------------|----------------|---------------------|
| 泰井良 | 静岡県立美術館 | 上席学芸員 | [副部会長] |
| 田原直樹 | 兵庫県立人と自然の博物館 | 次長 | |
| 中尾正己 | 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー代表 | 協議会委員 | |
| 山下治子 | 株式会社アム・プロモーション | 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役 | 協議会委員
(敬称略：五十音順) |
| | [部会長] | | |

5) 評価部会

①第1回三重県総合博物館協議会評価部会

- 1 日時 平成27年6月11日(木)13時～16時30分
- 2 会場 三重県総合博物館会議室
- 3 出席委員 亀山裕美子、泰井良、田原直樹、中尾正己、山下治子
- 4 内容
審議
 - 1) 内部評価結果の説明
 - 2) 各戦略の評価と今後に向けての改善点
 - 3) 活動と運営全体の評価
 - 4) 評価制度の改善点
- 5 会議の公開 会議は非公開で行った。

②第2回三重県総合博物館協議会評価部会

- 1 日時 平成28年2月4日(木)13時～16時30分
- 2 会場 三重県総合博物館会議室
- 3 出席委員 亀山裕美子、泰井良、田原直樹、中尾正己、山下治子
- 4 内容
審議
 - 1) 第2期戦略目標の方向性の説明
 - 2) 第1期1年目の各戦略目標の評価結果に対する改善の確認
- 5 会議の公開 会議は非公開で行った。

2 調査研究事業

2.1 研究概要

1) 事業の趣旨・目的

博物館の使命やビジョンを達成するため、調査研究方針に基づき、調査研究を推進し、その調査研究の

成果を、展示をはじめとする博物館の活用発信活動で紹介することによって、人づくりや地域づくりに貢献する。

2) 事業の概要

他の研究機関との連携のもと、多分野の研究領域による総合研究や共同研究、学芸員がそれぞれの専門領域の調査研究を行う専門研究、および公文書館機能として歴史的文化的資産の調査研究活動を行った。

(1) 総合研究

「三重の自然と歴史・文化」について、三重県総合博物館の使命を体現する活動として、地域づくりに貢献する課題を総合的にとらえて研究し、博物館の全学芸員と外部関係者とともに実施する。開館から当初3年間は、連携協定を結んでいる三重大学と連携し、志摩市域の先志摩半島地域を対象フィールドとして、地域の自然と歴史・文化について総合的な調査研究を実施する。その成果は、企画展示や移動展示、研究報告会、シンポジウムなどで発信し、地域づくりに活用できるように取り組むことを計画している。

- ・平成27年度は、対象の地域でフィールドワークを中心に調査を実施した。

(2) 共同研究

博物館のキラーコンテンツであるテーマや大学連携によるテーマなどを、外部の研究者とともに1年から数年間の期間で実施する。

主な実施内容：ミエゾウ化石の研究：三重の名前がついたミエゾウについては、これまでの研究成果に基づき平成26年度に企画展を開催した。

(3) 専門研究

博物館の学芸員が自らの高度な研究能力を維持していくために、専門となる自然や人文、総合分野において実施した。

布谷知夫：利用者の視点を生かした博物館運営の在り方

杉谷政樹：航空写真に記録された歴史痕跡の判読調査

北村淳一：タナゴ亜科魚類の生態と進化に関する研究

大島康宏：当館ミュージアムフィールドにおける昆虫類のトランセクト調査(全国科学博物館活動等助成事業(平成27年度))

間渕創：リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングに関する研究

間渕創：文化財等の保存・展示環境に関する調査・研究

間渕創：文化財等の材質・構造に関する科学的手法による調査・研究

中村千恵：展示観覧者の観覧行動に関する研究

中村千恵：こども体験展示室の運営に関する研究

(4) 歴史的文化的資産の調査研究

公文書館機能のための活動として、歴史的公文書をはじめとする歴史的文化的資産の調査及び関係データの収集・整備を行った。

3) 研究成果の刊行

- ・三重県総合博物館研究紀要 第2号
- ・三重県総合博物館資料叢書 No. 02(長井家文書 梶田家文書)
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第7回企画展
「あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第8回企画展
「SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第9回企画展「くらしの道具～いま・むかし～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第10回企画展

「国立公文書館共催 明治の日本と三重～近代日本の幕開けと鹿鳴館時代～」

・展示解説パンフレット

「SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～」(大人用/子ども用)

・展示解説パンフレット 「すばらしい三重の文化財Ⅰ うけつぐ、まもる、つたえる。」

・「南北の共存 東西の交流 三重県総合博物館展示案内」出版助成 公益財団法人日本生命財団

2.2 研究成果一覧

1) 発表論文等

Chiyomi Yamakawa, Dr.; Arata Momohara, Dr.; Takeshi Saito, Dr.; Tomoo Nunotani, Dr. 2015. Elsevier Editorial System(tm) for Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology Manuscript Draft,

布谷知夫. 2016. タンポポ調査の経過とタンポポ調査・2015三重県実行委員会の結果. 三重県総合博物館紀要, (2) : 69-79.

北村淳一・石井匠・野村太一・古野天琉・石井こころ・石井雅昭・野村佳世子・古野大・野呂啓史・樋口るり子. 2016. 三重県伊勢市の水路におけるヤリタナゴの産卵母貝利用. 三重県総合博物館研究紀要, 2 : 61-64.

古山歩・若林郁夫・北村淳一・神田育子・吉岡基. 2016. 三重県有滝海岸に死体で漂着したオガワコマッコウ *Kogia sima* の所見, 三重県総合博物館研究紀要, 2 : 81-86.

間潤創・佐藤嘉則, 2016. 博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の実用について. 保存科学, 55 : 103-113.

Itioka T, Takano KT, Kishimoto-Yamada K, Tzuchiya T, Ohshima Y, Katsuyama R, Yago M, Yata O, Nakagawa M, Nakashizuka T. 2015. Chronosequential changes in butterfly diversity during forest restoration after swidden cultivation in a humid tropical rainforest region in Borneo, *Journal of Forest Research*, 20:125-134

2) 著書・編著等

布谷知夫. 2015. 自然史系博物館 研究, ミュージアム・マネジメント学事典, 日本ミュージアムマネジメント学会事典編集委員会 : 214-217.

布谷知夫. 2015. 地域博物館. 人材・組織. ミュージアム・マネジメント学事典, 日本ミュージアムマネジメント学会事典編集委員会 : 90-93.

布谷知夫. 2015. 博物館教育の歩み. 博物館教育論 黒沢浩編著, 講談社サイエンティフィック : 10-17.

布谷知夫・高原光. 2015. 自然生態系. 京都府レッドデータブック2015. 地形・地質・自然生態系編, 京都府自然環境保全課:261-288.

布谷知夫・高原光. 2015. 自然生態系. 京都府レッドデータブック2015. 別冊, 京都府自然環境保全課:344-346.

布谷知夫・高原光. 2015. 京都府地域生態系リスト. 京都府レッドデータブック2015. 別冊, 京都府自然環境保全課:347-350.

布谷知夫. 2015. 地域生態系. 京都府レッドデータブック(普及版), 京都府177. 179-180.

布谷知夫・高原光. 2015. 地域生態系. 京都府レッドデータブック(普及版), 京都府 178

布谷知夫. 2015. 地域生態系 写真提供. 京都府レッドデータブック(普及版), 京都府 182-183.

大島康宏. 田脩編, 2015, 比較形態学にもとづくチョウの分類学的研究-イチモンジチョウ族の雌雄交尾器にもとづく分類を例に-. p. 145-152, 熱帯アジアのチョウ, 292pp. 北隆館, 東京.

中村千恵. 2015. アウトリーチ-博物館と地域をつなぐ 連携の視点から. 博物館教育論 黒沢浩編著, 講談社サイエンティフィック : 127-136.

門口実代. 2015. 普段着／晴れ着. 比較家族史学会編現代家族ペディア. 弘文堂 : 59-60.

3) 報告・研究ノート等

布谷知夫・中村千恵, 2015. 博物館で結婚式をする意義. 全日本博物館学会第41回研究大会発表要旨集, 45-46.

布谷知夫. 2015. 企業との連携に向けた博物館の戦略. 日本ミュージアム・マネジメント学会第20回記念大会会員研究発表要旨集, 日本ミュージアム・マネジメント学会. 東京家政学院. 30-31.

北村淳一・鈴木規慈. 2016. 三重県のカワバタモロコ *Hemigrammocypris rasborella* の現状と保全. 三重県総合博物館研究紀要, 2 : 61-64.

中野環. 2016. 高見吉太郎貝類コレクション. 三重県総合博物館研究紀要, 2 : 31-48

中野環. 2016. 三重県総合博物館所蔵 貝類コレクション—トウカムリガイ科—. 三重県総合博物館研究紀要, 2 : 49-59

大島康宏. 2015. 第7回企画展「あんな虫 こんな虫 そんな虫～身近な小さな生きものたち～」展覧会図録, 64pp. 三重県総合博物館開館, 津.

藤谷彰・岸田早苗・瀧川和也. 2016. 三重県総合博物館第10回企画展「国立公文書館共催 明治の日本と三重～近代日本の幕明けと鹿鳴館時代～」展覧会図録

門口実代・宇河雅之. 2015. 三重県総合博物館第9回企画展「くらしの道具～いま・むかし～」展覧会図録, 三重県総合博物館

門口実代. 2015. 博物館で結婚式をおこなう試み—企画展「ふたりのウェディング事情」と博物館ウェディング. 博物館研究566, 11-14

4) 普及的著作等

布谷知夫. 2015. 企業との連携に向けた博物館の戦略. 日本ミュージアムマネジメント学会会報20(3) : 11-12.

布谷知夫. 2015. 千地万造先生を偲ぶ. 地域自然史と保全, 関西自然保護機構 37(1)69-71.

布谷知夫. 2015. 絵画鑑賞と自然観察 自然観察のテーマ・108. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌 110, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.

布谷知夫. 2015. 自然観察と理科教育 自然観察のテーマ・109. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌 111, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.

布谷知夫. 2015. 暮らしの中の生物多様性 自然観察のテーマ・110. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌 112, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4

布谷知夫. 2016. 高槻市鶴殿のヨシ原について. 自然観察のテーマ・112. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌 114, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4

布谷知夫. 2016. 失敗した観察の記録 自然観察のテーマ 113. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会会誌 115, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.

布谷知夫. 2015. 生態系のしくみ. 自然観察から始まる自然保護(自然観察指導員講習会テキスト), NACS-J日本自然保護協会 : 39.

布谷知夫. 2015. 都市公園の改修計画 自然観察の素材. 自然観察から始まる自然保護(自然観察指導員講習会テキスト), NACS-J日本自然保護協会 : 110.

布谷知夫. 2015. 生態系の仕組み (コラム). 自然観察から始まる自然保護, 日本自然保護協会38-39.

布谷知夫. 2015. 暮らしの中の生物多様性. みえ第2期生物多様性推進プラン, 農林水産部森林緑地課:8.

布谷知夫. 2016. 三重県. タンポポ調査西日本2015調査報告書, タンポポ調査・西日本2015実行委員会.

布谷知夫・木村進. 2016. タンポポ調査の目的. タンポポ調査西日本2015調査報告書, タンポポ調査・西日本2015実行委員会.

布谷知夫. 2015. 博物館でウエディング. ミュゼ 111, アム・プロモーション:16-17.

布谷知夫. 2016. 企業と博物館との連携事業. ミュゼ 113:21.

布谷知夫. 2015. 秋の木の実 ミュージアム・フィールドだより. みえんしす 7, 三重県総合博物館:4.

布谷知夫. 2015. タンポポ調査へのご協力、ありがとうございます. みえむな人たち第6回 8. 三重県総合博物館ミュージアムパートナー通信:6.

布谷知夫. 2016. 博物館の新しい役割. 生涯学習ホーラム「社会教育施設を拠点とした人づくり・まちづくり」報告書, 滋賀大学社会連携研究センター・東近江市社会教育課

門口実代. 2015. 三重の魅力を凝縮して紹介する総合博物館 三重県総合博物館. まほら85. pp. 57-59

5) 招待講演・学会発表等

布谷知夫. 2015年5月29日. 三重県総合博物館における企業とのパートナーシップ事業, 文部科学省 寄付フォーラム～組織的・戦略的寄付募集に向けて～, 文部科学省. 九州大学伊都キャンパス椎木講堂【口頭発表】

布谷知夫. 2015年6月7日. 企業との連携に向けた博物館の戦略. 第20回日本ミュージアムマネジメント学会研究大会, 日本ミュージアムマネジメント学会. 日本家政学院大学【口頭発表】

布谷知夫. 2015年6月28日. 博物館で結婚式をする意義. 全日本博物館学会第41回研究委大会, 京都国立博物館【口頭発表】

布谷知夫. 2016年1月31日. ミュージアムと著作権(進行とまとめ). 日本ミュージアムマネジメント学会ミッションマネジメント研究部平成27年度第2回研究会, 国立国際美術館【進行とまとめ】

鈴木武・木村進・狩山俊悟・小川誠・布谷知夫. 2016年3月6日. タンポポ調査・西日本2015について. 植物分類学会富山大会【ポスター発表】

間潤創. 2015年7月16日. 博物館施設におけるカビ等のモニタリングとデータの活用. フォーラム:臭化メチル全廃から10年:文化財のIPMの現在, 東京文化財研究所.

古山歩, 若林郁夫, 北村淳一, 吉岡基, 2015年11月28日. 伊勢市有滝海岸に漂着したオガワコマッコウ (Kogia sima) について. 平成27年度日本動物学会中部支部大会, 三重大学, [発表]

北村淳一. 2016年2月20日. 三重県における地域と連携したタナゴ類の保全について. 平成27年度ミヤコタナゴ保全シンポジウム, 千葉県立中央博物館. [コーディネーター]

林寿樹, 北村淳一, 永野惇, 手塚あゆみ, 小北智之. 2016年3月22日. タナゴ亜科魚類における繁殖寄生と関連した卵形質の遺伝的分化. 第63回日本生態学会大会, 仙台国際センター, [発表]

中村千恵. 2015年11月28日. セッションII「さわる展示を創る—誰もが楽しめる博物館とは何か」. 公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアム論の新展開—展示・教育から観光・まちづくりまで」. 国立民族学博物館 第5セミナー室. [コーディネーター]

中村千恵. 2016年2月29日. 博学連携シンポジウム「大学の“学芸員養成”教育と博物館—文化の裾野を広げるために—」. 三重大学総合研究棟2 1階 メディアホール. [パネリスト]

大島康宏. 2016年3月28日. 三重県総合博物館の概要と第七回企画展「あんな虫 こんな虫 そんな虫～身近な小さな生きものたち～」について～. 日本昆虫学会 昆虫担当学芸員協議会. 大阪府立大学.

3 資料収集・保存

当館では、前身の三重県立博物館収蔵資料を引継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、基本展示室、企画展示等でこれらの資料を展示することを目的に資料を収集・保存している。

3.1 収蔵資料概要

〈自然分野〉 371, 559 点		
地学資料	17, 032点	化石(恐竜化石・ほ乳類化石等)、岩石標本、鉱物標本等
動物資料	243, 018点	ほ乳類、鳥類、昆虫類、魚類、両生類、は虫類、貝類、クモ類、カニ類、異尾類・棘皮類、海岸動物など形態：はく製、仮はく製、骨格標本、乾燥標本、液浸標本、含浸標本など ※飼育標本：特別天然記念物オオサンショウウオ 1匹
植物資料	118, 022点	サク葉標本(原色植物標本、海藻標本、シダ植物標本、裸子・被子植物標本)、植物レプリカ、樹脂標本
理工資料	25点	
〈人文分野〉 142, 130点		
考古資料	513点	古墳出土資料等
美術工芸資料	2, 750点	絵画書跡、版画(浮世絵ほか)、工芸品(陶磁器)、工芸品(武器・武具など)
歴史資料	63, 715点	古文書類、典籍・古記録類、絵図・地図類、貨幣、引札、絵はがきなど
民俗資料	5, 629点	衣食住関連、信仰関連、生業・生産関連、交通・運輸・通信関連、芸能・娯楽関連、社会生活関連、年中行事関連資料など
歴史的公文書	69, 523点	行政文書、絵図地図等、行政刊行物
計520, 227点		平成28年3月現在

3.2 資料収集

1) 資料購入

購入日	資料名・点数
平成27年 5月20日	・写真週報 1件 338点
平成27年12月 4日	・度会 15冊
平成28年 2月 3日	・伊勢松坂商人長谷川夜白旧蔵 枕草子春曙抄・伊勢物語新抄・平家物語・徒然草 1件 32冊
平成28年 2月26日	・九鬼守隆書状、内藤忠重書状
平成28年 2月27日	・デスモスチルス 白歯化石 1点
平成28年 3月29日	・展示用樹脂封入標本 カワバタモロコ・ゴクラクハゼ・アユカケ・タイリクバラタナゴ・ヌマチチブ・カレイ・シマヨシノボリ・アユ・カワヨシノボリ・モツゴ・ツチフキ・イソヘラムシ・アカザ・水生昆虫類・ニッポンバラタナゴ卵・アブラボテ卵・スゲンゼニタナゴ卵・イチモンジタナゴ卵・ヤリタナゴ卵・カゼトゲタナゴ卵・オタアジャクシ 21点

2) 資料寄贈

寄贈日	資料名	点数	内容	寄贈者
平成27年 4月 2日	坪内逍遥遺墨集	1点	『任興帖』(第一書房、1936年)	個人
平成27年 4月28日	嫁入り道具の袋	1点	明治30年代生まれの方が、寺院で和裁を習って製作し、嫁入り道具として持参したもの	個人
平成27年 5月26日	中西家戦時関係資料	1式359点	申請者の父親が応召・兵役に就かれた時の資料、及び昭和前半期の絵葉書・写真など	個人
平成27年 5月28日	伊賀焼	8点	伊賀市丸柱の土楽窯において、伝統工芸士・福森金吾氏が製作した伊賀焼	個人
平成27年 5月29日	イソオケ、大漁旗ほか	18点	エビ網漁を中心とした漁業と、海女漁で使用されてきた資料	個人

寄贈日	資料名	点数	内 容	寄贈者
平成27年 5月30日	箆笥、長持 ほか	1式一括3件・1組1件・2点	布団一式、おひなさま一式、湯単一式、座布団一組、箆笥、長持	個人
平成27年 5月31日	結納品一式、荷目録 ほか	1式2件・20点	結納品一式、荷目録、受書、荷受、目録、ほか	個人
平成27年 6月 1日	トウミ	1点	約40年前まで使用されていた道具	個人
平成27年 6月 6日	結納受書、荷目録 ほか	1式2件・10点	受書(昭和52年)、荷目録(昭和50年)、結納品一式、ほか	個人
平成27年 6月25日	学徒動員腕章、海軍志願兵受験参考書	2点	いずれも寄贈者が中学生の頃に使用したもの	個人
平成27年 7月 9日	軍隊手牒、写真アルバム	2点	太平洋戦争に出兵した際のアルバムと軍隊手牒	個人
平成27年 7月21日	三重県関係絵はがき	369点	多度大社・伊勢神宮・二見浦・鳥羽など、戦前の写真はがき	個人
平成27年 7月21日	四日市納屋町大入道写真、林崎二郎関係集合写真 ほか	14点	四日市納屋町大入道写真、林崎二郎関係集合写真、神前村高等科卒業生集合写真、ほか	個人
平成27年 8月7日	本はく製	1点	アオウミガメはく製	個人
平成27年 8月16日	本はく製	3点	イソヒヨドリ(雌雄)、アオバズクはく製	個人
平成27年 8月25日	頭骨標本	1点	チルウの頭骨と角鞘	個人
平成27年 8月26日	伊勢国大国荘絹送状、貞観五年九月民部省勘文案、伊賀国黒田杣所司等進状案	3点	大規模東寺領荘園大国荘と大国荘に隣接する土地について民部省が調査した結果を記した文書と、東大寺領荘園黒田荘に関する平安時代の文書。全て三重県指定文化財	個人
平成27年 9月1日	本はく製	1点	ニホンジカ頭骨はく製	個人
平成27年 9月5日	本はく製	1点	オオタカはく製	個人
平成27年 9月16日	さく葉標本	3,000点	三重県(東紀州地域)産を中心とした植物の乾燥標本	個人
平成27年 9月16日	ヒョウ毛皮、鉱物・化石等 ほか	8件	ヒョウ毛皮、トラ毛皮、化石標本(バレムナイト)、三重県内鉱物標本、ほか	個人
平成27年 9月19日	軍衣、木綿着物 ほか	36点	戦前の軍衣・軍装類、嫁入りの際に持参した木綿着物、ほか	個人
平成27年10月 8日	書道小学資料	1点	井野勿斎書 字源論 1幅	個人
平成27年10月 8日	水産科教授掛図	15点	三重出版社発行。打瀬網漁業ノ図、鰹釣漁業ノ図、など	個人
平成27年10月 9日	扇風機・ラジオ	2点	昭和時代の道具	個人
平成27年10月15日	明治期浮世絵	5点	ふすま等に貼られていたものか。東京名所之内浅草金龍山ノ図、東京名所上野公園清水堂花盛之眞景、ほか	個人
平成27年10月15日	朝熊岳より十八州一望之図・花の岩屋図	2点	伊勢国朝熊岳旅館十八亭ヨリ十八州一望之図(銅版単色刷)、花の岩屋図	個人
平成27年10月15日	製紙会社資料	50箱・3点	明治から昭和にかけての書類等の古紙41箱、松脂9箱、シャフト1台、消防ポンプ2台	団体
平成27年11月29日	刀・短刀・鐔	4点	銘 安定、ほか	個人
平成27年12月22日	本はく製	2点	ライオン、トラ	個人
平成27年12月23日	ビデオカメラ・ビデオ ほか	4点	昭和53年に発売された機材	個人
平成28年 1月 6日	毛皮標本	2点	トラ、ヒョウ	個人
平成28年 2月23日	液浸標本	16点	ニホンウサギコウモリ、ヒミズ、アブラコウモリ ほか	個人
平成28年 3月 3日	液浸標本	50点	ドジョウ、カワムツ、カワヨシノボリ ほか	個人

寄贈日	資料名	点数	内 容	寄贈者
平成28年 3月16日	教育用スライド	50点	旧大杉谷小学校で教材として使用されていたもの	団体
平成28年 3月18日	カ石関連資料	503点・1式一括	図書、ネガフィルム、ほか	個人
平成28年 3月18日	ろうじ・石うす・あられ切りの道具	7点	昭和の道具	個人
平成28年 3月18日	やぐらこたつ・こんにやく突き	2点	昭和の道具	個人

3.3 歴史的公文書の移管

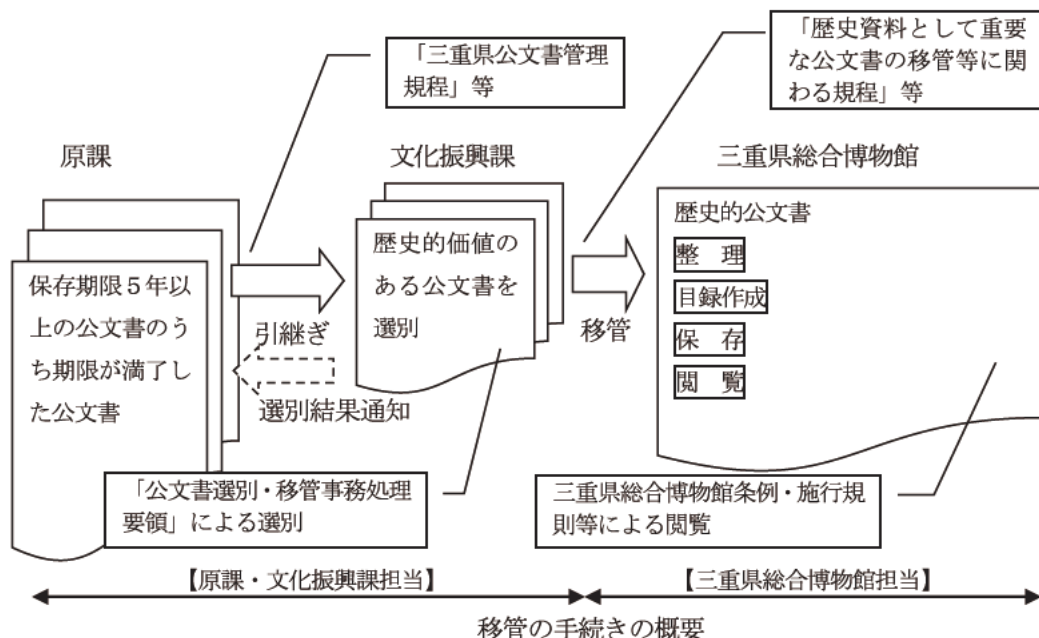
1) 当館における公文書館機能

- ① 県の歴史的公文書(原課で作成された期限満了の5年以上の公文書を文化振興課で選別し、総合博物館へ移管した公文書をいう)の受入・整理・修復・保存・閲覧・展示・調査研究
- ② 行政資料などの収集・保存・閲覧・展示・調査研究
- ③ 古文書などの収集保存・閲覧・展示・調査研究
- ④ 調査研究成果の発信(HP・研究紀要等刊行物の発刊)
- ⑤ レファレンスへの対応
- ⑥ 学習会・講演会・講習会等の開催
- ⑦ 歴史的公文書等の保存・活用のための市町等との連携など

※③～⑥は博物館機能でもある。①、②、⑦が公文書館独自機能

2) 歴史的公文書の移管の概要

保存期限5年以上の公文書のうち期限が満了した公文書は、原課から環境生活部文化振興課が引き継ぎ、当館アーキビストとともに評価選別が行われる。選別された歴史的公文書は、随時当館へ移管し、整理保存処置を行って公開閲覧に供している。



3) 歴史的公文書の移管数

平成27年度に文化振興課から移管された歴史的公文書及び図面は、下記のとおりである。

戦略企画部31冊、総務部2冊、健康福祉部4冊、環境生活部4冊、県土整備部15冊、地域連携部85冊、農林水産部10冊、雇用経済部12冊、議会事務局50冊、企業庁19冊、教育委員会事務局15冊、監査委員事務局2冊、労働委員会事務局4冊 合計 253冊 ほか県土整備部図面1,035点

3.4 資料保存

平成27年度資料燻蒸

当館では収蔵庫等の定期燻蒸は原則として行わず、目視点検で虫菌害の進行が疑われる、あるいは点検自体が困難である新規収蔵資料等について、収蔵庫搬入直前に殺虫処理を行う方針をとっている。原則として二酸化炭素処理による殺虫、又は酸化エチレンによる殺虫燻蒸(0.5%)を行い、明らかにカビ被害が発生・進行している場合には酸化エチレンによる殺菌燻蒸(1%)を行う。

平成27年度には二酸化炭素処理を1回、酸化エチレンによる殺虫処理を11回、殺菌処理を1回行った。

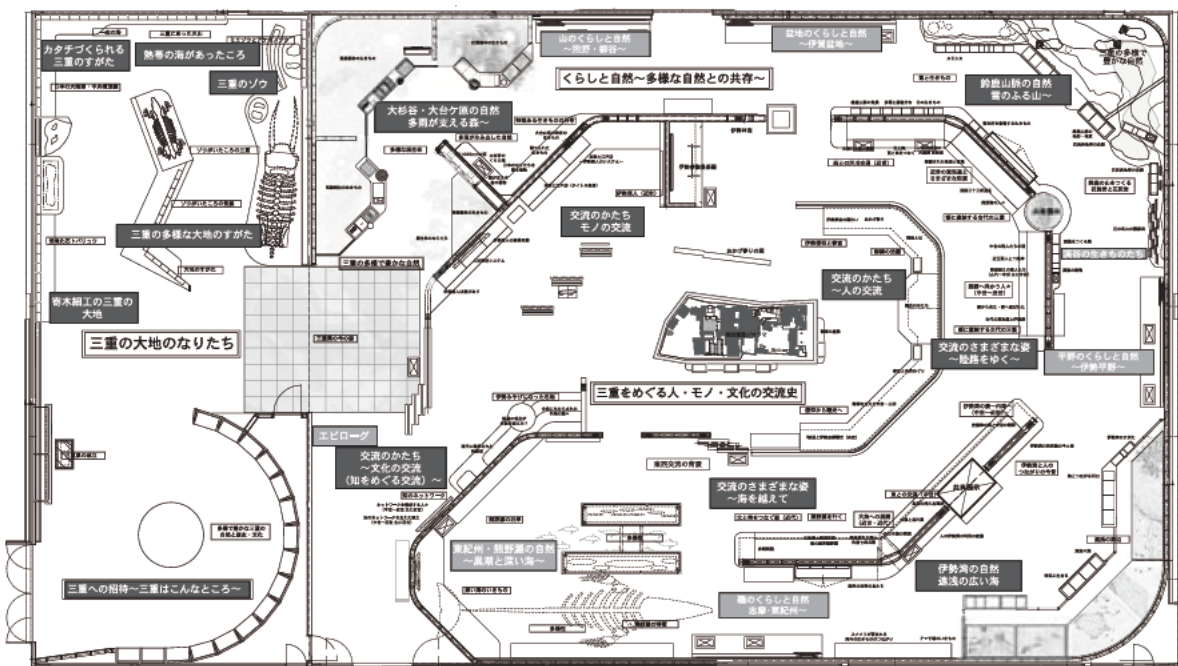
4 展示

4.1 基本展示

三重は、豊かな自然に恵まれ、その自然を生かしたくらしが営まれてきた土地である。また、古くからその交通の便の良さを活かし、全国から人々が行き交ってきたことから特有の歴史と文化を築きあげてきた。「基本展示室」と名付けた常設展示では、三重県がどんなところか、三重県の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で一体的に紹介している。まるで日本の縮図のように、南北の生物相と東西の文化が絡み合って形づくられている三重の特徴を、“三重がもつ「多様性の力」”をテーマとして、「大地のなりたち」「多様で豊かな自然」「三重をめぐる人・モノ・文化の交流史」「自然とともに生きる」の4つのコーナーで紹介している。展示をご覧いただいた方が、三重を知り、自分たちが暮らしている地域について考える場になるよう設定している。



基本展示室風景



基本展示室平面図

4.2 企画展示

4.2.1 企画展

1) 開館記念企画展 「第6弾・春季」 親鸞～高田本山専修寺の至宝～

【会 期】 3月21日(土・祝)～5月10日(日) <開催日数：44日 ※平成26年度からの継続展示>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館、真宗高田派本山専修寺

【後 援】 津市、津市教育委員会、三重県指定文化財等所有者連絡協議会、三重県博物館協会、朝日新聞社、伊勢新聞社、産経新聞社、中日新聞社、日本経済新聞社津支局、毎日新聞社、夕刊三重新聞社、読売新聞社、ケーブルコモンネット三重、CBCテレビ、中京テレビ放送(株)、三重テレビ放送、メ〜テレ、東海ラジオ放送、三重エフエム放送

【助 成】 公益財団法人岡田文化財団

【展示概要】 親鸞が直拝したといわれる一光三尊仏が一身田の本山で「御開扉」される「中開帳」の時期平成27年春にあわせて、多数の文化財を所蔵する専修寺を紹介する展示を実施した。専修寺には、「専修念仏」を推し進め、後の日本仏教界を大きく動かす思想を生み出した親鸞とその弟子が書き記した鎌倉時代以来の書物類が多く伝えられ、また、真宗高田派の寺々にも、親鸞とその弟子たちの足跡を示す品々が伝わる。鎌倉時代以来の歴史や美を伝えるこれらの品々を一挙公開し、親鸞の思想が三重県に伝えられ、現在にいたる姿を通史的にも概観できるようにした。

(主な資料)

[国宝] 親鸞直弟本 西方指南抄、親鸞筆 西方指南抄、親鸞・真仏筆 三帖和讃

[重要文化財] 慈円書状、親鸞筆 晨旦国十四代、親鸞筆 数名目と十悪、親鸞筆 曇摩伽菩薩云々、真仏書写 顕浄土真実教行証文類、歌仙像、真仏書写 六角堂夢想偈文、真仏書写 顕浄土真実教行証文類など

展示資料点数 410点

【観 覧 料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 15,301人(うち高校生以下：3,991人)※平成27年度 開館日数35日間

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
ギャラリートーク	4月 5日(日)	企画展示室	45	当館職員 太田光俊
	4月18日(土)		55	
	5月 4日(月・祝)		62	
連続講座①「初期真宗の成立と展開」	4月12日(日)	レクチャールーム	62	西岡芳文(神奈川県立金沢文庫学芸課長)
連続講座②「親鸞の念仏と真宗の本尊」	4月19日(日)		74	津田徹英(東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長)
連続講座③「高田本山の法宝物の魅力」	5月 3日(日・祝)		67	新 光晴(高田本山専修寺宝物館主幹)
仏像の話「一光三尊仏について」	4月29日(水・祝)	レクチャールーム	56	当館職員 瀧川和也
親鸞展の概要と新たな発見	6月14日(日)	レクチャールーム	20	当館職員 太田光俊
	6月19日(金)		20	
	6月20日(土)		15	
	6月21日(日)		9	
計			485	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版114頁)

【担当】 太田光俊、滝川和也



展示風景(入口)



B2ポスター

2) 第7回企画展 あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～

【会期】 7月11日(土)～8月30日(日) <開催日数：44日>

【会場】 企画展示室(800㎡)、交流展示室(200㎡)

【主催】 三重県総合博物館

【後援】 三重県博物館協会

【展示概要】 多様な形態、生態をもつ既知生物中最大種数を擁す昆虫類を紹介するため、莫大な数の昆虫資料を展示し、来館者にインパクトを与えた。東海地方初の展示を含む近年の話題性のある研究を紹介したほか、博物館が昆虫標本を集める理由について、寄贈資料を活用して展示し、博物館で得た昆虫資料がどのように整理され、活用されていくかを、標本の作り方も含めて紹介した。また県内で昆虫調査や保護活動、普及教育活動している団体を紹介し、博物館が市民団体と共に活動していることにも触れた。

(主な資料)

三重県総合博物館所蔵の昆虫標本資料を中心に展示。世界最大になるチョウ「アレキサンドラトリバネアゲハ」(三重県初)や、当館で収蔵する三重県最古(明治39年)の昆虫標本(初展示)、昆虫化石、旧おおみや昆虫館寄贈標本、大川親雄氏寄贈昆虫コレクション、中島悦雄氏寄贈チョウ類コレクション、昆虫の生体(東海地方初含む)ほか。

資料点数約65,000点(国内最大規模)。

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 25,807人(うち高校生以下：12,615人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
プレ企画「昆虫ぬり絵」	5月6日(水・祝)	学習交流スペース	53	当館職員 大島康宏 当館職員 大西 到
講演会「私の見た世界の不思議な昆虫」	7月12日(日)	総合文化センター中ホール	620	今森光彦(写真家) 当館職員 大島康宏
学芸員フリートーク「虫をじっくり見てみよう」	7月18日(土)	レクチャールーム	63	当館職員 大島康宏
ギャラリートーク	7月25日(土)	企画展示室・交流展示室	50	当館職員 大島康宏
	8月14日(金)		60	
わくわくワークショップ	8月2日(日)	学習交流スペース	108	当館職員 稲垣玲弥

パラタクソノミスト (準昆虫分類学者養成) 講座	8月 8日(土) ・ 9日(日)	実習室	17組 23	大原昌宏 (北海道大学) 澤田義弘 (箕面公園昆虫館)
親子で昆虫標本づくりにチャレンジ!	8月16日(日) ・ 22日(土)	実習室	11組 30	当館職員 大島康宏
標本の名前を調べてみよう (同定会)	8月23日(日)	レクチャールーム	48	当館職員、外部講師
計			1,055	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、

【担当】 大島康弘、森田奈菜



展示風景



B2ポスター

3) 第8回 企画展 SUSUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～

【会期】 9月19日(土)～11月15日(日) <開催日数: 50日>

【会場】 企画展示室(800㎡)

【主催】 三重県総合博物館

【特別協力】 本田技研工業株式会社、鈴鹿サーキット

【協力】 鈴鹿市、伊勢フライング・ヴィーナスクラブ、株式会社NIPPO

【後援】 三重県博物館協会

【展示概要】 日本初の本格的なレーシングコースであり、現在、日本で唯一のF1グランプリの舞台である鈴鹿サーキットと、1964年以降、世界最高峰のレースに挑み続けてきたホンダのF1への挑戦の歴史を中心に紹介した。さらに、その背景にある技術革新への取組や、世界中のモータースポーツファンだけでなく子どもたちの夢を育み続ける鈴鹿サーキットの姿を通じて、夢がもつ力、挑戦することの素晴らしさなどを発信した。

(主な資料)

世界の舞台で輝かしい成績を収めてきた6台の歴史的なF1マシンをはじめ、F1ドライバーが着用したウェアやヘルメット、トロフィーや当時のポスターなどを展示した。

※6台のF1マシンは、クレーンにて、展示作業室大型資料搬入扉より搬入した。

展示資料点数約130点

【観覧料】 一般1,000円、大学生600円、高校生以下無料

【観覧者数】 24,222人(うち高校生以下: 8,729人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
プレ企画 「くるまであそぼう」	5月 5日(火・祝)	学習交流スペース	52	当館職員 瀧川和也 当館職員 大西 到
プレス発表会	9月 4日(金)	三重テラス	15	森脇基恭 (F1解説者、 ノバエンジニアリング取 締役) 当館職員 瀧川和也
ギャラリートーク	9月19日(土)午前	企画展示室	30	当館職員 瀧川和也
	9月19日(土)午後		35	当館職員 瀧川和也
	11月15日(日)午前		38	当館職員 大西 到
	11月15日(日)午後		48	当館職員 瀧川和也
レーシングドライバー 佐藤琢磨選手 トークショー	9月21日(月・祝)	総合文化センター 中ホール	700	佐藤琢磨 (レーシング ドライバー) 司会: ピ エール北川
ダンボールクラフト でF1をつくろう	9月22日(火・祝)	レクチャールーム	125	本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所 社会活動推 進センター職員
ワークショップ 「くるまであそぼう」	10月 4日(日)	学習交流スペース	82	当館職員 稲垣玲弥 当館職員 大西 到
	10月12日(月・祝)		70	
	10月25日(日)		133	
	11月 8日(日)		131	
F1解説者 森脇基恭氏講演会	11月 8日(日)	レクチャールーム	66	森脇基恭 (F1解説者、 ノバエンジニアリング取 締役)
計			1,525	

【刊行物】 ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、展示図録(A4判64頁)、展示資料一覧(A3判二つ折り)、
子ども用解説シート(A3判二つ折り)、子ども用ステッカー

【担 当】 瀧川和也



展示風景



B2ポスター

4) 第9回 企画展 くらしの道具～いま・むかし～

【会 期】 12月12日(土)～平成28年1月24日(日) <開催日数: 32日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【後 援】 三重県博物館協会

【協 力】 芸術文化振興基金

【展示概要】 おもに昭和のはじめ頃から現代にかけて、くらしのなかで身近に使われてきた道具を紹介した。家のなかで使用されてきた道具について、台所・居間・寝室・便所と、使われる場所ごとに展示した後、田んぼや畑など、家の外でおこなわれる農作業の道具に焦点を当てた。農具の展示は、ミュージアム・パートナー民俗グループのみなさんとともに準備を進め、説明のイラストを交えるなどの工夫をした。本展は、小学校3・4年生が社会科で学習する“昔の道具”にあわせた内容でもあり、社会科見学等でもご利用いただいた。

(主な資料)

湯たんぼ、洗濯板、かつお節削り器、七輪、改良かまど、羽釜、石うす、ちゃぶ台、氷冷蔵庫、洗濯機、衣桁、炭火アイロン、豆炭行火、火鉢、伊勢賽木、蓄音機、階段箆筒、蚊帳、すすきぼうし (再現)、縄ない機ほか

展示資料点数約300点

【観覧料】 一般500円、大学生300円、高校生以下無料

【観覧者数】 6,839人 (うち高校生以下: 2,774人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
講演会『『昔のくらし探検』を展示して11年』	12月19日(土)	レクチャールーム	35	青木俊也(松戸市立博物館学芸員)
ギャラリートーク	12月13日(日)	企画展示室	30	当館職員 門口実代
	平成28年 1月17日(日)		23	
わくわくワークショップ～昔の道具を使ってみよう～	平成28年 1月10日(日)	実習室	243	当館職員 門口実代 ミュージアム・パートナー 民俗グループのみなさん
	計		331	

【刊行物】 ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、
展示図録(A4判64頁)

【担当】 門口実代



展示風景



B2ポスター

5) 第10回企画展 国立公文書館共催 明治の日本と三重～近代日本の幕明けと鹿鳴館時代～

- 【会 期】 2月6日(土)～3月21日(月・振休) <開催日数：39日>
 【会 場】 企画展示室(600㎡)
 【主 催】 三重県総合博物館
 【後 援】 三重県博物館協会、三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク(みえ歴史ネット)
 【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団

【展示概要】 近代国家建設に向けての明治政府の取組や明治前期の日本のあゆみを三重県の歴史を織り交ぜながら、国立公文書館所蔵資料を用いて展示をした。また、明治16(1883)年から20年にかけての鹿鳴館時代の様子がわかる鹿鳴館の階段などの実物を展示した。さらに、当館所蔵の県指定有形文化財「三重県行政文書」中の絵図や地図、歴史的公文書を紹介するとともに、近代における三重県と町・村の成立の様相、地租改正反対一揆や博覧会に関連する資料を展示した。そして、当館が公文書館機能を有した博物館であることを知らせるため、公文書館機能や歴史的公文書について紹介した。

(主な資料)

公文録[重要文化財]、大日本帝国憲法(複製)、教育勅語(複製) 鹿鳴館階段、椅子、城郭図、地籍図、廻状、布達、町村合併関係資料、地租関係反対一揆資料、内国勸業博覧会資料など

展示資料点数159点

【観 覧 料】 一般600円 大学生360円 高校生以下無料

【観覧者数】 4,877人(うち高校生以下：1,455人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	2月 7日(日)	企画展示室	40	当館職員 藤谷 彰
	3月 5日(土)		25	
講演会「明治前半期の政治・行政と東海大一揆」	2月14日(日)	レクチャールーム	61	茂木陽一 (三重短期大学 教授)
明治の衣装を着てみよう	2月11日(木・祝)	交流活動室	25	当館職員 中村千恵・ 田村香里・伊藤泉子・ 藤谷 彰
	2月21日(日)		29	
計			180	

【刊 行 物】 ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、
 こども向け解説シート(A4判)、展示資料一覧(A4判)、
 展示図録(A4判62頁)

【担 当】 藤谷 彰



展示風景



B2ポスター

4.2.2 交流展

県民・利用者のみなさんや諸団体など、さまざまな主体と連携して交流展を行った。

1) 交流展示 荘厳と静寂の回廊

会 期	3月28日(土)～5月10日(日) <開催日数：38日※平成26年度からの継続展示>
会 場	交流展示室 (200㎡)
主 催	真宗高田派本山専修寺
内 容	企画展「親鸞～高田本山専修寺の至宝」にあわせて、高田本山の色とりどりの四季を収めた写真の展示、大型モニターによる画像展示、巨大な高田本山の立華（生け花の一種）の実物を展示した。
主な資料	高田本山の四季の写真パネル、立華など
観覧者数	11,810人 ※平成27年度開館日数35日
担 当 者	太田光俊



展示風景(入口)



展示風景

2) 交流展 写真展・三重を彩る花々～藤原・御在所・朝熊の花～

会 期	5月16日(土)～5月31日(日) <開催日数：14日>
会 場	交流展示室 (200㎡)
主 催	三重県総合博物館、三重県総合博物館ミュージアム・パートナー
内 容	三重は南北に長く、多様な植物をみることができる。中でも石灰岩の藤原岳、花崗岩の御在所山、蛇紋岩の朝熊ヶ岳は、特徴的な植物をみることができる山として、古くから知られてきた。今回の写真展では、多様な植物の生息地での姿を、ミュージアム・パートナー個人会員の写真を、館蔵資料とともに紹介した。
主な資料	藤原岳・御在所山・朝熊ヶ岳の植物写真など
観覧者数	1,838人
担 当 者	松本 功



展示風景



B2ポスター

3) 交流展示 関口照生写真展 「地球の笑顔」

会 期	5月23日(土)～6月14日(日) <開催日数:20日>			
会 場	企画展示室(700㎡)			
主 催	株式会社メディカルー光、三重県総合博物館			
内 容	本展では世界における自然環境と密接に関わる文化・暮らしについて、写真家の関口照生氏の作品を通じて紹介した。			
主な資料	関口氏が世界中を旅して撮影した人々の写真作品112点			
観覧者数	5,231人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
写真家 関口照生 トークショー	5月23日(土)	レクチャールーム	86	関口照生(写真家)
出張図書館	5月23日(土)	学習交流スペース	40	三重県立図書館職員
	計		126	
担 当	天野秀昭・間瀬 創			



展示風景



B2ポスター

4) 交流展 “生きる” の入り口～歯の博物館

(三重県歯科医師会・三重県総合博物館連携交流展示第20回三重県歯科保健大会記念特別企画)

会 期	11月3日(火・祝)～11月15日(日) <開催日数：12日>			
会 場	企画展示室(200㎡)			
主 催	三重県歯科医師会、三重県総合博物館			
内 容	三重県歯科保健大会20周年を記念し、三重県歯科医師会と連携して歯の進化や歴史・風俗、歯科医学、食育まで、歯にまつわるさまざまなことがらを幅広く紹介した。 《展示構成》 プロローグ 歯は何本あるか知っていますか？ (1) 生きものの歯の不思議～歯の進化の物語～ (2) 歯の今昔物語 (3) 大切な歯 エピローグ めざそう8020！のぼそう健康寿命			
主な資料	人間の歯の拡大模型、恐竜、ワニ、ミエゾウの歯化石、お歯黒道具、抜歯器具、義歯、歯科治療器具、歯模型、卑弥呼～現代の復元食など			
観覧者数	4,831人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
歯科医師会・歯科衛生士会によるキッズ歯科職業体験	11月 3日(火・祝)	実習室	99	三重県歯科医師会 三重県歯科衛生士会
歯科医師会・歯科衛生士会によるキッズ白衣で記念撮影	11月 3日(火・祝)	交流活動室	104	三重県歯科医師会 三重県歯科衛生士会
ギャラリートーク	11月 3日(火・祝)	交流展示室	80	三重県歯科医師会 当館職員 中川良平 当館職員 天野秀昭
(公財)ライオン歯科衛生研究所の歯科衛生士による体験学習	11月 7日(土)	交流活動室	65	(公財)ライオン歯科衛生研究所
最新の機械が作り出す白い歯の世界	11月 7日(土)	交流展示室	随時	(株)モリタ
計			348	
担 当	中川良平・天野秀昭			



展示風景



B2ポスター

5) 交流展 三重のまちかど博物館～技～

会 期	12月1日(火)～12月20日(日) <開催日数：18日>			
会 場	企画展示室(200㎡)、交流展示室(200㎡)			
主 催	「三重のまちかど博物館」実行委員会、三重県総合博物館			
後 援	三重県博物館協会			
内 容	三重県は、全国的にみてもまちかど博物館の活動が盛んな地域である。昨年は県内の各地域のまちかど博物館が集り展覧会を行った。そこでは、それぞれの地域のまちかど博物館が独自の資料を持ち寄り、地域独自の展示を行い多くの方にまちかど博物館の魅力を発信することができた。そこで今年も「三重のまちかど博物館」を行うことを通して、三重県のまちかど博物館をより深く知っていただくとともに、展示を見ていただいた来館者が、次に現地のまちかど博物館に来館していただけるきっかけとしたい。			
主な資料	各まちかど博物館の資料など			
観覧者数	3,219人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
優しくみひもアクセサリー	12月 5日(土)	交流展示室	10	華芳和装塾
シャドーボックス体験教室	12月 5日(土)	交流展示室	5	アーツアンドクラフト
さをり織り体験	12月 6日(日)	交流展示室	108	さをり織り 工房ゆう
	12月13日(日)			
	12月20日(日)			
ストローで作る竹とんぼ	12月 6日(日)	交流展示室	243	竹とんぼの館
	12月12日(土)			
	12月13日(日)			
	12月19日(土)			
	12月20日(日)			
ガラス瓶へのガラスアート	12月 6日(日)	交流展示室	108	ガラスアート教室 アトリエkako
『書と消しゴムはんこ』の年賀状作り	12月 6日(日)	交流展示室	19	紅萌書庵
	12月13日(日)			
竹筆作り	12月 6日(日)	交流展示室	7	竹茗舎
紙と鉄のみで生き生きとした昆虫の作成	12月 6日(日)	交流展示室	30	紙の昆虫館
ちりめん紙の作成過程の実演及び体験	12月 6日(日)	交流展示室	7	参宮ブランド擬革紙の会
Myぐい呑み・湯呑みを作ろう	12月 6日(日)	交流展示室	16	春夏秋冬
	12月13日(日)			
小物に可愛くガラスアート	12月12日(土)	交流展示室	14	生活色彩「ガラスアート」
演歌の館アコーディオンコンサート	12月12日(土)	交流展示室	105	峯サウンドオフィス 演歌の館
	12月20日(日)			
花まつかさ	12月13日(日)	交流展示室	55	流工房「創作盆景」
糸車を回して糸を紡ごう	12月13日(日)	交流展示室	中止	糸と織物博物館
裂き織り体験	12月13日(日)	交流展示室	4	裂き織り工房さっこり
計			731	
担 当	大西 到			



展示風景



A4チラシ(表面)

6) 交流展 すばらしい三重の文化財Ⅰ 「うけつぐ、まもる、つたえる。」

会 期	平成28年1月9日(土)～1月24日(日) <開催日数：14日>			
会 場	企画展示室(200㎡)			
主 催	三重県総合博物館、三重県指定文化財等所有者連絡協議会			
内 容	三重県指定文化財等所有者連絡協議会と連携し、三重県内の個人・団体の所有する指定文化財の公開・活用を行った。博物館と文化財等所有者は共通して、過去から受け継いだ文化財を、大切に守り、また未来へ伝える役割を担っていることをテーマとした。			
主な資料	曾我蕭白筆唐獅子図、多度大社銅鏡、伊奈富神社男神坐像(いずれも重要文化財)など9件74点			
観覧者数	3,527人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	1月11日(月・祝)	企画展示室	46	石神教親(桑名市) 当館職員 岸田早苗 当館職員 瀧川和也
担 当	間 潤 創・瀧川和也・岸田早苗			



展示風景



A4チラシ(表面)

7) 交流展 よみがえる昭和の津のまち展

会 期	1月13日(水)～2月7日(日)＜開催日数：23日＞			
会 場	交流展示室(200㎡)			
共 催	津文化協会			
後 援	津市、津市教育委員会、三重大学、三重県生涯学習センター、三重県博物館協会			
助 成	公益財団法人岡三加藤文化振興財団(津文化協会)			
開催趣旨	戦前の津城下町の景観は、70年前の激しい空襲で消え去ってしまったが、当時を知る市民には、今もなお鮮やかな記憶が残っている。また、市民が受け継いできた大切な思い出の写真や地図などの資料も残っている。津文化協会では、戦前の津のまちを思い出して絵を描いていただいたり、思い出していただいたことを聞き取り、それを基に画家が絵を作成したり、資料を読み解いて、昭和10年代の津城下町の景観を復元する取り組みを続けている。それは、ひとりひとりの記憶を、市民が共有できる記録に変え、継承していきたいという思いからの取り組みである。この取り組みの集大成として昭和の津のまちを絵や映像・市街復元図などで紹介した。			
展示内容と主な資料	<p>本展は、平成23年11月開催の博学連携シンポジウム「三重の近代史から地域の明日を探る」を契機に、津文化協会が平成24年度から継続されてきた戦前の津市を知る人々の記憶の聞き取りや、写真や地図などの資料調査に基づく昭和10年代の津の景観を絵画等で復元する取り組みの成果を中心に紹介した。</p> <p>第1章 よみがえる町並 「武家屋敷町並み」「万町商店街」「堀川三態」「広小路町並み」「大門街町並み」「京口町の岡三証券」「京口町まつり」「日本基督教団津教会」等の絵画 「大門商店街」「京口町・立町商店街」「津観音境内の津享楽キネマと大宝院山」「岩田橋北詰差点と百五銀行本店ビル」等の古写真パネル</p> <p>第2章 津文化協会の取り組み 聞き取り風景・聞き取りメモ・ラフスケッチ等のパネル</p> <p>第3章 地図で見る津の町並 「昭和10年代の津市中心市街航空写真」「昭和10年代の津市中心部市街詳細」「津市を中心とする名所交通鳥瞰図(パネル)」「水屋筆筒」「蓄音機」等</p> <p>第4章 半泥子の千歳山 「千歳山略絵図(パネル)」、千歳山山荘洋館等の写真等</p>			
観覧者数	3,832人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
講演会「昭和戦前の津の暮らしと住まい」	1月30日(土)	レクチャールーム	134	三重大学教授 菅原洋一
刊行物	チラシ(A4判)、展示リーフレット(A4判4頁、津文化協会作成)			
担 当	杉谷政樹・瀧川和也			



展示風景



A4チラシ(表面)

8) 交流展 伊勢型紙技術保存会25周年記念 伊勢志摩サミット特別企画 伊勢型紙 JAPAN BLUE展

会 期	3月10日(木)～3月21日(月・振休)＜開催日数：11日＞			
会 場	交流展示室(200㎡)			
主 催	国認定重要無形文化財保持団体 伊勢型紙技術保存会			
共 催	三重県総合博物館			
後 援	三重県、三重県教育委員会、鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会、NHK津放送局			
協 力	河内長野市立ふるさと歴史学習館(くろまる館) 有限会社石塚染工、蛙印染色工芸株式会社			
開催趣旨	起源が古代に遡るともいわれる藍染めは、江戸時代、木綿の普及とともに夜着や蒲団などに用いられ、庶民の生活に定着した。その染めには、伊勢型紙が多用されたことから両者のつながりは深く、それぞれの文化に大きな影響を及ぼした。今回の展示では、伊勢志摩の豊かな海をイメージする長板中形や中形の型紙をはじめ、藍染めの図案、染め道具類の紹介とともに、彫刻および染色の実演をとおして、彫刻と染め、両伝統の技の魅力を広く発信した。			
展示内容と主な資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染に使用された古代型紙と現代の型紙 ・ 長板中形の型紙 ・ 手拭いの型紙と図案 ・ 染付摺絵 ・ 型染着物地・はぎれ・夜具・風呂敷 ・ 保存会平成26年度伝承事業の復刻作品 			
観覧者数	3,719人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
彫刻実演	3月12日(土)、13日(日)、19日(土)、20日(日)	交流展示室	随時	伊勢型紙技術保存会会員
染色実演	3月12日(土)、13日(日)	交流展示室	随時	有限会社石塚染工
藍染実演	3月19日(土)、20日(日)	交流展示室	随時	蛙印染色工芸株式会社
刊行物	チラシ(A4判)、ポスター(B3判)			
担 当	岸田早苗			



展示風景



A4チラシ(表面)

4.2.3 トピック展

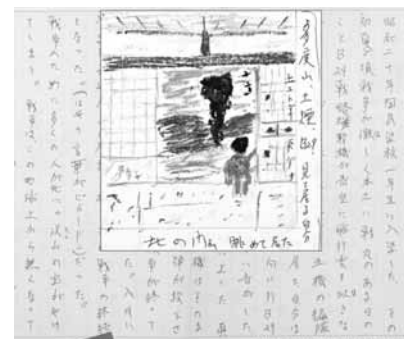
話題性のある小規模な展示を当館主催で開催した。

1) 戦後70周年記念 みんなの近くにも戦争のキズあとがある～1945 平和がこわれていた頃の記憶～

会 期	6月6日(土)～6月28日(日) <開催日数：20日>				
会 場	交流展示室(200㎡)				
主 催	三重県総合博物館、三重県				
後 援	三重県博物館協会				
協 力	三重県遺族会、桑名市教育委員会、津市教育委員会、名張市教育委員会、三重県埋蔵文化財センター、三重県環境生活部県史編さん班、個人				
内 容	<p>太平洋戦争末期には、本土空襲が激化し、国内全土が焼け野原になり、多くの方々が犠牲となった。特に1945年6月から7月にかけての空襲では、三重県内でも6500人以上の方が亡くなった。特に、津、四日市、桑名、宇治山田は被害が多く、市街地のほとんどが焦土と化した。平和なくらしが失われ、死ととなりあわせの日々が続いていたあの頃から70年の歳月が経過した現在、戦争のあとを目にしたたり、戦争を実体験された方々からお話を聞く機会は少なくなってきているが、今もなお、身近なところにも戦争のキズあととは深く残っている。戦後70周年を迎えるにあたり、県内各所に残る戦争遺跡や戦争中のくらしなどについて紹介し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えるきっかけとした。</p> <p>第1章 みんなの近くにも戦争のキズあとがある 現在、三重県総合博物館(MieMu)が所在する津市一身田上津部田にも、空襲の爪痕が残っている。三重県内ではどのような被害があったか、地図・写真パネルなどにより紹介した。</p> <p>第2章 戦争中のくらし～どうしてこうなったの?～ 戦争中、人々はどのようにくらししていたのだろうか?さまざまなくらしの道具などから紹介した。</p> <p>第3章 戦争のあと～平和をとりもどす～ 多くの被害を受けた日本・三重がどのように平和をとりもどそうとしていったか、復興への取組を紹介した。</p>				
主な資料	空襲で焼け野原になった当時の市町の様子(太田金典氏撮影写真パネル)、戦争遺跡パネル、被弾ピアノ、防空頭巾、防毒マスクなど戦時中のくらしの道具や衣装など約200点				
観覧者数	5,474人				
関連事業					
	行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
	戦争があったころって、どんなご飯だったのかな?	6月14日(日)	交流活動室	23	北村美香(元滋賀県立平和祈念館学芸員)
	戦争があったころの学校の宿題イナゴ捕りぶくろをつくらう!	6月21日(日)	交流活動室	15	北村美香(元滋賀県立平和祈念館学芸員)
	計			38	
刊行物	チラシ(A4判)				
担 当	岸田早苗・水谷憲二				



展示風景



トピック展

戦後70周年記念事業

みんなの近くにも戦争のキズあとがある
 ～1945 平和がこわれていた頃の記憶～

2015年
6月6日(土)～6月28日(日)

1階展示室 9:00～17:00(入館最終受付) 休館日 6月14日(日)
 ※7月1日(木)～4月10日(日) 3階 三重県埋蔵文化財センターで併設して展示します。

【会場】 三重県総合博物館 MieMu 2階 交流展示室
 【主催】 三重県総合博物館 三重県
 【後援】 三重県博物館協会

MieMu

A4チラシ(表面)

4.3 こども体験展示室

こども体験展示室は小さな子どもでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学びを得られる展示室である。展示室の中は、やってみるコーナー、しらべるコーナー、つたえるコーナー、未就学児コーナーの4つのコーナーにわかれており、それぞれの場所で子どもたちが自ら展示を探してみつけ、興味をもったものをしらべ、発見したことを発表できる。この一連の流れは博物館の学芸員の仕事の調査・研究・展示発表と同じであり、その体験ができるようになっている。

平成27年度は、新春イベントとして「MieMuでサルをさがそう！」を平成28年1月5日(火)～31日(日)の期間に実施した。内容は、平成28年の干支であるサルに関する資料を館内の無料スペースで探してもらうものである。こども体験展示室のほかに、三重の実物図鑑、エントランスホールなどに資料を展示した。

1) やってみるコーナー

三重県の身近な自然や文化を海、川、山、地面、町、家という6つの場所ごとに展示している。また立体的な構造をしているため、実際に自然の中で生物を探しているかのように楽しみながら発見することができる。ハンズ・オン展示を取り入れており、展示物に触ってみたり、音を聞いたりすることができる。

2) しらべるコーナー

やってみるコーナーでみつけたもの、興味をもったものについて図鑑などで調べることができる。引き出しには『なにこれボックス』があり、中には体験しながら学べるキットが入っている。

平成27年度は、第7回企画展「あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～」の期間中になにこれボックスの一部を展示にあわせた内容のものに変更した。

3) つたえるコーナー

やってみるコーナーでみつけたこと、しらべるコーナーでわかったことを紙に書いて友達に伝えて共有することができる。展示ケースには子どもたちがみつけたものや、つくった作品などを展示し、定期的に更新する。

4) 未就学児コーナー

未就学児でも親子で安心して博物館を楽しめるように、やわらかいクッションを使ったスペースで絵本を読むことができる。本棚の一部には中に入れる場所があり、絵本は普通のおはなしだけでなく博物館や三重に関連したものも用意している。

4.4 三重の実物図鑑

昆虫や植物、動物、伝統工芸品など三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を、図鑑のようにじっくりと間近で見ることができる展示室。

1) 自然分野

自然に関する資料は、図鑑のような分類展示を意識し、動物、植物、岩石・鉱物、化石ごとに展示している。動植物においては、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、その他貝類や甲殻類などの無脊椎動物、植物ごとにコーナーを分けて展示している。さらに剥製、樹脂封入標本、乾燥標本、樹脂含浸標本、さく葉標本といった異なる保存技術の標本を、その技術の特徴を紹介しながら展示している。化石については、化石の時代ごとに展示している。岩石については、堆積岩、火成岩、変成岩の岩石分類に、さらに川原の石は河川ごとに展示している。鉱物については、ケイ酸塩鉱物、元素鉱物など化学成分ごとに分類して展示している。

映像やグラフィック、触れる標本など、生物の生態を伝える展示手法を加えて、身近な三重の魅力を再発見できるよう展示している。

平成27年度は、常設の展示に加えて、次の取組を行った。

【昆虫】平成26年度から引き続き実施した県民参加型事業「みんなでつくろう！ミュージアムフィー

ルドの実物昆虫図鑑」(一般財団法人全国科学博物館振興財団 平成27年度全国科学博物館活動等助成事業の助成により実施)で行った調査結果を月ごとに展示することで、来館者に対し身近に生息する昆虫類をタイムリーに紹介したほか、博物館と県民との共同活動をアピールした。

【貝類】 「今週の貝」として、ミニ資料カード・解説を設置して紹介(随時)

【岩石】 話題性のある資料について、パンフレット等を設置して紹介(随時)

寄贈を受けた資料の中から、三重県産のオパール鉱物を展示に追加した。

2) 人文分野

三重の歴史と文化に関する資料を、出土したモノ、受け継がれたモノ、継承されるワザ、愛用されたモノ、受け継いでいくキロクといった分類で展示し、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせるようにしている。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行った。

【展示一覧】

コーナー	展示期間	展示資料
出土したモノ	6月28日(日)まで※	鳥羽市・松の鼻古墳出土遺物(須恵器など)
受け継がれたモノ	6月28日(日)まで	舞楽図巻 1巻 擬宝珠 1基(寄贈資料の津市岩田橋の欄干の擬宝珠)
	9月1日(火)～ 10月4日(日)	伊勢近江京大坂屏風
受け継がれたモノ	10月6日(火) ～11月1日(日)	坂口氏からご寄贈いただいた県指定文化財 県指定文化財 伊勢国大国荘絹送状、 県指定文化財貞観五年九月民部省勘文案、 県指定文化財 伊賀国黒田杣所司等進状案
継承されたワザ	6月28日(日)まで※	伊勢型紙4点(人間国宝児玉博氏作品、喜田寅三氏作品)、 彫刻道具10点等
愛用されたモノ	6月28日(日)まで※	オルガン 1基等
受け継いでいくキロク	6月28日(日)まで	明治期の町村大合併関連資料4点
	9月1日(火)～ 10月4日(日)まで	忍藩一揆に関する記録関連資料3点

※は9月1日(火)～10月4日(日)にも展示。

【特集展示】

せれくと展示 戦後70周年記念 事業 みんなの 近くにも戦争の キズあとがある～ 1945平和がこわ れていた頃の記 憶～	7月1日(水) ～8月30日(日)	戦後70周年記念事業として開催したトピック展を継続して紹介。 空襲で焼け野原になった当時の市町の様子(太田金典氏撮影写真パネル)、戦争遺跡パネル、防空頭巾、防毒マスクなど戦時中のくらしの道具や衣装など
長井家文書(藤 堂勘解由家)調 査の中間報告	11月3日(火) ～12月6日(日)	慶長5(1600)年から慶長12(1607)年頃に書かれた長井氏(藤堂勘解由家)などに充てた藤堂高虎の書状17通を紹介
津藩の学校有造 館と文人たち	12月8日(火) ～12月27日(日)	松場彌氏旧蔵資料、若林家旧蔵資料を中心に、当館所蔵文書などを含み津藩の藩校と文人について紹介。 「津城下図」(長井家文書)、「有造会報参号」(長井家文書)、「夜航詩話」(当館蔵)、「拙堂文話」(当館蔵)、「聲牙齋存考」(当館蔵)、「資治通鑑」(当館蔵、松場彌氏旧蔵)、「齋藤拙堂筆 詩書屏風」(当館蔵、若林家旧蔵)、陸軍省所轄地ノ内拝借地及建物略図(当館蔵、三重県行政文書の内、県指定文化財)、三重県史稿(当館蔵、三重県行政文書の内、県指定文化財)全27冊の内2冊、「救荒事宜」(当館蔵)、「続文話」(当館蔵)※「齋藤拙堂筆 詩書屏風」は12月27日(日)まで展示。

1月5日(火) ～1月31日(日)	新春干支企画サル をさがせ！！	猿弾き 飴釉三猿土鈴蓋置 鈴鹿墨(猿) 耕作図巻
1月5日(火) ～1月31日(日)	スポット展ひな祭 りによせて	渡辺家旧蔵 雛人形 明治時代 重盛家蔵 御殿雛 江戸時代 枕草子春曙抄 北村季吟 江戸時代中期 版本 源氏物語(版本) 須磨巻・若紫巻 江戸時代 立雛 服部有隆画 昭和時代 内裏雛 服部有隆画 昭和時代 源氏物語 若紫 服部有隆画 昭和時代 源氏物語 胡蝶 服部有隆画 昭和時代

4.5 オオサンショウウオ生態展示

館内の観察水槽にてオオサンショウウオの「さんちゃん」を飼育し生態展示を行っている。このオオサンショウウオは平成4年に名張市美旗の小波田川にて保護し、当館の前身にあたる県立博物館で飼育していたものを平成26年2月に現施設に移動し飼育している。

奇数月の第2土曜日の午前11時から給餌公開を実施した。参加人数等は 5.3.1 講座 を参照。

4.6 学習交流スペース展示等

学習交流スペースは、交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペースで、交流創造エリアの諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流の舞台となっている。

①レファレンスカウンター

学習交流スペースの核となる場として、学芸員や担当者が常駐し、レファレンスを行っている。

②資料相談コーナー

三重の実物図鑑や資料閲覧室、書庫等を活用しながら、利用者の資料相談に対応している。

③資料閲覧室

実物資料や図書資料などを実際に見て調べたい利用者の閲覧に対応している。

④開架書架・情報コーナー

三重の自然と歴史・文化に関する書籍や資料検索端末などの情報を見ることができるコーナーである。

⑤ワークショップコーナー

来館者が気軽に参加できる多様なワークショップを実施している。

⑥くつろぎコーナー

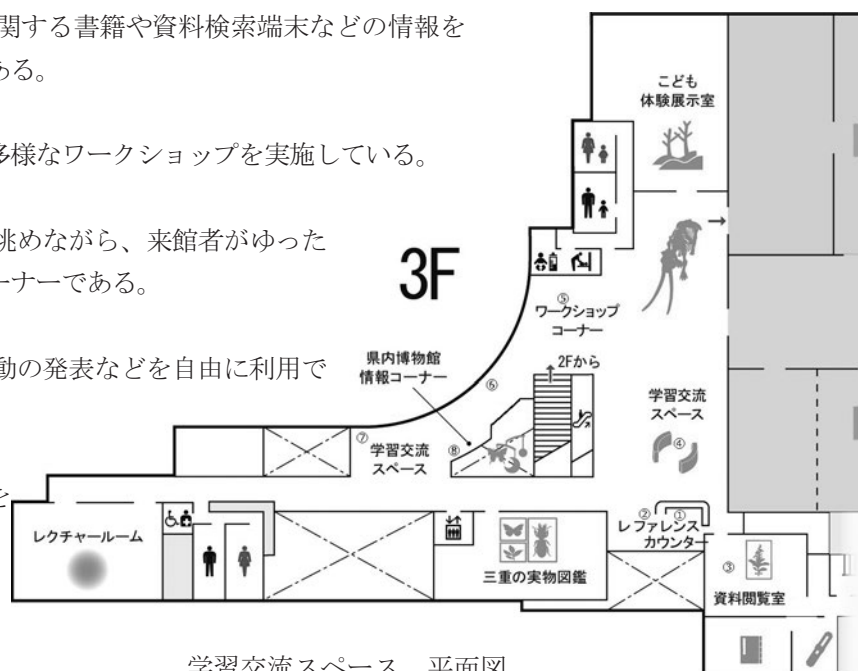
ミュージアムフィールドを眺めながら、来館者がゆったりとくつろぐことのできるコーナーである。

⑦活動コーナー

来館者がミーティングや活動の発表などを自由に利用できるコーナーである。

⑧県内博物館情報コーナー

来館者が県内博物館の情報を受発信できるコーナーである。



学習交流スペース 平面図

4.7 三重を知る1,000冊

学習交流スペースの「三重を知る1,000冊コーナー」には、三重に関連する本や各分野の学芸員が厳選した図鑑、辞典、専門書、読み物や写真集などを約1,000冊配架している。ここでは、来館者が展示を見て興味を持ったこと、身近な動植物や郷土の歴史、博物館に関することなどさまざまな興味を深めることができる。調べものに使用するほかにも、来館者の休息場所としても利用できる場所である。また、企画展示にあわせ、関連する本の展示なども行っている。

4.8 野外展示

1) ミュージアムフィールド

基礎データ 面積 ミュージアムフィールド全体 約28,400㎡
(観察の林 約18,800㎡、交流の広場 約4,370㎡、駐車場ゾーン 約5,230㎡)

(1) 観察の林

- ①シイの林 ツブラジイを中心とした常緑広葉樹林。林内はうす暗く下草も少ない。
- ②アベマキの林 アベマキ、コナラを中心とした落葉広葉樹林。アベマキは戦後に人為的に植えられたものと思われる。なお、アベマキ林の一体にはヲノ坪A遺跡が所在する。
- ③アカマツの林 センター博物館整備にかかり、平成8年埋蔵文化財発掘調査(ヲノ坪B遺跡)に際して、草木が刈り取られた場所が再生した林。ススキなどの草地にアカマツ(約10年生)の混じる林である。植物の移り変わりを観察する場所としてそのままの形で活用を行っている。

三重県総合博物館の建設に際して、周辺地域でも開発等で減少している里山残存林の博物館活動での活用を目的として保存した。里山残存林であったため放置され、藪山となっていた林床の下草等を刈り取る最低限の手を加えた状態で管理している。

主な構成樹種

高木層	ツブラジイ、コナラ、アベマキ、クロガネモチ、ヤマザクラ、ヤマモモ、アカマツ、タブノキ、ハゼノキ
亜高木層	シロダモ、カクレミノ
低木層	ミミズバイ、ネズミモチ、ヒサカキ、アオキ
草本	ネザサ、ベニシダ、ヤブミョウガ

(2) 交流の広場

モウソウチクの林が広がり、周辺の里山を圧迫していたため、博物館の建設に当たりこれを抜根して一部を除き駆除、そこへ国産のシバを植えて広場とした。

シバの広場の周辺には「木のずかん」と称するゾーンを設けて、屋内展示等で紹介されている三重の植生やくらしにかかわりのある樹木を植栽。また、県内産の岩石や各河川の砂利を用いた通路等を設置。

・交流の広場の植栽

ドングリのなかま	アカガシ、ウバメガシ、クヌギ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ツクバネガシ、スダジイ、マテバジイ、ナラガシワ、カシワなど
葉になる植物	ニッケイ、キハダ、ナツメ、クコ、カリン、テンダイウヤクなど
布などを染める植物	クチナシ、シャリンバイなど
くらしの中の植物	ミツマタ、コウゾ、キリ、シナノキ、トチノキ、カキ、ザクロなど
マツやスギのなかま	スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤ、コウヤマキ、イチイなど
虫があつまる植物	カラタチ、マグワ、イボタノキ、シダレヤナギなど
サクラのなかま	カンヒザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、カスミザクラ
ツツジのなかま	アカヤシオ、シロヤシオ、ヤマツツジ、ヒカゲツツジ、コアブラツツジ、ベニドウダン、サツキ、モチツツジなど

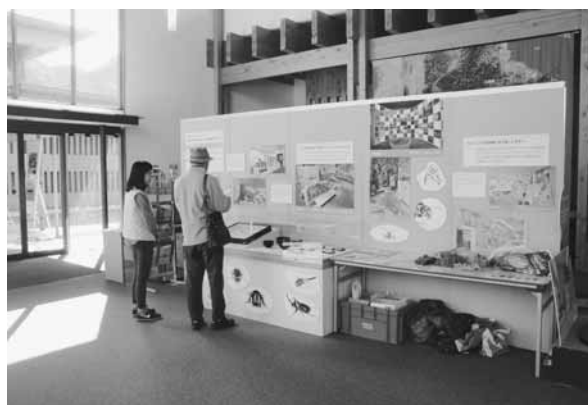
- ・ 県内産岩石を用いた石のベンチ
- ・ 県内河川礫を用いた階段洗い出し
- ・ モウソウチクの残置林
- ・ 野外学習スペース

4.9 移動展示

当館の施設や展示を紹介する移動展示を行った。(イオンモール等での広報PRを目的とした出展に関する詳細は8広報8.5その他の頁参照)

1) 移動展示 in 熊野古道センター

会 期	3月12日(土)～3月13日(日) <開催日数：2日>
会 場	三重県立熊野古道センター
内 容	当館の基本展示室や、学習交流スペースをパネル写真やレプリカ資料で紹介した。また、こども体験展示室での体験キットを実際に体験できるコーナーを同時に設けた。
主な資料	ミエゾウ足跡レプリカ、三重の餅レプリカ、こども体験展示室体験キット(ドングリ帽子、さなぎからチョウチョに変身バッグ)など
観覧者数	644人
担 当 者	松本 功



展示風景 (全景)



展示風景 (体験コーナー)

5 交流創造活動事業

5.1 事業の趣旨・目的

三重の自然と歴史・文化に関する知りたい、学びたい、調べたいなどのさまざまなニーズに対応するとともに、県民・利用者、諸団体、館の相互交流の場となることにより、新たな創造や発信へとつなげるために、閲覧レファレンス活動事業、学習支援活動事業、諸団体との交流・連携事業を展開する。

5.2 閲覧レファレンス活動事業

5.2.1 レファレンス活動

学習交流スペースの利用者に対して、レファレンスカウンターに学芸員が常駐し、三重の自然と歴史・文化、博物館利用に関する質問や疑問、相談に応じている。展示を楽しむだけでなく、さまざまな分野の専門家と日常的に出会い情報交換できる場となっている。

5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）

公文書館機能をもつ当館では、資料閲覧室において、歴史的公文書をはじめとする収蔵資料の閲覧に対応している。資料閲覧室には、三重の自然と歴史・文化に関する参考図書、三重県行政文書複製物（一部閉架）、三重県公報複製物（一部閉架）等が配架されており自由に閲覧可能である。収蔵庫の収蔵資料、書庫の収蔵図書の閲覧については、事前予約が基本となるが閲覧することができる。また、所定の手続き

閲覧状況	種目	資料内容	閲覧者数
閉架収蔵資料閲覧	自然系	動物・植物・鉱物その他	12
	人文系	考古資料/絵図・地図/刷り物/絵葉書/歴史資料/絵画・墨蹟/陶磁器/民俗その他	18
		写真資料/映像資料	1
		古文書（一紙物・整理済文書群及び県史からの移管文書群/典籍類）	16
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書/絵図・地図）	59
		歴史的公文書（行政刊行物）	15
	図書	図書（閉架図書）	25
	行政利用	県議会議事筆記・古文書・明治期公文書・選別公文書・マイクロフィルム	14
	上記資料合計	160	
開架資料閲覧	図書・複製物（明治期公文書・三重県公報）・映像等		1,102
室内見学者			919
資料閲覧室入室者数合計			2,181

を行うことにより、収蔵資料の写真掲載や貸出等の資料特別利用についても対応を行っている。

1) 資料閲覧室の閲覧資料内訳（平成27年4月から平成28年3月末まで）

利用資料名	申請者	目的	期間
東海道分間絵図 勢州坂下宿絵図 伊勢国鈴鹿郡三重郡往還絵図	亀山市歴史博物館	市制施行10周年記念 第24回企画展「亀山地方の街道絵図」展示資料	4月17日 ～6月12日
通行手形・矢立・伊勢道中記・おかげ参り柄杓・旅行用心集・講板ほか	斎宮歴史博物館	春季企画展「とらべる図鑑～のりものと旅～」展示資料	4月17日 ～6月26日
鳥居古墳出土押出仏	奈良国立文化財研究所 飛鳥資料館	特別展「はじまりの御仏たち」展示資料	4月16日 ～7月3日
書画五拾三駅 四日市東海道の名所之内 桑名 蜷気楼	三重県立美術館	「真昼の夢、夜の寝覚め～昼夜逆転の想像力～」展示資料	5月13日 ～7月10日
笈摺、柄杓、西国巡礼道中細見増補指南	愛媛県歴史文化博物館	特別展「四国遍路と巡礼」展示資料	9月11日 ～12月12日
大刀・刀・脇差	高知県立歴史民俗資料館	企画展「大阪夏の陣400年 長宗我部遺臣それぞれの選択」	4月24日 ～6月23日

2) 資料特別利用一覧

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
浮絵駿河町呉服屋図	合同会社 浩然社	西東社『超ビジュアル 日本の歴史』	4月 1日
浮絵駿河町呉服屋図	有限会社 地人館	小峰書店『新・日本の歴史』第五巻	4月 6日
旧度会県達 明治六年 三重県(明治6年10月24日付)・(明治6年11月付)	個人	『近代熊本』第37号所収論文「明治前半期における国旗掲揚問題」	4月 9日
三重県水産図解 石蔵	グループ・コロンブス有限公司	学研教育出版『うなぎ一億年の謎を追って』(電子書籍)	4月15日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
輝安鉱	西条市市之川公民館	西条市のホームページ内の市之川 鉱山のホームページ	4月16日
伊賀蹲壺	有限会社 メディアス スタイル	ぶらりみえ 5月15日号「伊賀焼」	4月20日
社寺取調書 一志郡庶務課 ほか	個人	『庄田の祭り』	4月21日
トバリユウ右大腿骨 ほか	有限会社 ハユマ	青葉出版株式会社「理科テスト」	5月13日
トバリユウ右大腿骨化石	個人	『東海 地球と歴史のおもしろ50』 (仮題)	5月21日
魚商いづみや引札	株式会社 集英社 第 二編集部	『学習まんが日本の歴史』第13巻	5月21日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 ジョブエッ クス	テレビ東京「土曜スペシャル」	6月 5日
アンモナイト	個人	『アンモナイトの約束 東海のジオ ストーリー50』(仮題)	6月 8日
トバリユウ 右上腕骨	株式会社 学研教育出 版	ニューワイド学研の図鑑シリーズ 『なぜ?の図鑑 恐竜』	6月17日
トバリユウ発掘現場写真	読売新聞大阪本社	特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」 図録	6月18日
写真週報、モンペと上着、空襲で焼 け野原になった津市内	中日新聞三重総局	中日新聞 三重版「MieJo」戦後7 0周年特集	6月19日
金属製ランドセル	株式会社 ベネッセコー ポレーション	小学3・4年生チャレンジタッチ内ア プリ	7月 1日
石臼	株式会社 浜島書店	東京書籍版「国語の学習2年」	7月 1日
辰砂を含む鉱石	株式会社 G.B.	デアゴスティーニ・ジャパン「週刊 日本の神社」第78号	7月 8日
伊勢の海士 長鮑制之図	株式会社 中日新聞社	中日新聞 三重県版	7月 9日
三重県下頑民暴動之図、浮絵駿河 町呉服屋図、豊饒御蔭参之図	株式会社 日本入試セ ンター	サピックス小学部 学習教材	7月13日
オリンピック大競技双六	株式会社 G2010	『JTE-JapaneseTraditional Ev ents日本の伝統行事』	7月31日
三重県水産図解 サイロ、鯨捕魚之 図	株式会社 ジャンプコー ポレーション	健康カプセル! ゲンキの時間	8月14日
参宮案内宇治山田市街精図	有限会社 風媒社	『古地図で楽しむ三重』	8月25日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 編集工房ペ ンハウス	隔月刊誌「時空旅人」	8月28日
昭和60年代 津市街地写真	有限会社 ウェイブ	朝日放送「世界の村で発見! こん なところに日本人」	8月28日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 アーク・コ ミュニケーションズ	宝島ワンダーネット DVD解説書 『謎解き! 江戸のススメ』	8月29日
トバリユウ大腿骨・上腕骨	株式会社 共同テレビ ジョン 第二制作部	NHK-WORLD “Science View”	9月11日
小俣村絵図、度会郡小俣村伊勢国 度会郡小俣村図 ほか	小俣まちづくり協議会	まちづくり活動・小俣ふるさと探訪 講座資料	9月25日
町村制実施ニ係ル取調上申書	Studioアール	ケーブルネット鈴鹿CTY	10月 7日
(天正12年)5月5日付け徳川家康書状 (小浜民部左衛門尉・間宮造酒丞宛て)	柏書房株式会社	『徳川家康の古文書』	10月 9日
三重県水産図解 鰻漁千本釣之図	株式会社 日企	日本テレビ「ザ! 鉄腕! DASH!!」	10月20日
東海道分間絵図 ほか	有限会社 風媒社	『古地図で楽しむ三重』	10月30日
勢州桑名城之図、伊勢国桑名城攻城 絵図、主図合結記(桑名城部分) ほか	桑名市博物館	特別展「徳川四天王の城」図録	11月 4日
三重県水産図解鱈盾網漁法	株式会社 天夢人	ハーバーコリンズ・ジャパン 週刊 「ビジュアル江戸三百藩」第12号	11月 6日
浮絵駿河町呉服屋図	アイ・ヴィ・エス・テレ ビ制作株式会社	フジテレビ 「ハイキング」	11月 9日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
西国三十三所名所図会	NHK津放送局	NHK BSプレミアム 新日本風土記「熊野古道 伊勢路」	11月10日
『御蔭参宮文政神異記』施行所の様子	株式会社 オフィス303	「みんなの修学旅行 伊勢・志摩」	11月26日
「三重のお雑煮ブック」2012 p.3に掲載されているお雑煮写真	311みえネット	「Mietell」 vol.5	11月27日
伊勢参宮名所図会のうち、内宮の正宮、外宮の正宮、末社巡拝、神楽の様子	三重テレビ放送株式会社	『芭蕉が詠む祈りのこころ』第9話「庶民と巡礼・善光寺参り」	11月27日
おかげ参り刷物、広重伊勢参宮宮川の渡し〜おかげまいり〜	個人	鈴鹿市箕田公民館歴史講座の資料	12月 4日
「藻場（松阪市で）」の画像	株式会社 アフロ	東京書籍 平成28年度版中学校理科教科書『新しい科学1年』教師用指導書地域版掛図	12月 7日
鳥羽城之絵図	個人	歴史地震研究会誌「歴史地震」	12月 9日
郭外官地絵図 安濃郡津/贄崎砲台	伊賀市	『伊賀市史』第2巻通史編近世	12月 9日
モルフォチョウ	有限会社 ハユマ	吉林音像出版社有限責任公司『ミクロの世界大研究』	12月10日
伊勢の海士長鮑制之図	鳥羽市観光課	ANA国際線機内配布用ノベルティポスター	12月11日
「三重のお雑煮ブック2012」p.3の名張市黒田のお雑煮写真	株式会社 ユー	伊賀タウン誌YOU	12月18日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 夢の設計社	円樂の大江戸なんでも番付	12月24日
伊賀国絵図（正保）	伊賀市	『伊賀市史』第2巻通史編近世	12月25日
三重県下頑民暴動之図、浮絵駿河町呉服屋図、豊饒御蔭参之図	株式会社 日本入試センター	サピックス小学部 学習教材	1月 4日
三重県水産図解	国立研究開発法人 水産総合研究センター	国際研究集会のポスター	1月 5日
三重県水産図解 「いわし魚」	有限会社 ケー・エヌ・プランニング	日本文教出版 中学社会歴史的分野「中間・期末テスト ズバリよくでる 社会歴史」	1月 6日
絹本着色羅漢図、紙本墨書古文書ほか	三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課	ホームページ「活かそう！守ろう！三重の文化財」	1月18日
明治18年物産陳列場出品合物解説綴	個人	「三重の古文化」101号	1月21日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社 宝島社	「別冊宝島 江戸の家計簿」	1月21日
伊勢参宮名所図会、御蔭参宮文政神異記	株式会社 NHKプラネット中部支社	NHK名古屋「金とく」	1月21日
御蔭参宮文政神異記	厨子王株式会社	日本テレビ「所さんの目がテン！」	1月26日
金属製ランドセル	株式会社 ベネッセコーポレーション	デジタル教材「チャレンジタッチ3年生」	2月 3日
大神宮前駅の集合写真	CBCテレビ製作情報部	CBCテレビ「イッポウ」	2月 3日
豊穰御蔭参之図	株式会社 G.B	デアゴスティーニ・ジャパン「週刊日本の神社」110号	2月 4日
金属製ランドセル	株式会社 ベネッセコーポレーション	「チャレンジ1年生」「チャレ友クラブ」4月号	2月 5日
浮絵駿河町呉服屋図	三重県伝統織物研究会	『松阪木綿』資料から学ぶ	2月13日
写真（基本展示室内ほか）	株式会社 旺文社	放送大学印刷教材『博物館教育論』	2月24日
リュウグウハゴロモ ほか	東海化石研究会	「化石の友」61号	2月28日
豊国三代岩戸神楽之起源	テレビ朝日	「お坊さんバラエティー ぶっちゃけ寺」	3月 2日
前関白九條道嗣御教書	八王子市	『新八王子市史』通史編2中世	3月 8日
東海道分間絵図 亀山付近	株式会社 天夢人	ハーバーコリンズ・ジャパン 週刊「ビジュアル江戸三百藩」第29号	3月11日
浮絵駿河町呉服屋図	明治図書出版株式会社	『中学歴史 生徒を引き込むアクティブ・ラーニング&導入ネタ』	3月14日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
伊勢参宮名所図会 内宮の正宮・外宮の正宮	有限会社 スタジオ・ジップ	洋泉社Mook「島田裕巳の宗教講義 日本人の神様・仏様」	3月17日
御蔭参宮文政神異記 ほか	株式会社 グループ現代	NHK「プラタモリ～伊勢志摩(仮)～」	3月17日
ツマグロヒョウモン	三重県環境生活部地球温暖化対策課	三重県の気候変動影響と適応のあり方について(報告書)	3月25日
寺院復正願書、復正寺院調書	NHK名古屋放送局	NHK総合GW特番「伊勢志摩 オリジナルジャパンの世界(仮)」	3月28日

(その他の利用)

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
三重鉄道敷設関係図面 土木課(大正5～10年) ほか	個人	四日市市役所公共交通室主催「公共交通について」での展示	4月13日
輝安鉱	西条市市之川公民館	西条市立西条郷土博物館での講演に使用	4月16日
輝安鉱	西条市市之川公民館	市之川公民館内の鉱山資料室に写真を展示	4月16日
シカの剥製	鈴鹿市	教育活動のため	4月28日
三重県決議書(明治42年) ほか	個人	学術上の調査研究のため	7月 8日
公文全誌/三重県史稿3点 ほか	個人	学術上の調査研究のため	9月 7日
シカの骨格標本	鈴鹿市	教育活動のため	10月15日
御浜焼陶長石に関する記録(地下資源調査報告書、昭和32年)	三重県立熊野古道センター	企画展示「御浜焼の魅力」での利用のため	11月6日
因獄徒刑場師範学校津警察署実測図面(地理掛)元忍藩支庁即今懲役場 ほか	個人	学術上の調査研究のため	12月 2日
伊勢参宮名所図会のうち阿漕浦の図	凸版印刷株式会社 中部事業部	百五銀行歴史資料館の展示パネルとして利用するため	12月10日
三重鉄道敷設関係図面 土木課(大正5～10年) ほか	個人	四日市市役所都市整備部主催鉄道展での展示	12月24日
コテングコウモリ	個人	学術上の調査研究のため	1月 7日
東京名所 三ツ井ハウスノ図	株式会社 X FEEL	三井不動産レジデンシャル日本橋サロンにおける映像での利用	2月 2日
三重県水産図解 ほか	海の博物館	教育活動のため	2月15日
行幸関係書類	個人	学術上の調査研究のため	2月23日

5.3 学習支援活動事業

博物館の利用者に、三重の自然と歴史・文化や博物館の活動に対する興味・関心を持つきっかけや深める機会を提供することを目的として、講座やワークショップ、フィールドワークなどの学習支援活動を実施している。

5.3.1 講座

1) MieMuセミナー

三重の魅力を探究し、基本展示の展示内容について、より詳しく知ることができ、かつ興味が持てるように、三重の自然と歴史・文化に関する専門家として外部講師を招いて行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
なるほどthe大杉谷 ワールド	5月24日(日)	レクチャールーム	25	大西かおり (大杉谷自然学校 校長)
志摩の海女ーいま、むかし	7月26日(日)		59	川口祐二 (三重大学 客員教授)
伊勢湾・三河湾のスナメリ	9月20日(日)		40	古田正美 (鳥羽水族館 元館長)
「安濃津」ジオラマに隠された中世びとの生業	12月 6日(日)		30	伊藤裕偉 (三重県教育委員会 主幹)
計			154	

2) 学芸員フリートーク

第4土曜日に当館の学芸員がそれぞれの専門分野について講演する講座。来館者が気軽に参加できる講座。平成27年度は全6回開催。

行事名	開催日	会場	人数	講師
くらしの中の石—むかし、いま—	5月16日(土)	レクチャールーム	12	当館職員 津村善博
動物を食べる植物 食虫植物	6月20日(土)		15	当館職員 松本 功
虫をじっくり見てみよう	7月18日(土)		63	当館職員 大島康宏
超初心者大集合『家庭菜園の魅力!』	9月19日(土)		6	当館職員 大西 到
浮世絵～よくみてみよう、なにがわかるかな?～	1月16日(土)		20	当館職員 岸田早苗
保存科学バックヤードツアー	3月19日(土)		21	当館職員 間渕 創
計			137	

※7月18日(土)については、企画展関連事業(あんな虫展)として実施した。

3) 同定会

海や山、自宅や学校で見つけた動物、植物、化石などの標本を持ち寄って、各分野の専門家と一緒に名前を調べるイベント。

※講師 [植物]当館職員 松本 功・森田奈菜 [昆虫]三重昆虫談話会 河北 均、当館職員 大島康宏

行事名	開催日	会場	人数	講師
標本の名前を調べてみよう(同定会)	8月23日(日)	レクチャールーム	48	当館職員、外部講師 ※詳細は以下のとおり

[貝類]当館職員 中野 環 [脊椎動物]元三重県立博物館館長 富田靖男、当館職員 北村淳一
[岩石・鉱物]当館職員 津村善博 [化石]当館職員 中川良平

※平成27年度は、企画展関連事業(あんな虫展)として実施した。

4) 古文書調査法研修講座

古文書の調査法や解読について、5回連続して行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
研修講座①	6月27日(土)	レクチャールーム	10	当館職員 藤谷 彰
研修講座②	8月22日(土)		17	当館職員 山本梨加
研修講座③	10月17日(土)		9	小林 秀(三重県環境生活部 文化振興課県史編さん班 班長)
研修講座④	12月20日(日)		8	石原佳樹(三重県環境生活部 文化振興課県史編さん班 主査)
研修講座⑤	2月27日(土)		8	文化振興課県史編さん班 主査)
計			52	

5) さんちゃんのお食事会

館内で飼育しているオオサンショウウオの給餌を公開し、観察する講座。毎月第2土曜日に実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
さんちゃんのお食事会	5月 9日(土)	オオサンショウウオ 観察水槽前	26	当館職員 北村淳一
	7月11日(土)		82	
	9月12日(土)		97	
	11月14日(土)		71	
	1月 9日(土)		53	
	2月28日(日)		77	
	3月12日(土)		56	
計			462	

※2月28日(日)は臨時で実施した。

6) わくわくワークショップ

1ヶ月に1回程度実施する自由参加型の講座。奇数月第4土曜日には、ミュージアム・パートナーのおもしろ博物館グループが担当

行事名	開催日	会場	人数	講師
再来！いわしプロジェクト	4月25日(土)	学習交流 スペース	32	当館職員 稲垣玲弥
たねコブターづくり	5月23日(土)		40	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
葉っぱのこすりだし図鑑をつくろう	6月27日(土)		93	当館職員 稲垣玲弥
ぬり絵でネームタグをつくろう	7月25日(土)		60	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
オリジナル昆虫をつくろう	8月2日(日)		108	当館職員 稲垣玲弥
葉っぱのこすりだし図鑑をつくろう	9月26日(土)		55	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
ドングリごまをつくろう	10月17日(土)		100	当館職員 稲垣玲弥
ドングリ図鑑をつくろう	11月28日(土)		30	当館職員 稲垣玲弥
マツボックリでクリスマスツリーをつくろう	12月12日(土)		66	当館職員 稲垣玲弥
昔の道具体験(石臼、風呂敷、かつおぶし削り)	1月10日(日)	実習室	243	当館職員 門口実代
化石レプリカづくり	1月23日(土)	学習交流 スペース	44	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
鬼のお面をつくろう	1月31日(日)		44	当館職員 稲垣玲弥
伊勢型紙でポストカードをつくろう	2月27日(土)		61	当館職員 稲垣玲弥
ひな人形をつくろう	2月28日(日)		38	当館職員 中村千恵
干支のサルを折り紙でつくろう	3月26日(土)		16	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
計			1,030	

※8月2日(日)については、「M祭！」および企画展関連事業(あんな虫展)として実施した。

※1月10日(日)は、企画展関連事業(くらしの道具展)として実施した。

※1月31日(日)および2月28日(日)は臨時で実施した。

7) 化石レプリカをつくろう

石膏で化石レプリカをつくるイベント。

行事名	開催日	会場	人数	講師
化石レプリカをつくろう	6月21日(日)	実習室	51	当館職員 中川良平 当館職員 津村善博

8) 三重県の石を知ろう

日本地質学会が選定している「県の石」から、三重県の石について選定候補となっている岩石・鉱物・化石についてそれぞれ紹介した。

行事名	開催日	会場	人数	講師
三重県の石を知ろう	6月21日(日)	レクチャールーム	40	当館職員 津村善博 当館職員 中川良平

9) おとなのためのコケ講座

コケについての座学とともに、ミュージアムフィールドで採集したコケを顕微鏡で観察し、同定方法などを学ぶ講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
おとなのためのコケ講座	11月7日(土)	実習室 ミュージアムフィールド	11	当館職員 森田奈菜

10) 正月かざりづくり体験

行事名	開催日	会場	人数	講師
正月かざりづくり体験	12月20日(日)	交流活動室	29	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ 当館職員 松本 功

ミュージアム・パートナーおもしろ博物館づくりグループとの連携イベントで、なわをなうところからしめ縄状の正月かざりをつくる体験講座。

5.3.2 フィールドワーク

1) 館長と歩こう！観察の林

館長や学芸員が参加者と一緒にミュージアムフィールドを歩く自然観察会。4月から11月の第1土曜日に当日申込みにより実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
館長と歩こう！観察の林(4月)	4月4日(土)	ミュージアムフィールド	2	当館館長 布谷知夫
館長と歩こう！観察の林(5月)	5月2日(土)		3	
館長と歩こう！観察の林(6月)	6月6日(土)		16	
館長と歩こう！観察の林(7月)	7月4日(土)		中止	
館長と歩こう！観察の林(9月)	9月5日(土)		22	
館長と歩こう！観察の林(10月)	10月3日(土)		5	
館長と歩こう！観察の林(11月)	11月7日(土)		15	
計			63	

※7月4日(土)は雨天のため、中止した。

2) 親子で標本づくりにチャレンジ！

ミュージアムフィールドで昆虫や植物の観察・採集を行い、実際に標本をつくる体験講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
親子で標本づくりにチャレンジ！	8月16日(日) 8月22日(土)	ミュージアムフィールドおよび実習室	11組 30	当館職員 大島康宏

3) さがしてみよう！磯の生物

熊野灘沿岸の磯にすむ生物の観察

行事名	開催日	会場	人数	講師
さがしてみよう！磯の生物	9月6日(日)	志摩市志摩町片田	中止	当館職員 中野 環 当館職員 水谷憲二

4) 文化財探訪

学芸員と一緒に、県内の文化財を訪ね歩く行事

行事名	開催日	会場	人数	講師
文化財探訪	11月1日(日)	桑名市内	8	当館職員 天野秀昭 当館職員 太田光俊

5) 尾鷲層群の化石をたずねて

化石の産状を観察し、採集した化石から、尾鷲地域の地層の様子を調べる観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
尾鷲層群の化石をたずねて	12月6日(日)	尾鷲市向井 岡ノ川	27	当館職員 中川良平 当館職員 津村善博

6) 身近な冬鳥を観察しよう

鳥類の剥製を館内でじっくり観察してから、博物館周辺の野外で鳥類を観察する自然観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な冬鳥を観察しよう	1月17日(日)	標本作製室および三重県総合博物館周辺の池	11	当館職員 北村淳一 当館職員 田村香里 伊藤勁二

5.3.3 学習支援冊子・マップ

博物館の展示や資料、活動に関する情報を発信するために、情報誌「みえんしす」を刊行したほか、基本展示室の詳細な解説書を作成した。

- ・三重県総合博物館情報誌「みえんしす」(第5号～第10号)
 - 5号(5月1日発行) 特集「みんなでつくろう!『ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑』」
 - 6号(7月1日発行) 特集「あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～」
 - 7号(9月1日発行) 特集「SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～」
 - 8号(11月1日発行) 特集「くらしの道具～いま・むかし～」
 - 9号(1月19日発行) 特集「明治の日本と三重」
 - 10号(3月8日発行) 特集「伊勢志摩サミット開催記念 第11回企画展
伊勢志摩～常世の浪の重浪よする国へ、いざNOW!～」
- ・「南北の共存 東西の交流 三重県総合博物館展示案内」出版助成 公益財団法人日本生命財団

5.3.4 人材育成支援活動

1) 博物館学芸員実習

各大学における「博物館学芸員資格」の必須科目である「博物館実習」を希望する学生の受け入れを行った。

①Aコース

[実習生] 三重大学(5名)、高知大学、滋賀県立大学、岐阜女子大学(各1名)

日 程	概 要
8月19日(水)	・ガイダンス ・保存科学入門、館内見学・博物館学入門、課題発表会
8月20日(木)	・収蔵庫、展示室見学(自然分野) ・資料の取り扱い(自然分野)
8月21日(金)	・博物館教育論・展示室見学、資料の取り扱い(人文分野)
8月22日(土)	・公文書整理作業
8月23日(日)	・「同定会」補助

②Bコース (三重大学との相互協定による連携事業として実施)

[実習生] 三重大学(15名)

6月20日(土)、7月19日(日)、7月20日(月・祝)、8月2日(日)、8月19日(水)、8月21日(金)、8月23日(日)、8月25日(火)、9月3日(木)、9月4日(金)、9月8日(火)、9月13日(日)、9月15日(火)、9月25日(金)、9月27日(日)、9月29日(火)、10月10日(土)、10月16日(金)、10月17日(土)、10月25日(日)、11月3日(火・祝)、11月8日(日)、11月15日(日)

植物班、地学班、昆虫班、魚類・貝類班の4班に分かれて5日間の実習を行った。

5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業

博物館活動の基本的な活動の視点である「協創」と「連携」に基づき、他機関・諸団体との交流と連携を深め、新たな創造と発信の機会とするために、連携のための協議、連携・協力による講演会や各種ワークショップ、展示、博物館の活用等を実施した。

5.4.1 学校

1) 遠足・社会見学等の利用

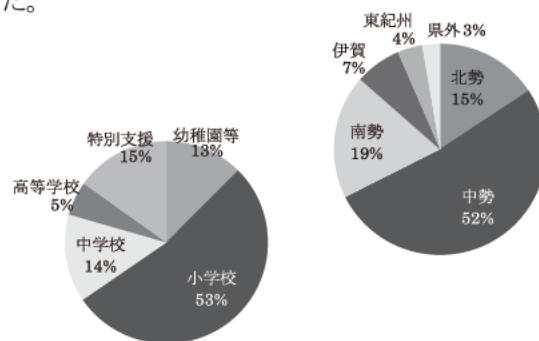
平成27年度の学校利用については幼稚園（所）23園、小学校98校、中学校26校、高等学校10校、特別支援学校28校の計185校であった。また、地域別の利用状況については、北勢地区29校、中勢地区96校、南勢地区35校、伊賀地区13校、東紀州地区7校、県外5校であった。また、小学校3年生で学ぶ「昔のくらし」の学習時期に合わせて企画展示「くらしの道具」を開催し、会期中に展示見学のために来館した小学校12校に、学芸員が道具の使用体験を交えた解説対応を行った。同様にトピック展示「戦後70周年記念 みんなの近くにも戦争のキズあとがある～1945平和がこわれていた頃の記憶～」でも会期中に展示見学のために来館した小学校1校に、解説対応を行った。

	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
実数	23	98	26	10	28
割合(%)	12.4	53.0	14.1	5.4	15.1

校種別の利用数

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	県外
実数	29	96	35	13	7	5
割合(%)	15.7	51.9	18.9	7.0	3.8	2.7

地域別の利用校数



校種別の利用割合

地域別の利用割合

2) 教職員研修

博物館と学校教育との連携の観点から、教職員の方々に博物館の活動や施設等について知っていただき、学校教育における博物館活用を促進するために講師派遣、教員研修（個人・団体）の受入を行った。また教員悉皆研修の一つである社会体験研修の受け入れも行った。

<教員研修>

8月19日 津市教育研究会理科部会（中ブロック）

8月19日 津市教育研究会理科部会（北ブロック）

8月19日 津市教育研究会社会科部会

<教職員社会体験研修>

- ・津市立北立誠小学校 7月19日(日)、7月20日(月・祝)
- ・津市立西が丘小学校 7月20日(月・祝)、7月22日(水)
- ・津市立朝陽中学校 8月2日(日)、8月11日(火)
- ・津市立一志中学校 8月2日(日)、8月12日(水)
- ・四日市市立富田中学校 8月11日(火)、8月12日(水)

3) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業への協力

- ・三重県立津高等学校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業 SSH探求活動として6名の学芸員が講座を担当した。

中野 環（海産無脊椎動物）、中川良平（化石）、津村善博（岩石）、門口実代（民俗）、宇河雅之（歴史・民俗）、藤谷 彰（歴史）

4) 職場体験

平成27年度については、試行的な取組として、中学校3校、高等学校1校の受入れを行った。

<中学校>

- ・津市立西郊中学校 9月9日(水)～9月11日(金) 3名
- ・津市立南ヶ丘中学校 9月9日(水)～9月11日(金) 3名
- ・津市立久居東中学校 9月29日(水)～10月1日(木) 3名

<高等学校>

- ・三直立ゆめ学園高等学校 7月29日(水)～7月31日(金) 3名

5.4.2 大学

1) 三重大学

三重大学とは、平成26年2月に締結した「三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定」に基づき、三重の自然と歴史・文化などのかげがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携事業

(1) 共同研究

- ・志摩市先志摩半島における総合的な地域調査
志摩市志摩町を中心とする先志摩半島地域を対象とする総合調査(平成26～28年度)。
- ・学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発(平成25～29年度)

(2) 博学連携シンポジウム

- ・博学連携シンポジウム「大学の“学芸員養成”教育と博物館—文化の裾野を広げるために—」

開催日 平成28年2月29日(月) 場 所 三重大学メディアホール

概 要 基調講演

演題「ユーザーを育て博物館コミュニティを築く

—博物館を社会の中で活かすしかけとしての人材養成プログラム—

講師 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館主任学芸員)

パネルディスカッション

パネリスト 石原義剛(海の博物館館長・三重大学客員教授)

岡野友彦(皇學館大学文学部教授・佐川記念神道博物館館長)

中村千恵(三重県総合博物館学芸員)

コーディネーター 山田康彦(三重大学教育学部教授)

(3) 博物館実習

- ・Aコース(8月19日(水)～8月23日(日)) 三重大学生 5名受入
- ・Bコース(6月20日(土)、7月19日(日)、7月20日(月・祝)、8月2日(日)、8月19日(水)、8月21日(金)、8月23日(日)、8月25日(火)、9月3日(木)、9月4日(金)、9月8日(火)、9月13日(日)、9月15日(火)、9月25日(金)、9月27日(日)、9月29日(火)、10月10日(土)、10月16日(金)、10月17日(土)、10月25日(日)、11月3日(火・祝)、11月8日(日)、11月15日(日)) 三重大学生 15名受入

(4) 博物館学芸員養成課程授業

[授業担当]

- ・生物資源学部の学芸員養成課程授業科目 「博物館資料論」「博物館資料保存論」

講義の一部を当館職員中川良平・大島康宏が担当

[授業協力]

- ・人文学部博物館実習 ①バックヤード等の施設見学(6月17日(水))、②保存環境に関する施設・設備見学(7月8日(水))、③歴史資料の資料取扱の研修(7月15日(水))
- ・教育学部博物館概論 ①博物館見学(7月26日(日))

(5)授業での施設利用

- ・国際交流センター 留学生を中心とした学生の施設見学 (4月22日(金))
- ・教育学部社会教育概論見学実習 (5月30日(金))
- ・教育学部 ホーチミン師範大学の留学生を対象とした施設見学 (7月3日(金))
- ・教育学部教育実地研究基礎 (8月21日(金)～23日(日))
- ・生物資源学部 大学院生を対象とした施設見学 (9月8日(火))
- ・国際交流センター 留学生を対象とした施設見学 (10月21日(水))
- ・大学院生の研究フィールドとして観察の林を利用 (平成27年度年間)

(6)教育学部理科教育講座と博物館との連絡会議

開催日 9月1日(火)、平成28年3月1日(火)

(7)連携講座など

- ・たのしい仮説実験ワークショップ (NPO法人楽知ん研究所)

行事名	開催日	会場	人数	講師
大道仮説実験<どっか〜ん!> 講座	7月19日(日)	実習室・ レクチャー ルーム	50	NPO法人楽知ん研究所
大道仮説実験<ならんでならんで> 講座	7月20日(月・祝)		53	NPO法人楽知ん研究所
計			103	

- ・平成27年度ふれあい科学教室

開催日 7月25日(土) 場所 ミュージアムフィールド

内容 博物館の森を調べよう 体験を通して学ぶ小中学生と保護者向け講座

- ・子平成27年度 日本動物学会中部支部大会「公開講座 生物学の先端研究で活躍する変わった動物たち」

開催日 11月29日(日) 場所 レクチャールーム

内容 生物学の先端研究に関する講演会

- ・青少年のための科学の祭典

開催日 11月15日(日) 場所 三重大学講堂

内容 海藻しおりの作成

(8)その他

- ・県教職員研修講座 観察・実験研究協議③ (8月7日(金)、観察の林)

②連絡推進会議

三重大学博学連携推進室 加納哲、吉岡基、菅原洋一、山田康彦、塚本明、高野恵子

三重県総合博物館 布谷知夫、松井一明、杉谷政樹、天野秀昭、瀧川和也、中野環、北村淳一

- ・第1回 開催日 6月3日(水) 場所 三重大学図書館
内容 ・三重大学の第3期中期目標・中期計画について
・先志摩半島の共同調査について
・大学と博物館の連携事業について など
- ・第2回 開催日 9月8日(火) 場所 会議室
内容 ・先志摩半島の共同調査について
・大学と博物館の連携事業について
・学芸員養成課程の授業協力について など
- ・第3回 開催日 12月15日(火) 場所 三重大学図書館
内容 ・博学連携シンポジウムについて

- ・次年度の学芸員実習について
- ・先志摩半島の共同調査について など

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、平成25年2月に締結した「三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定」に基づき、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携内容

(1) 共同研究

- ・皇學館大学 佐川記念神道博物館の所蔵資料を用いた調査・研究
神道博物館所蔵の鏡鑑類コレクションの科学的分析などの共同研究。

(2) 博物館実習

- ・平成27年度の受け入れは無かった。

(3) 博物館学芸員養成課程授業

- ・学芸員養成課程授業科目：「博物館経営論」「博物館資料保存論」「博物館資料論」
講義の一部を当館職員 布谷知夫、間渕創、天野秀昭が担当

(4) 授業などでの施設利用

- ・参拝見学にともなう見学（11月5日（木））

(5) 学生育成にかかる事業

- ・当館資料を用いた古文書調査（平成28年2月24日～28日、レクチャールーム）

②連絡推進会議

皇學館大学研究開発推進センター 岡野友彦、岡田芳幸、中松豊、大平和典、前田和宏、中井良明、橋本久、大井恵子

三重県総合博物館 杉谷政樹、岸田早苗、中野環、北村淳一、門口実代

- ・第1回 開催日 10月1日（木） 場 所 皇學館大学佐川記念神道博物館 会議室
内 容 ・連携・協力事項（協定第2条）について
総合博物館資料を用いた学生育成の調査等、神道博物館所蔵資料の共同研究、学芸員養成課程授業への協力など
- ・第2回 開催日 平成28年3月4日（金） 場 所 会議室
内 容 ・連携・協力事項（協定第2条）について
古文書調査補助（学生育成）、神道博物館所蔵資料の共同研究、学芸員養成課程授業への協力、皇學館大学理科教育担当教員と博物館学芸員の連携に向けて、博物館業務への皇學館大学学生参画について など

5.4.3 博物館

三重県内には登録博物館19館、博物館相当施設3館及び類似施設82館あり、相互に情報交換や企画展等での資料貸借などの相互協力を行っている。県内博物館の52機関69施設が加盟する三重県博物館協会の事務局が当館に置かれていることから、県内博物館との全体的な連携は主に同協会事業を兼ねて行っている。また、県外の博物館との関係では、全国組織である日本博物館協会、同近畿支部、全国科学博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に加盟している。、岐阜県博物館との連携を実施した。

1) 三重県博物館協会

三重県博物館協会は、昭和48年に三重県内の博物館園等の相互連携を密にし、博物館事業等の普及発展を図り、三重県の文化の進展に寄与することを目的として設立され、平成27年度には県内博物館の52機関69施設が加盟している。当館館長が理事に選任され、また、当館が協会事務局を引き受けている。

(1) 研修事業

「博物館協会会員館のネットワーク強化」、「研修機会の充実」として各博物館施設と協力して実施。

○会員館スキルアップ研修

大規模災害発生への備え、災害発生時の対応等に関して、三重県博物館協会会員のネットワーク強化および情報共有を図った。

開催日：平成28年2月10日(水) 13:30～16:00

会 場：三重県総合博物館 3階レクチャールーム

内 容：講 演① 「東日本大震災における文化財レスキュー事業について」

講 師 文化庁文化財部美術学芸課 文化財管理指導官 宇田川 滋正

講 演② 「大規模地震に備えて」

講 師 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

防災技術指導員 小宮 貞則

報 告 「自然災害対応に向けた基本情報調査の継続について」

報告者 三重県総合博物館 展示・資料情報課 太田 光俊

○会員館ネットワーク強化事業

情報交換会 開催日 6月18日(木) 場 所 四日市市立博物館

(2) 三重県博物館協会教育普及事業

○公開講座「ミュージアム・トーク みえものがたり」

三重県博物館協会会員や博物館関係者が、日頃の研究成果や活動成果を一般に公表し、意見交換を行う機会とし、協会の諸活動の普及や充実を図ることを目的に実施。

第1回

開催日：平成28年2月7日(日) 13:30～15:00

会 場：松阪市文化財センター ギャラリー

内 容：講 演 「三重県出身の女流画家・伊藤小坡」

講 師 桑名市博物館 学芸員 杉本 竜

第2回

開催日：平成28年3月13日(日) 13:30～15:00

会 場：川越町教育センター4階 会議室(川越町あいあいセンター内)

内 容：講 演 「水族館の魚と海獣」

講 師 鳥羽水族館 飼育研究部 村上 龍

(3) 博物館関係情報共有事業

三重県博物館協会を代表して日本博物館協会が主催する第63回全国博物館大会(広島県呉市)へ会員館園職員1名を派遣。

(4) 三重県博物館協会HP充実事業

三重テラス(東京都日本橋)で、冊子「三重県博物館協会40周年記念 三重の博物館」を配布。

(5) 東海三県博物館研究交流会

開催日：10月10日(土)

会 場：美濃和紙の郷会館・和紙の里わくわくファーム創造交流館

テーマ：「地域資源を活用した博物館活動」

主 催：岐阜県博物館協会・愛知県博物館協会・三重県博物館協会

内 容：事例報告

〔岐阜県〕「美濃和紙を使った紙文化の発信とユネスコ無形文化遺産登録をめぐる」

美濃和紙の里会館 館長 船戸 友数

〔愛知県〕「やきものの産地にある専門館としての37年」

愛知県陶磁美術館 学芸員 大長 智広

〔三重県〕「地域の特性を生かした体験学習 輪中をテーマに郷土・文化・産業の情報発信」

輪中の郷 学芸員 諸戸 靖

参加者：32名（内 三重県からの参加者7名）

(6) 災害発生時の相互協力事業

○台風等の災害発生時の情報調査

災害発生時に、県教育委員会社会教育・文化財保護課、環境生活部文化振興課県史編さん班、三重県博物館協会事務局（当館）の三者で情報集約と相互共有を行った。

① 7月17日（台風11号）、② 8月26日（台風15号）、

③ 9月8日（台風18号）

2) 岐阜県博物館との連携

平成26年5月14日に三重県総合博物館で開催された岐阜県と三重県の二県知事懇談会で交わされた岐阜県博物館との相互連携の合意に基づき、岐阜県博物館と講演会と体験ワークショップ講師の相互派遣

行事名	開催日	会場	人数	講師
体験ワークショップ「勾玉づくり」	10月31日（土）	三重県総合博物館 実習室	26	近藤大典 （岐阜県博物館 学芸員）
講演会「円空仏における材の使用法～その特徴と背景を探る～」	11月 1日（日）	三重県総合博物館 レクチャールーム	34	守屋靖裕 （岐阜県博物館 学芸員）
体験ワークショップ「三葉虫ノジュール割り」	11月14日（土）	三重県総合博物館 実習室	67	西谷徹 （岐阜県博物館 学芸員）
講演会「脳形態から迫る古生物の姿」	11月15日（日）	三重県総合博物館 レクチャールーム	23	河部壮一郎 （岐阜県博物館 学芸員）
講演会「熊野比丘尼と熊野観心十界曼荼羅～現代につながる地獄・極楽のイメージ～」	10月24日（土）	岐阜県博物館	47	当館職員 瀧川和也
講演会「化石から探る日本列島の哺乳類相の起源」	11月 7日（土）	岐阜県博物館	56	当館職員 中川良平
体験ワークショップ「自然をモチーフとした工作体験（オオサンショウウオの紙工作）」	11月 8日（日）	岐阜県博物館	73	三重県総合博物館ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ ※当館担当職員 松本功

などの連携事業を実施した。

5.4.4 文化交流ゾーン

三重県では、当館、三重県総合文化センター（三重県文化会館・三重県生涯学習センター・三重県男女共同参画センター・三重県立図書館）、及び県立美術館を含む地域を文化交流ゾーンと捉え、全体としての魅力を高めることで、より多くの人々が訪れさまざまな文化に接し、感性を高めることができる場の形成をめざしている。

このため、文化交流ゾーン各館に斎宮歴史博物館を加えた県立文化施設では、各館長による文化交流ゾーン関係館長会議、また、その実務レベルの文化交流ゾーン関係施設課長等会議を毎月定期的で開催し、連携強化を図っている。会議では、各館の運営や事業に関する情報の交換・共有をはじめ、文化交流ゾーンの利

用促進に向けた全体広報、社会見学の受入や企画展・講座・イベントなどかかわる連携について協議を行い、個々の連携事業の実施につなげている。また、特に、隣接する三重県総合文化センターとは事務連絡会議、駐車場会議を開催し、相互の円滑な日常的運営に努めている。

1) 総合文化センター

8月2日（日）に三重県総合文化センターで開催された「M祭！」の一会場として、下記の事業を連携して実施した。

- ・オリジナル昆虫をつくろう 会場：学習交流スペース 参加人数：108名

2) 県立図書館

企画展の開催に合わせ、相互利用の促進を図るための取組を行った。主に、図書館から博物館へ来館する人の流れを生み出すことを意図して、図書館内での企画展に関するPR展示と関連図書の展示などを行った。

《実施内容》

- ・第7回企画展「あんな虫、こんな虫、そんな虫」 図書館内PR展示、返却しおりでのPR
- ・第8回企画展「SUZUKA 夢と挑戦のステージ」 図書館内PR展示
- ・第9回企画展「くらしの道具」 図書館内PR展示

3) 県立美術館、斎宮歴史博物館

- ・県立美術館とは、毎月第3日曜日の「家庭の日」に、当館または県立美術館の観覧券半券を近隣レストラン4店舗でサービスを受けられるキャンペーンを行った。（4月～平成28年3月）
参加店舗：ミュゼ・ボンヴィヴァン、ビストロ ラ・フルール、カフェ ミ・テール、トラットリア カパーチェ
- ・県立美術館が行った文化交流ゾーンを周遊するイベント「フキ出しバルーンプロジェクト」について、当館の収蔵資料を紹介するプレイイベント（11月28日（土）、29日（日））、および制作したバルーンの展示（平成28年2月20日（土）、21日（日））において、連携協力を行った。
- ・斎宮歴史博物館との連携では、史跡公園さいくう平安の杜完成記念イベント「さいくう平安の杜フェスタ」（10月24日（土））にてブース出展を行った。伊勢型紙を使ったカードづくりのワークショップを行い、59名の参加者があった。

4) 環境生活部文化振興課、総合文化センター、県立図書館、県立美術館、斎宮歴史博物館

環境生活部文化振興課及び県立文化施設では、施設の相互利用の促進、子どもたちへの文化芸術鑑賞・体験機会の提供、県内外への共同広報などのために、次の事業を連携して行った。

- ・文化施設めぐり「みえの文化ラリー」（スタンプラリー）
実施期間 7月11日（土）～8月30日（日） 対象 高校生以下
参加施設 当館、総合文化センター、県立図書館、県立美術館、斎宮歴史博物館
内 容 参加施設をめぐり、クイズ等に回答してスタンプを集めると、オリジナルグッズをプレゼント。
- ・「あんな虫、こんな虫、そんな虫」絵画コンクール
募集期間 7月11日（土）～9月4日（金） 対象 虫展を観覧した県内の小学生以下
募集作品 虫をテーマとした絵画 参加施設 県立美術館、県総合博物館
表彰・展示 9月11日（金）～9月27日（日）、応募全作品を県立美術館で展示、また、9月26日（土）に優秀作品の表彰式を実施。
- ・県立文化施設ガイドチラシ
各県立文化施設の相互利用を促進するため、総合文化センター、県立美術館、斎宮歴史博物館、当館のおすすめを掲載したガイドチラシを作成し、配布した。
- ・みえの文化セミナー

当館、県立図書館、県立美術館、斎宮歴史博物館職員・外部講師が、東京の三重テラス、大阪の近鉄文化サロンにおいて、各施設の特色を活かして三重の文化を紹介する講演会を輪番で開催した。当館からは次の2名が参加した。

- ・三重テラス 開催日 平成28年1月15日（金） 講師 当館職員 太田光俊
テーマ 食でみる江戸のお伊勢参り～伊勢・志摩に残る面影～
- ・近鉄文化サロン 開催日 平成28年1月31日（日） 講師 当館職員 中川良平
テーマ でかいぞミエゾウ！～三重にいた巨大ゾウ

5.4.5 国県市町など

1) 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク（みえ歴史ネット）

県・市町・関係諸機関が連携し、地域の歴史的文化的資産の保存と活用を図ることを目的とし、平成23年6月、県内25市町の32機関と県の3機関が加入して「三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク」が発足した。平成27年度は、2回の会議と技術講習会を実施した。

また、平成28年3月19日（土）・20日（日）の両日、福島県郡山市で第2回全国史料ネット研究交流集会が開催され、三重県の状況について報告を行った。

第1回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議

開催日：10月30日（金）13:30～16:00

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム

主な内容：各市町の現状を報告し合い、現況確認調査への移行について話し合った。

第2回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議及び講習会

開催日：平成28年2月19日（金）

会場：三重県総合博物館 レクチャールーム

第1部 みえ歴史ネット会議 10:30～12:00

主な内容：第1回会議以降の進捗状況等確認。現況調査については、資料確認調査と並行して行うことの可能性を話し合った。

第2部 技術講習会 13:30～16:45

テーマ：「資料調査 こんな方法でやっています ー亀山市の場合ー」

講師：亀山市歴史博物館 小林秀樹館長

主な内容：山市が国の補助金を得て実施してきた調査について報告を行い、他の市町担当者との質疑応答をふまえて、三重県における資料調査の問題点等を議論した。

2) アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会（短期コース）

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館主催の研修会を開催し、講座の一部を担当した。日時：11月16日（月）～21（土）

3) 公文書館関係

公文書館関係機関開催の会議等へ参加した。

全国公文書館長会議 開催日：6月8日（月）～9日（火） 於：東京都

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（秋田）大会及び研修会

開催日：11月12日（木）～13日（金） 於：秋田県大仙市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）近畿部会総会

開催日：6月26日（金） 於：京都市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）近畿部会例会

開催日：8月12日（水） 於：三重県総合博物館

東海北陸地区公文書等保存利用事務協議会

開催日：平成27年10月2日（金） 於：金沢市

4) 文化財保存についての地域協力

地域にある文化財の保存・活用への協力は当館の使命としており、文化財の保存や修復方法に関する問い合わせへの回答・助言を行うとともに、必要に応じて当館の保存科学担当者が環境調査や資料分析を行った。

主な内容としては、収蔵施設等の施設設備や文化財防災に関する助言・講演、温度/湿度・化学物質・生物被害等についての測定と管理についての助言及び、X線透過撮影や蛍光X線による文化財の分析であり、平成27年度は次の対応を行った。

環境調査及び文化財調査の対応件数 10件

環境管理についての助言等の件数 9件

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座「絶滅危惧種ヒヌマイトトンボの保全」	5月16日(土)	レクチャールーム	伊勢市の浄水施設でのヒヌマイトトンボ生息地の保全について学ぶ講座	27
日本鱗翅学会	ワークショップ「ゆらゆらちょうちょ」	5月30日(土)	学習交流スペース	鱗翅学会の協力のもと、ミュージアム・パートナーのおもしろ博物館グループによるワークショップを連携実施	88
国際第四紀学連合	国際第四紀学連合第19回大会開催記念一般普及講演会「東海層群の昆虫化石」	7月11日(土)	レクチャールーム	国際第四紀学連合の第19回大会開催記念として講演会「東海層群の昆虫化石」を共催実施	45
中部電力	電気実験教室	8月14日(金)	実習室	子どもを対象とする電気に関する実験教室	104
中部電力	電気実験教室	8月15日(土)	実習室	子どもを対象とする電気に関する実験教室	73
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成講座「インタープリター養成講座」	8月16日(日)	ミュージアムフィールド	インタープリターの養成を目的とした野外講座	20
三重県教育委員会	社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」イベント	8月22日(土)	総合文化センター、博物館学習交流スペース等	社会教育に関わる学生のワークショップ等のイベントを共催実施	—
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成講座「インタープリター養成講座」	8月23日(日)	ミュージアムフィールド	インタープリターの養成を目的とした野外講座	16
三重県環境学習情報センター	環境県民講座「伊勢湾の再生を考える」	9月 5日(土)	レクチャールーム	伊勢湾再生に向けた産官学民で取り組む森・里・川・海のつながりを解説	33
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成講座「インタープリター養成講座」	9月 6日(日)	ミュージアムフィールド	インタープリターの養成を目的とした野外講座	12
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座生態学シリーズ「共存と絶滅」	9月12日(土)	レクチャールーム	連携講座の1回目、オーストラリアの有袋類をテーマとする講座	25
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成講座「インタープリター養成講座」	9月23日(水・祝)	ミュージアムフィールド	インタープリターの養成を目的とした野外講座	13

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座「MieMuでみる三重の植物」	10月12日 (月・祝)	レクチャールーム、ミュージアムフィールド	三重の多様な植生概要とミュージアムフィールドの植栽樹について解説	16
三重県環境学習情報センター	環境県民講座「伊勢湾の再生を考える」	10月18日(日)	レクチャールーム	伊勢湾再生に向けた分散型生活排水処理の役割について解説	36
三重県教育委員会	高校生フェスティバル	10月25日(日)	レクチャールーム	高校生フェスティバルの中の企画として、「国際地学オリンピックイベント「地球と三重の未来を考えるシンポジウム」共催実施	81
			実習室	高校生フェスティバルの中の企画として、「理数体験フェスタ」を共催実施	109
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座 生態学シリーズ「共存と絶滅」	10月31日(土)	レクチャールーム	連携講座の2回目、恐竜の繁栄をテーマとする講座	35
三重県農林水産部 ジュニアボード	MieMu 食と緑の体験会	11月10日(火)	実習室等	基本展示クイズラリー、ストラップづくり、三重の食材を使った昼食会、自然調査体験会、丸太切り体験等を共催実施	48
三重県農林水産部 森林・林業経営課	木工工作コンクール作品展示	11月17日(火) ～12月4日(金)	学習交流スペース	木工工作コンクール作品展示にパネル展示で協力	—
自然史学会連合	自然史学会連合講演会「自然史への招待～自然を見る目、自然を解き明かす心～」	11月22日(日)	レクチャールーム	自然史に関する講演会を共催実施	96
			交流展示室	自然史に関する体験教室を共催実施	328
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座「地層・化石から読み解く太古の自然環境」	11月23日 (月・祝)	レクチャールーム	地層や化石から分かる太古の自然環境に関する講座	27
三重県教育委員会	「ふるさと三重かるた」大会プレイベント	11月28日(土)	レクチャールーム	ふるさと三重かるたの活用促進の一環で実施されたプレイベントに共催協力	—
日本動物学会中部支部	公開講演会	11月29日(日)	レクチャールーム	生物学の先端研究で活躍する変わった動物たちをテーマとする講演会を共催実施	51
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座 生態学シリーズ「共存と絶滅」	12月5日(土)	レクチャールーム	連携講座の3回目、恐竜の絶滅をテーマとする講座	40
三重県環境学習情報センター	環境県民講座「伊勢湾の再生を考える」	12月12日(土)	レクチャールーム	豊かな伊勢湾の環境のいまとこれからについて解説	43
三重県環境学習情報センター	三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール入選作品展示	12月22日(火) ～1月17日(日)	学習交流スペース	地球温暖化防止啓発ポスターコンクール入選作品展示にパネル展示で協力	—
三重県下水道公社	下水道ポスター展	1月6日(水) ～1月15日(金)	学習交流スペース	下水道をテーマとしたポスターのパネル展示	—
三重県教育委員会	「ふるさと三重かるた」大会	1月9日(土)	レクチャールーム	ふるさと三重かるたの活用促進の一環で実施された大会に共催協力	49

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座「平野部を流れる川の自然と環境保全～祓川の事例を中心に～」	1月10日(日)	レクチャールーム	河川の環境保護について祓川を事例にして解説する講座	40
三重県農林水産部みどり共生推進課	みえの森フォトコンテスト入賞作品展	1月20日(水)～2月4日(木)	学習交流スペース	みえの森フォトコンテスト入選作品の展示に協力	—
日本自然保護協会	里やまの市民調査交流会	1月23日(土)	レクチャールーム	里やまの保護に関心をもつ市民による講演や活動報告会等の交流会を共催実施	53
日本自然保護協会	里山の市民調査交流会in三重ポスター展示	1月24日(日)～2月28日(日)	学習交流スペース	里山の市民調査交流会in三重ポスター展示を実施	—
三重県環境学習情報センター	環境県民講座「伊勢湾の再生を考える」	2月7日(日)	レクチャールーム	伊勢湾の現状と海岸漂着物など再生への取り組みについて解説	40
三重生物研究会	第64回三重生物研究発表会	2月13日(土)	レクチャールーム	県内の小中高生徒による日頃の研究成果発表	70
三重県環境学習情報センター	環境学習指導者養成スキルアップ講座生態学シリーズ「共存と絶滅」	2月13日(土)	三重県総合文化センター中研修室	連携講座の4回目、生物多様性をテーマとする講座	41
三重県農林水産部みどり共生推進課	国土緑化運動ポスター展	2月19日(金)～3月4日(金)	学習交流スペース	国土緑化運動ポスター作品の展示に協力	—
西日本自然史系博物館ネットワーク	自然系の標本に関する講演会	2月20日(土)	レクチャールーム	「学芸員お勧めの採集・観察用具と標本作り」をテーマに館内外の学芸員が講演	30
三重昆虫談話会、日本鱗翅学会東海支部	三重昆虫談話会例会・日本鱗翅学会東海支部例会 合同大会	3月6日(日)	レクチャールーム	三重県の昆虫に関する講演会を共催	—

5. 5他機関・団体への協力（職員の諸団体への協力活動）

他機関や団体から依頼を受けて各種委員や講師依頼等を受けて実施した講演や講座について学芸員ごとに講演、講座などの内容（テーマ）、依頼元、開催場所、実施日について記載した。

5. 5. 1 委員、講師等の依頼

布谷知夫（三重県総合博物館館長）

[委員等]

- 琵琶湖博物館名誉学芸員（4月1日～平成28年3月31日）
- 琵琶湖博物館名誉学芸員（4月1日～平成28年3月31日）
- 文化庁研修企画運営委員会座長（4月1日～平成28年3月31日）
- 文部科学省委員会委員（10月1日～平成28年12月31日）
- タカラフォルディング助成評価委員会、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 日本ヨシ笛協会顧問（4月1日～平成28年3月31日）
- 関西自然保護機構、監事（4月1日～平成28年3月31日）
- 日本自然保護協会自然観察指導員講習会講師団、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会植物ワーキンググループ、委員（4月1日～平成28年3月31日）
- 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員・会長代理（4月1日～平成28年3月31日）

5.4.6 その他の諸機関・諸団体

[大学講師]

- 14 NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 顧問 (4月1日～平成28年3月31日)
- 15 自然観察指導員三重県連絡会, 顧問 (4月1日～平成28年3月31日)
- 16 特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 監事 (4月1日～平成28年3月31日)
- 17 三重県博物館協会, 理事 (4月1日～平成28年3月1日)
- 18 日本ミュージアムマネージメント学会ミッションマネージメント研究部会, 委員 (7月～平成28年3月)
- 19 全日本博物館学会, 役員 (4月～平成28年3月)
- 20 全日本博物館学会, 学会誌編集委員会委員 (4月～平成28年3月)

[大学講師]

- 1 放送大学「博物館概論」担当講師 (3月31日～平成28年3月31日)

[講師等]

- 1 里山の成立と人のくらし 皇学館大学佐川記念神道博物館市民教養講座 皇学館大学佐川記念神道博物館講師 (5月23日)
- 2 文化ゾーンの春の植物観察 琵琶湖博物館植物観察はしかけ 文化ゾーン周辺 講師 (5月24日)
- 3 博物館経営論 皇学館大学学芸員過程 皇学館大学佐川記念神道博物館 講師 (7月11日)
- 4 今森光彦講演会「写真家と学芸員 虫で夢見た昆虫少年の今」 三重県総合文化センター中ホール 対談 (7月12日)
- 5 MieMu: 三重県総合博物館がめざそうとしていること 全国家庭科教師の会アラカルト(環境) 研修 三重県総合博物館実習室 講師 (7月29日)
- 6 博物館・美術館の楽しみ方 三重大学教育学部教育実施研究 三重県総合博物館共同研究室 講師 (8月23日)
- 7 博物館とミュージアムエデュケーター 第5回ミュージアム・エデュケーター研修 文化庁 東京都美術館 講師 (9月9日)
- 8 後半研修までの課題 第5回ミュージアム・エデュケーター研修 文化庁 東京都美術館 講師 (9月11日)
- 9 第5回ミュージアム・エデュケーター研修 文化庁 東京都美術館 全体コーディネーター (9月9日～11日)
- 10 文化ゾーンの秋の植物観察 琵琶湖博物館植物はしかけ 文化ゾーン周辺 講師 (9月13日)
- 11 博物館に求められる新しい役割 社会教育施設を拠点とした人づくりまちづくり 滋賀県社会教育研究会 東近江市能登川コミュニティーセンター 講師 (9月28日)
- 12 偕楽公園の植物観察会 津市環境部環境保全課 津偕楽公園 講師 (10月17日)
- 13 展示 三重県総合博物館MieMuの活動 たらちね会 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (10月18日)
- 14 三重県総合博物館・こんな博物館にしたい 東近江市社会教育研修 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (11月11日)
- 15 博物館の地域社会との関係 JICA博物館とコミュニティ開発コース JICA・国立民族学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館 国立民族学博物館 講師 (11月18日)
- 16 博物館の社会的役割・位置 第5回ミュージアム・マネージメント研修 文化庁 東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室 講師 (12月2日)
- 17 外部資金獲得 第5回ミュージアム・マネージメント研修 文化庁 東京国立博物館附属黒田記念館セミ

ナー室 講師 (12月3日)

- 18 自然の観察 自然観察指導員講習会 第521回NACS-J自然観察指導員講習会 日本自然保護協会・NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 吹田市自然体験交流センター 講師 (12月5日)
- 19 森の観察 自然観察指導員講習会 第521回NACS-J自然観察指導員講習会 日本自然保護協会・NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 吹田市自然体験交流センター (12月5日)
- 20 テーマひろい 自然観察指導員講習会 第521回NACS-J自然観察指導員講習会 日本自然保護協会・NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 吹田市自然体験交流センター (12月6日)
- 21 文化ゾーンの冬の植物観察 琵琶湖博物館植物はしかけ観察会 文化ゾーン周辺 講師 (12月12日)
- 22 地域と利用者に向き合う博物館を目指して FUJITSUファミリア会東海支部 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (12月17日)
- 23 利用者主体の博物館とそこでの展示の役割 博物館教育論 放送大学 (ラジオ) 講師 (12月21日)
- 24 全体討論とまとめ 第5回ミュージアム・エデュケーター研修 文化庁 葛飾区郷土と天文の博物館 講師 (平成28年2月5日)
- 25 第5回ミュージアム・エデュケーター研修 文化庁 葛飾区郷土と天文の博物館 コーディネーター (平成28年2月4日～5日)
- 26 身近な里山と植物の話 三重県環境学習情報センターステップアップ講座 男女共同参画センター多目的ホール 講師 (平成28年2月7日)
- 27 三重の自然と人のくらし 三重県職員ブラッシュアップ研修 三重県職員研修センター 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (平成28年2月18日)
- 28 森と植物の不思議な話 生物多様性を考える講演会 滋賀県高島合同庁舎いきものふれあい室 ピアザ淡海 講師 (平成28年3月6日)
- 29 文化ゾーンの春の植物観察 琵琶湖博物館植物はしかけ観察会 文化ゾーン周辺 講師 (平成28年3月19日)
- 30 開館2年のMieMu 津市商工会議所 津市商工会議所 講師 (平成28年3月25日)
- 31 学校と地域とがつながるためには ESD推進セミナー 環境庁中部地方環境事務所 ウィンクあいち会議室 講師 (平成28年3月29日)

瀧川和也 (主幹・課長代理・学芸員)

[委員等]

- 1 四日市市文化財保護審議会 委員
- 2 鈴鹿市文化財調査会 委員
- 3 亀山市文化財保護審議会 委員
- 4 津市文化財保護審議会 委員

藤谷彰 (主幹・学芸員)

[講師等]

- 1 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会・研修委員会委員

[講師等]

- 1 川越町古文書講座, 川越町あいあいセンター (5月20日, 6月17日, 7月15日, 8月19日, 9月16日の5回)
- 2 アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会短期コース (主催: 国文学研究資料館) (11月19日)
- 3 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (全史料協) 近畿部会例会 (8月12日)
- 4 津市教育研究会社会科部会 (平成28年8月19日)

中野環 (主査・学芸員)

[委員等]

- 1 河川水辺の国勢調査アドバイザー (国土交通省 三重河川事務所)

2 三重県生物多様性保全検討委員会委員（三重県農林水産部）

[講師等]

- 1 生きものの名前を調べてみよう ～「標本」をつくってみませんか～，しまこどもセンター・三重県環境保全事業団（8月2日）
- 2 ぼくら生き物調査隊 採って調べて形にしよう！，みえこどもの城・三重県環境保全事業団（8月8日）
- 3 大紀町教育振興会研修会〔アクリルペーパーウェイトづくり〕，大紀町教育振興会（8月6日）
- 4 南伊勢町教育振興会研修会〔磯の生物観察〕，南伊勢町教育振興会（8月18日）
- 5 南伊勢町立南島中学校体験学習〔海藻を使った実験教室〕，南伊勢町立南島中学校（11月21日）

北村淳一（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 淡水魚保全のための検討会検討委員（環境省）
- 2 木曾川水系イタセンパラ保護増殖事業検討会アドバイザー及びガイドライン作成部会委員（環境省中部地方環境事務所）
- 3 木曾川ワンド環境検討会委員（国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所）
- 4 利根川下流部自然再生モニタリング委員会委員（国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所）
- 5 櫛田川自然再生推進会議委員（国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所）
- 6 農業農村整備事業環境アドバイザー協議会委員（三重県農林水産部農業基盤整備課）
- 7 祓川環境保全全体会議座長
- 8 祓川環境美化推進協議会推進委員
- 9 ミナミアカヒレタビラ保護対策協議会（島根県環境生活部自然環境課）
- 10 希少野生動植物種保存推進員（環境省）

[講師等]

- 1 水生生物の総合学習 松阪市立朝見小学校 校内（6月2日）
- 2 水生生物の総合学習 明和町立下御糸小学校 校内（6月15日）
- 3 水生生物の総合学習 松阪市立朝見小学校 校内（9月8日）

間淵創（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 文化財保存修復学会災害対策調査部会拡大委員

[講演等]

- 1 「三重県博物館協会の災害時相互協力体制について」静岡県博物館協会研修会 静岡県立美術館（5月26日）
- 2 「博物館資料の保存」三重大学博物館実習（生物資源）三重県総合博物館（6月20日）
- 3 「博物館資料の保存」三重大学博物館実習（人文）三重県総合博物館（7月8日）
- 4 「博物館資料保存論」三重大学学芸員課程博物館資料保存論学外講義 三重県総合博物館（8月19日）
- 5 「博物館資料保存論」皇学館大学学芸員課程博物館資料保存論学外講義 三重県総合博物館（10月18日）
- 6 「三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて」みんなでももる文化財みんなをまもるミュージアム事業，三重県総合博物館（10月28日）
- 7 「三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて」兵庫県博物館協会研修会，兵庫県立考古博物館（平成28年2月12日）

大島康宏（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 日本鱗翅学会自然保護委員

- 2 日本蝶類学会学術委員
- 3 栃木県立博物館調査研究協力員
- 4 蜻蛉研究会編集委員
- 5 希少野生動植物種保存推進員（平成25年7月1日～平成30年6月30日）

太田光俊（学芸員）

[講師等]

- 1 「藤堂藩と伊勢神宮」有造館ゼミナール主催（6月26日）
- 2 「江戸時代、お伊勢参りの食と文化～みえむの展示から～」第4回よもやま歴史教室、菰野町教育委員会（9月19日）
- 3 「古文書解読いろは講座」、鳥羽市立図書館（10月16日・11月20日・12月18日・平成28年1月22日・2月19日）
- 4 三重県博物館協会会員館スキルアップ研修、「自然災害対応に向けた基本情報調査の継続について」三重県博物館協会（平成28年2月10日）

森田奈菜（学芸員）

[委員等]

- 1 希少野生動植物種保存推進員（平成25年7月1日～平成30年6月30日）

中村千恵（学芸員）

[講師等]

- 1 第3回公害資料館連携フォーラムin四日市 展示分科会 じばさん三重（12月13日）

津村善博（嘱託学芸員）

[委員等]

- 1 三重県環境影響評価委員
- 2 下水道処理建設に関するアドバイザー（三重県中勢流域下水道事務所）（4月～平成28年3月31日）
- 3 鈴鹿亀山道路環境調査アドバイザー（三重県県土整備部）（4月1日～平成28年1月31日）
- 4 津市文化財保護審議会委員
- 5 松阪市文化財保護審議会委員
- 6 丹生水銀調査委員

水谷憲二（嘱託学芸員）

[講師等]

- 1 「戊辰戦争と藤堂藩」ときめき高虎会・新春講演会（4月25日）
- 2 「織田・豊臣時代の桑名」桑名市在良公民館・心豊かに生きよう学級（6月12日）

6 企業との連携

6.1 事業の趣旨・目的

博博物館活動の基本的な活動の視点の一つである多様な主体との連携を進めるにあたり、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体との交流と連携に取り組んでいる。金銭的な支援だけでなく、新たな創造と発信の機会とするために、講演会や各種ワークショップ、パネル展示等を共催して実施している。

- ・寄附 企画展示の充実や、展示・収蔵資料の保存や修繕など、博物館の活動全般に対する金銭的な支援
- ・企業パートナーシップ 一定額を会費として支払うことにより、博物館の利用に関する各種の特典を受けられる。
- ・コーポレーション・デー 任意の日在一定額の協賛をすることで、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料になり、合わせて企業PRなどができる。

6.2 パートナー企業数（平成28年3月末現在）※重複あり

- ・寄附支援企業 84社
- ・企業パートナーシップ会員 138社

6.3 連携事業

1) コーポレーション・デー

企業名	実施日	主なイベント
株式会社ケーブルコモンネット三重	6月13日(土)	各社キャラ来館、科学実験ショーと工作教室
中京テレビ放送株式会社	9月12日(土)	大徳さんステージショー
一般社団法人三重県トラック協会 青年部会	1月17日(日)	レーシングトラック展示、10tトラック綱引き、スタンプラリー
東邦ガスグループ（東邦ガス株式会社、東邦液化ガス株式会社）	3月20日(日)、 21日(月・祝)	トークショー、調理実習・試食会、省エネ診断、出前授業
株式会社百五銀行	3月26日(土)	金融・通貨・銀行の歴史についてパネル展示、映像紹介

※コーポレーション・デー：多くの方に博物館に親しんでいただくきっかけとして、企業等の協賛により、特定の日の基本展示観覧料を無料化。協賛企業等は、チラシの配布など自らの広報活動を実施できる制度。



大徳さんステージショー



10tトラック綱引き(駐車場にて)



料理教室の様子

2) 展示

展示名	展示名	企業の協力内容
株式会社メディカルー光	関口照生写真展「地球の笑顔」※	創業30周年記念展示、トークショー
本田技研工業株式会社、株式会社モビリティランド	SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～※	展示資料の借用、企画展の広報協力
ボーイング社、全日本空輸株式会社	みんなの飛行機展（9月15日(火)～6月23日(水)）	航空機関連のパネル展示、体験型講座
読売新聞社中部支社	第59回日本学生科学賞三重県展(9月30日(水)～10月4日(日))	作品の展示・審査・表彰
公益社団法人三重県歯科医師会	“生きるの入り口～歯の博物館(11月3日(火)～11月15日(日))	人間や動物の歯等の実物展示

※4.2.1及び4.2.2で記載



「地球の笑顔」関連事業
関口照生氏トークショー



第8回企画展「SUZUKA 夢と挑戦のステージ
～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～」

3) イベント

内 容
企業がMieMuで、ワークショップやパネル展示を実施 ※うまみ教室（3月20日(日)、3月21日(月・祝))、電気教室（8月14日(金)、8月15日(土))、ポスター展（バス協会（9月27日(日)～10月12日(月・祝)）
百貨店の催事やショッピングモールにおける展示やイベントの実施（9月12日(土)）
各地区の団体の会合において、当館学芸員が祇川の川の生態系（魚、植物）について出張講話（1月22日(金)）
「花と緑と水の里」食用花(エディブルフラワー)の企画・展示・試食会（2月20日(土)～2月28日(日)）

4) 館長懇談会の開催

毎年1回、寄附賛助会員・企業パートナーシップ会員をMieMuに招待し、館長の講話や、会員企業同士の名刺交換会や、学芸員との交流会を開催。

館長講話テーマ：生きものから学ぶ最新技術

出席数：18社・4団体（計25名）と学芸員・職員12名

5) ショップ関係

MieMuオリジナル商品（パン、あられ、木工製品等）を開発、ショップで販売

6) その他

県外や海外からの来客を案内、社内報への掲載、景品に観覧券利用など。

7 利用者との協創

7.1 事業の趣旨・目的

三重県総合博物館の基本的な活動の視点である「県民・利用者との協創」に基づく取組として、旧県立博物館時代の「サポートスタッフ」を発展的に継承し、開館とともに活動を開始した「三重県総合博物館ミュージアム・パートナー」の活動への支援、平成27年度から展開する「ボランティア」活動の募集を行った。

7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー

旧県立博物館時代の平成18年度に結成され新博物館整備活動にもかかわった「サポートスタッフ」を母体に、博物館とともに活動し、支える外部団体として「ミュージアム・パートナー」が発足した。当館学芸員が活動を支援し、独自の講座・観察会を実施し、三重の自然と歴史・文化について調査・観察、発信する活動を行っている。また、サポートスタッフ時代から様々な分野で活動していたグループ活動を引き継ぎ、6グループが活動を行っている。

1) 会員数 54組 255名 (平成28年3月31日時点)

2) 主な活動内容

- ・会員を対象とする講座、フィールドワーク等の事業を実施
- ・会報を発行
- ・博物館活動への参加・協力、博物館との連携によるワークショップ等の実施
- ・仲間とともに興味・関心を深めることができるグループ活動 (歴史、民俗、生きもの、染織、おもしろ博物館、ユニバーサルミュージアムの6グループ)
- ・総会 (年1回)、事務局会議 (月1回)、役員会 (会長が招集)、グループ代表者会議を開催

3) 活動内容

- ・ミニ講座 シリーズ「MieMuの秘密」

第1回「むかしの官位のおはなし」 講師：当館職員 天野秀昭

開催日 6月28日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 17名

第2回「火葬の始まりを探る～持統太上天皇の葬儀をめぐって～」 講師：当館職員 宇河雅之

開催日 9月27日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 12名

第3回「やわらかい石、かたい石」 講師：当館職員 津村善博

開催日 12月13日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 18名

第4回「身近な動物をもっと身近に～ニホンジカ～」 講師：当館職員 田村香里

開催日 平成28年3月27日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 18名

- ・こだわり講座

ミュージアム・パートナー会員が講演を行う講座で、ミュージアム・パートナー内での活動のみに限定せず、個人での活動などについても紹介する。

第1回「日本刀よもやま話」 講師：中西勤さん

開催日 5月31日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 12名

第2回「野生のサルの追っかけ話」 講師：山腰由紀子さん

開催日 8月30日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 27名

第3回「郷土の傑僧 文英清韓と豊臣家」 講師：清水重久さん

開催日 11月15日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 20名

第4回「みんなでやりたい！地域回想法」 講師：富本真理子さんとUMグループ

開催日 平成28年2月28日 (日) 13:30～

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

参 加 9名

・初心者のための博物館資料取扱講座

博物館での資料の扱い方について、当館の学芸員が講師となって行う講座

自然系資料（貝類標本資料） 講師：当館職員 中野環

開催日 9月13日（日）13:30～

場 所 三重県総合博物館

参 加 15名

人文系資料（軸装資料） 講師：当館職員 岸田早苗

開催日 12月5日（土）13:30～

場 所 三重県総合博物館

参 加 9名

・自然史系学芸員と行く、津市丘陵地の自然 春・夏・秋・冬

博物館学芸員などが講師を行い、館外での観察会事業

場所 津市片田地区

第1回「春」

開催日 4月26日（日）10:00～15:00

参 加 25名

第2回「夏」

開催日 7月5日（日）10:00～15:00 ※荒天のため中止

第3回「秋」

開催日 10月25日（日）10:00～15:00

参 加 20名

第4回「冬」

開催日 平成28年2月7日（日）10:00～15:00

参 加 14名

・まちあるき歴史ウォーク

第1回 「一身田高田本山と寺内町めぐりの歴史ウォーク」

開催日 4月4日（土）9:30～15:00

場 所 津市内

参 加 20名

第2回 「名張藤堂家邸跡と旧細川邸やなせ宿」

開催日 10月18日（日）10:00～15:00

場 所 名張市内

参 加 13名

・その他フィールドワーク

「一志層群の化石をたずねて」

開催日 5月10日（日）10:00～12:00

場 所 津市内

参 加 15名

「松名瀬干潟の生きもの観察会」

開催日 6月6日（土）10:00～12:00

場 所 松阪市内

参加 20名

「昆虫担当学芸員と行く、アサギマダラと答志島たんけん」

開催日 10月11日（日）9:00～15:30

場所 鳥羽市内

参加 15名

「紀州鉾山をたずねて」

開催日 平成28年1月16日（土）10:00～14:00

場所 熊野市内

参加 12名

・博物館めぐり

県内外の博物館を訪れ、バックヤードを含め見学

第1回 「伊賀流忍者博物館と上野公園散策へ参ろうぞ！」

開催日 8月23日（日）10:00～15:00

場所 伊賀市内

参加 17名

第2回 「斎宮まるわかりツアー 斎宮歴史博物館へ行こう！」

開催日 平成28年1月24日（日）10:00～15:00

場所 明和町斎宮

参加 15名

・バックヤードツアー～博物館の裏側を見てみよう～ 案内：当館職員 中村千恵

開催日 5月17日（日）10:00～

場所 三重県総合博物館バックヤード

参加 22名

・ナイトミュージアム～夜の博物館を歩いてみよう～ 案内：当館職員 中村千恵

開催日 7月26日（日）19:00～

場所 三重県総合博物館内

参加 21名

・企画展内覧会

ミュージアム・パートナーを対象とする企画展内覧会を実施

第7回 企画展「あんな虫、こんな虫、そんな虫～身近な小さな生きものたち～」

開催日 7月10日（金）16:00～

参加 24名

第8回 企画展「SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダF1と鈴鹿サーキット～」

開催日 9月18日（金）16:00～

参加 30名

第9回 企画展「くらしの道具～いま・むかし～」

開催日 12月11日（金）16:00～

参加 16名

第10回 企画展「明治の日本と三重～近代日本の幕開けと鹿鳴館時代～」

開催日 平成28年2月5日（金）16:00～

参加 19名

・ミュージアム・パートナー発表会「こんなんしとるんやに2016」

ミュージアム・パートナーが今年度行った活動について発表、展示する行事。

開催日 平成28年3月5日(土)・6日(日) 各9:00~17:00
場 所 エントランスホール、交流展示室、実習室、交流活動室(3月5日)、
3階ワークショップコーナー(3月6日)

参 加 858名

・平成27年度総会

開催日 4月5日(日) 13:30~

場 所 三重県総合博物館3階 レクチャールーム

・会議等

役員会(2ヶ月に1回、第2土曜日に開催)

開催日 8月24日(日)、9月5日(金)、9月14日(日)、10月5日(日)、12月14日(日)、
1月10日(土)、2月8日(日)、3月14日(土)

事務局会議(原則毎月第2土曜日開催)

開催日 4月11日(土)、5月9日(土)、6月13日(土)、7月11日(土)、8月8日(土)、
9月12日(土)、10月10日(土)、11月14日(土)、12月12日(土)、1月9日(土)、
2月13日(土)、3月12日(土)

定期発送作業(原則第4木曜日実施)

開催日 4月23日(木)、5月28日(木)、6月25日(木)、7月23日(木)、8月27日(木)、
9月25日(金)、10月22日(木)、11月26日(木)、12月24日(木)、1月28日(木)、
2月25日(木)、3月24日(木)

グループ代表者会議(年4回開催)

開催日 6月14日(日)、9月13日(日)、12月13日(日)、3月13日(日)

こなんしとるんやに実行委員会

開催日 6月14日(日)、7月12日(日)、9月27日(日)、11月8日(日)、12月6日(日)、
1月11日(祝・月)、2月11日(祝・木)、2月27日(土)、3月19日(土)

・グループ活動

<企画局・情報局(事務局)>

企画局と情報局は、相互に連携しながらミュージアム・パートナーの活動や企画と情報発信に取り
組むグループである。定期的集まり、企画局は会の運営や事業計画、情報局は通信の発行など主な
活動とした。なお、両グループでは活動方針を見直し、平成27年度から「ミュージアム・パートナ
事務局」として一本化し、会の運営に関わる活動を行うこととなった。

<ユニバーサル・ミュージアムグループ>

ワークショップや実践的な活動を通じて、障がいをお持ちの方とともに博物館を楽しむための方法
について考えている。目の不自由な方の展示案内のほか、触地図や展示内容を深めてもらうためのグッ
ズ(触れない展示資料の感触を体感してもらう)の試作、民俗資料や昔の風景写真等、博物館資料を
活用した回想法についても取り組んでいる。

<民俗グループ>

毎月第1土曜日に例会、第2金曜日に農具班の例会をおこなった。土曜日の例会では、県内の各地域
に残る伊勢講について、各自が聞き取り調査をした成果を持ち寄り、グループ内で共有した。農具班
の活動では、旧上野農業高校から寄贈された農具を整理し、農具の使い方や伊賀地方の農事暦につ
いて詳しい方をお招きしてお話を伺った。農具班の調査成果については、第9回企画展「くらしの道具
〜いま・むかし〜」において紹介するとともに、昔の道具を体験する同展のワークショップも実施し
た。

<おもしろ博物館グループ>

博物館で子どもから大人まで楽しむことができる体験学習やモノづくり教室の企画や運営を行うグループである。平成27年度の主な活動は、毎月第4土曜日午前中に活動打合せを行い、奇数月の第4土曜日午後には土日ワークショップとして簡単な工作教室等を実施した。館外での活動としては、8月には県総合文化センターで行われるM祭!での「ぬりえでネームタグをつくろう!」や、11月には岐阜県博物館との初めての交流企画において「自然をモチーフとした工作体験」として、オオサンショウウオの紙工作などを実施した。年末には恒例となっている「正月かざりづくり」を行った。

<生きものグループ>

月に1度のペースで伊勢市や松阪市を中心に水生生物調査を行った。初夏には松名瀬干潟観察会のスタッフ協力、また三重県農林水産部主催の祓川生態系維持回復事業へ3回参加した。夏休み期間中に志摩市で1泊2日の合宿、そして岐阜県博物館サポーター・魚研究会と相互交流を行っており、お互いの水生生物調査に協力し、東山動植物園内の世界のメダカ館見学も合同で行った。2か月に1度のペースで液浸標本づくり、資料整理も行った。

<歴史グループ>

毎月第1土曜日に、輪読会を開催した。特に伊藤又五郎家文書の輪読を行い、各自の古文書読解能力の向上をはかった。毎週木曜日は文書整理の会を開催した。ここでは、白子伊達家文書を中心とした未整理資料の整理を進めつつ、古文書読解能力及び、目録作成能力の向上を図り、あわせて館蔵資料の整備にも資するように活動した。その成果を、ミュージアム・パートナー全体のイベントにて伊藤又五郎文書を中心に展示を行い示した。

<染織グループ>

かつて伊勢木綿、松阪木綿と呼ばれ全国的に有名であった三重県の織物や藍染めなどについて、多くの方に知っていただくことをめざしている。博物館の里山で藍などを栽培し、それをを用いた染色に力を入れている。また、育てた藍の種を希望者に配布する活動や、「染める」や「織る」という現代では馴染みの薄い作業を身近に感じてもらうため、体験講座を開催している。メンバー各々が自分の研究や興味を深め、グループ内で発表しあうことや、染めの実験も予定している。

※上記の通り、グループ活動一環として博物館資料の整理等（歴史グループによる古文書整理、民俗グループによる民俗資料整理など）に取り組んでもらっている。

7.3 ボランティア

1) 募集開始の経緯

旧県立博物館で平成18年度から活動を開始したサポートスタッフ活動は、博物館を舞台として利用者の興味関心の自己実現を目指す活動であったが、その後、博物館で何らかの活動をしたいが、特に興味関心など専門的な活動の場は求めている利用者から、ボランティア活動を望む声が多く寄せられた。これを受けて、サポートスタッフが発展的に改称したミュージアム・パートナーと、ボランティアとの活動内容の整理を行ったうえで、平成26年度末にボランティアの募集を行った。

2) 応募状況

県内各所で募集パンフレットの配布依頼をしたところ、50名の応募があった。希望者に対して面接をおこない、全員を登録としたが、保存環境ボランティアについては定員を大幅に超えたため、専願または特に希望する14名に絞り込みを行った。

その後、平成27年3月21日(土・祝)、22日(日)、28日(土)と3日間にわたって事前研修をおこない、当館の概要や博物館でボランティア活動をする意義、活動の内容について説明をした。そして、平成27年4月より、各グループのボランティア活動を開始した。

3) ボランティアの活動内容

「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民のみなさんとの「協創」の一環として「み

えむボランティア」を募集し、博物館のスタッフとして職員とともに博物館活動を支える活動を行う。

具体的には、以下の3つのグループに分かれてボランティア活動を行った。

- ・来館者対応ボランティア 25名（年度末の人数）
- ・ミュージアムフィールドボランティア 10名（年度末の人数）
- ・保存環境ボランティア 14名（年度末の人数）

4) 各グループの活動状況

<来館者対応ボランティア>

・活動内容

来館者の案内（展示室・飲食場所・トイレ・ロッカー・交通手段など）

ミエゾウ・オオサンショウウオのさんちゃん・実物図鑑ルームなどの案内

学校見学の際の対応

ワークショップ・講座などの補助

チラシ・ポスターなどの配布協力

・年間の活動

4月11日（土） 全体研修：活動の流れ・活動場所・活動内容・諸注意などを説明

5月12日（火） 活動開始。ボランティアの方の希望に応じてシフトを組み、各日午前（9時～13時）と午後（12時45分～16時45分）に分かれて活動。12時45分～13時は、午前・午後の引き継ぎの時間。

8月15日（土） 中川学芸員による研修（ミエゾウの話）と意見交換会

9月12日（土） 北村学芸員による研修（オオサンショウウオのさんちゃんの話）

1月16日（土） 門口学芸員による研修（基本展示室のくらしの話）と意見交換会

3月12日（土） 太田学芸員による研修（基本展示室の御師の展示の話）とまとめの会

<ミュージアムフィールドボランティア>

毎月第二日曜の午前中に、ミュージアムフィールドの除草作業を実施した。駐車場エリアや外周など、来館者が多く通行する範囲を中心に、その都度、除草の必要な場所を選び実施した。

<保存環境ボランティア>

IPMの一環として月1回程度の頻度で計9回、粘着トラップの設置・回収と実体顕微鏡下で文化財害虫の観察・計数を行った。また寄贈図書資料の虫干しを1回行った。

5) 「感謝のつどい」実施

年度末の3月12日（土）に、ボランティアの方々への感謝を込め、この1年の各グループの活動を振り返るとともに、来年度に向けての取組について意見交換をおこなう、「平成27年度みえむボランティア感謝のつどい」を実施した。

8 広報

8.1 新聞・テレビ・ラジオ

1) 新聞

平成27年度における新聞への掲載実績は、165件であった。

第7回企画展「あんな虫、こんな虫、そんな虫」については、連載を掲載していただくなど、博物館活動について様々な形で情報発信することができた。

2) テレビ

平成27年度におけるテレビでの報道実績は、33件であった。

3) ラジオ

平成27年度におけるラジオでの報道実績は、26件であった。

8.2 雑誌

1) 雑誌・フリーペーパー

平成27年度の掲載実績は、雑誌が5件、フリーペーパーが42件の計47件であった。

津市近郊の情報を扱うフリーペーパーでは、定期的に情報を掲載していただける関係ができており、今後も継続していく。また読者プレゼントとして、各企画展の招待券を提供する場合もあった。

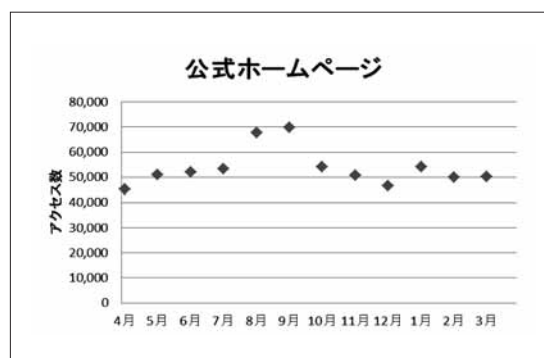
2) 社内報等その他の発行物

社内報や業界誌など、その他の発行物への掲載実績は、2件であった。

8.3 ホームページ

1) 月間アクセス数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	45,212	10月	54,224
5月	50,901	11月	50,734
6月	52,110	12月	46,419
7月	53,232	1月	53,989
8月	67,778	2月	49,980
9月	69,811	3月	50,059

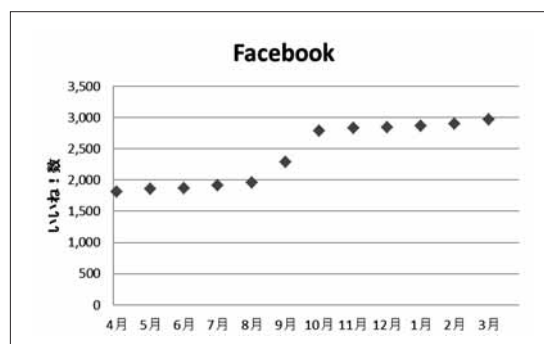


8.4 Facebook・Twitter

当館では、博物館を身近に感じより親しんでいただくことを目的として、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）のうちFacebookとTwitterの運用を行っている。

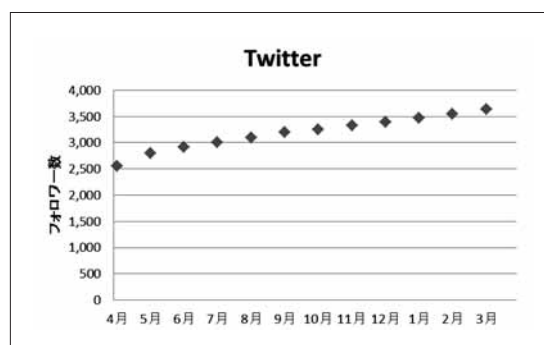
1) Facebook 月間の「いいね！」数

月	いいね！数	月	いいね！数
4月	1,812	10月	2,789
5月	1,852	11月	2,827
6月	1,873	12月	2,841
7月	1,909	1月	2,867
8月	1,960	2月	2,897
9月	2,290	3月	2,966



2) Twitter 月間のフォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	2,554	10月	3,253
5月	2,798	11月	3,332
6月	2,910	12月	3,393
7月	3,007	1月	3,465
8月	3,089	2月	3,554
9月	3,196	3月	3,638



8.5 その他

広報活動の一環として、イオンモールなどの商業施設にブース出展し、博物館の施設や展示を紹介する移動展示やPRイベント等を行った。

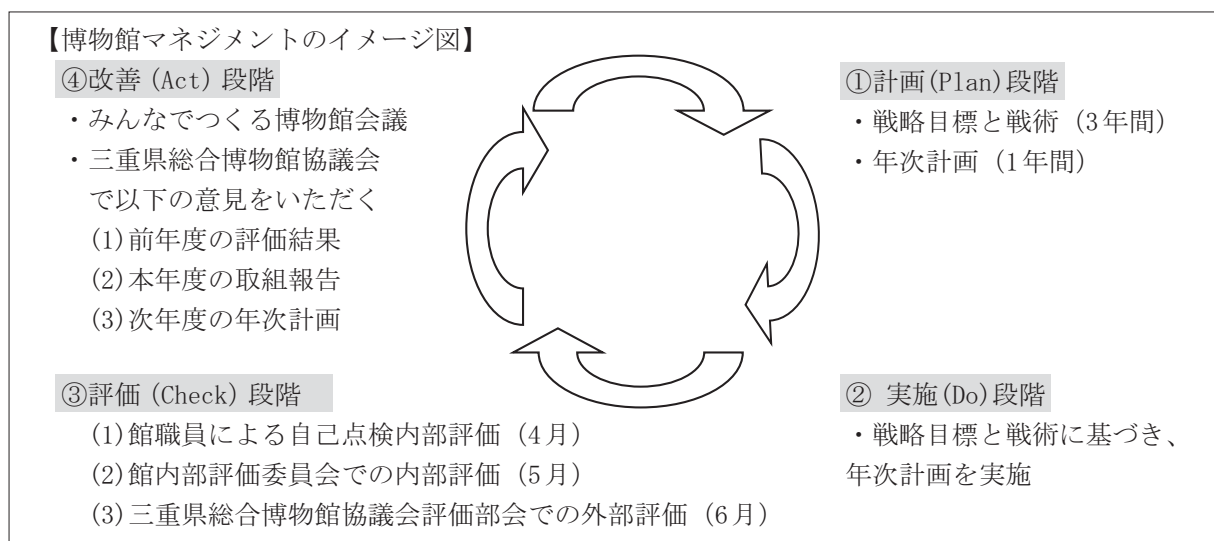
行事名	期間	会場	概要	参加人数
イオンモール京都桂川 ブース出展	9月11日(金) ～13日(日)	イオンモール 京都桂川	第8回企画展のパネル・ポスター展示 パンフレット配布 F1マシンのぬりえ	450
さいくう平安の杜フェ スタブース出展	10月24日(土)	さいくう平安 の杜	パネル・ポスター展示 パンフレット配布 伊勢型紙を使った ポストカードづくり	59
計				509

9 博物館の評価

9.1 評価のしくみ

三重県総合博物館の活動を県民・利用者みなさんと、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」である。

三重県総合博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)」のサイクルとして展開していく評価と改善のしくみを構築している。



1) 計画段階

① 短期計画 (3年間)

「三重県総合博物館協議会」や「みんなでつくる博物館会議」などに意見を求めながら、短期 (3年間) の戦略目標と戦術を作成、公表する。

戦略計画は3年間、重点的に目的をもって取り組む戦略目標、戦略目標達成のために具体的に取り組む戦術を決め、戦略や戦術の成果を評価する指標とその目標値を定める。

② 年次計画

短期計画のプロセスと同様に、1年間の事業計画を作成し、概要は、「三重県総合博物館年報」に掲載して公表する。

2) 施策段階

実施にあたっては、来館者アンケートを分析し、利用者による評価を集約する。

利用者数、満足度など、博物館の状況を表す数値データなども集計する。

3) 評価段階

実施段階で得たアンケート等のデータを活用し、段階的に①自己点検評価、②内部評価、③外部評価を組み合わせた総合評価を行う。

- ①自己点検評価：前年度の戦略と戦術に基づいて実施された活動と運営について、各活動と運営を担当した職員が成果指標のデータ分析を行い、活動と運営の成果について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（4月）。
- ②内部評価：館職員による内部評価委員会を設置し、自己点検評価者とともに、各事業について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（5月）。
- ③外部評価：内部評価委員会でまとめた事実確認と評価、改善点を元に、外部評価として設置した三重県総合博物館協議会の評価部会（委員5名）が、前年度の活動と運営の成果について評価をし、改善点を付す（6月）。

また、事業を日常的に確認し改善するために、内部において毎日朝夕2回の「日常点検報告会（5分）」と定期および臨時の戦略会議をもつ。定期戦略会議としては、第1休館日に全職員による「MieMuミーティング（1時間）」と館常勤職員による「運営ミーティング（3時間）」を開催している。また、毎週週初めに課長代理以上の職員による「トップミーティング（2時間）」を開催している。

【評価と改善のしくみの構築】

先行事例を調査し、自己評価と外部評価（県民・利用者参加型の評価を含む）を効果的に取り入れ、目標・指標の設定から事実確認、評価、改善策の打ち出しまで一連の制度の構築に向けて県民のみならず博物館評価を専門とする外部有識者とともに検討している。

4) 改善段階

前年度の活動と運営に対する評価結果と本年度の取組について、来館者アンケートとみんなで作る博物館会議および三重県総合博物館協議会などでいただいた意見を参考に、次年度の年次計画や次期3年間の戦略目標や戦術を構築させていく。

9.2 平成27年度の戦略目標と戦術の評価結果

平成27年度の評価結果は、次の日程で実施した。

館職員の自己点検内部評価は、平成28年4月中に各戦略と戦術の担当者が評価シートをまとめた。内部評価委員会は平成28年5月24日（火）及び6月1日（水）に実施し、外部評価は平成28年9月9日（金）に三重県総合博物館協議会評価部会を実施した。評価結果の概要は以下のとおりであり、各戦略目標と戦術の詳細な評価結果については、巻末の事業成果一覧に掲載した。

①内部評価結果（概要）

- ・総合博物館として自然と歴史・文化まで様々なテーマの展覧会を計14本開催することで、展示テーマに応じて新規来館者を獲得するとともに、年間を通じてリピーターも確保することができた。展示観覧者アンケートからは、お子様から高齢者の方まで幅広い世代にご覧いただき、満足度の4段階評価のうち、最も高い「満足」が約50%以上（「やや満足」を合わせると85%以上）を占めていることが確認できた。また、広報・営業活動により、中勢地域を中心にMieMuの認知度（約71%）を高めるとともに、企業パートナーシップ会員との連携事業や、長期会員を増やすことができた。
- ・一方で、昨年度と同様極めて多くの展覧会（企画展示5本、交流展示8本、トピック展示1本）を開催したことや、多様な主体との連携事業等を館内で数多く実施したこと、それらの対応等に館全体の経営資源のうち、極めて多くを配分せざるを得なくなったこと、開館2年目でまだ実施体制が未整備であること、展示等の技術・経験が職員に蓄積されておらず事業準備に時間がかかったことから、志摩地域を対象とする総合研究をはじめ博物館活動の根幹をなす資料収集・調査研究などに時間を割く事ができず、一部の事業における低い実施実績の要因になった。
- ・平成26年度の評価結果を受けて、他事業から注力すべき広報費への予算積み替えや、負担を分担す

るため企画展チーム制の導入などを実施したが、館内の予算や人員を効果的に配分できたのが一部分に留まった。今後、より効果的な運営体制を整えられるよう、評価制度の実施スケジュールを見直すとともに、館全体の予算・人員などの経営資源を効果的に配分し、職員が自らPDCAサイクルに基づいて客観的に業務を管理する努力をさらに向上することで、効率的に事業を実施することが課題である。

②外部評価結果（概要）

- ・企画展での幅広いテーマ設定と年間開催件数の増加で、幅広い年齢層を獲得し、館全体としても多くの新規来館者（60%）を得たことは評価できる。
- ・リピーターについては、一定程度（40%）は確保できているが、現状割合の維持や来館回数の拡大には、陳腐化を感じさせない、基本展示の計画的な更新や解説機会の充実、学校を対象としたプログラムの開発等が急がれる。
- ・来館者の満足度について、事業ごとに度合いは異なるものの、総じて満足が得られる（展示に関しては85%以上の）活動を展開できている。
- ・広報活動に関しては、東京でのプロモーションやSNSの活用など、新たな手法を積極的に取り入れて事業が展開できたことは評価できる。
- ・展示環境や資料の保全・保護については、館の資料はもとより、公立機関として全県的な活動（支援）ができたことは評価できる。
- ・県民や利用者との連携について、企業とは、利用者だけでなく活動資金の確保でも、他の公立館にはない、すぐれた実績を残している。反面、「みりょく発信隊」や「みんなでつくる博物館会議」など、個人との連携推進については低調で、現行の組織や活動のあり方について、再考を要する。
- ・地元と連携した総合研究については、複数年に亘って成果があがっておらず、目標や計画の見直しが必要と言わざるをえない。

（総括）

評価結果から、当館には、公立博物館として他都市の施設と比べ、優れた点や先進的な取り組みがある中で、改善すべき事項も少なくない。この評価が前年度と似た結果となったことは、優れた点とともに改善すべき点も「継承」したこと、即ちPDCAサイクルの最後が有効に機能していないことを示している。

しかし、限られた人員・予算の中で優れた点は継承し、同時に改善も実現することは容易ではない。そこで、戦略目標にある「評価制度を活用して事業を選択」＝「経営資源の効果的配分」が必要となる。企画展の本数過多や、地域での調査が引き続き低調であることは、目標（値）を見直す必要があることを示している。

今後、本評価制度が有効に機能し、改めて適正な目標を定めるとともに、館長の指揮の下、職員全員が常にその達成状況を確認・共有し、不断の改善に努められることで、館の機能が向上し、利用者サービスが充実することを期待したい。

9.3 みんなでつくる博物館会議

1) みんなでつくる博物館会議

目 的

「みんなでつくる博物館会議」は、県民・利用者のみなさんが楽しくMieMuに参加することで博物館づくりに参画することを目的としている。県民・利用者にとって楽しい博物館とはどのようなものか、博物館の楽しみ方にはどのようなかたちがあるかなどこれからのMieMuのあり方について話し合う機会とした。

今回は、三重県総合博物館3階のフリースペース（学習交流スペース）を楽しむための方法や課題等

について、ワールドカフェ方式で話し合いを計画していたが、事前申込数が少なく、会議形態での進行が困難と判断し中止した。これに代わるものとして、アンケート形式による来館者等からの意見募集および、ミュージアムパートナーとの話し合いを実施した。

実施日時 平成28年2月6日（土）

実施場所 三重県総合博物館 レクチャールーム

参加人数 アンケート回答数：来館者95名、みえむボランティア8名

ミュージアムパートナーとの話し合い参加者数：19名

内 容 博物館3階のフリースペースで、博物館職員が来館者に声をかけ、アンケートへの協力を呼びかけた。フリースペースの利用頻度、利用内容、気に入っている点や改善が必要と感じる点等について意見を聴取した。

2) こども会議

目 的

「こども会議」は、子どもたちが博物館づくりへの参画のしくみの一つとなるよう、平成24年度から試行的に毎年開催してきた。子どもたちにとって、魅力的な博物館とはどのようなものか、大人も交えてMieMuのあり方について話し合う機会を設けることを目的としている。

平成27年度は、「展示」をテーマに、夜の真っ暗な博物館を探検するプログラムを行った。

実施日時 平成27年8月29日（土） 19時～21時

実施場所 三重県総合博物館（MieMu）レクチャールーム及び基本展示室

参加人数 14名

内 容 真っ暗な夜の展示室や館内を探検して、昼間とは異なる博物館の雰囲気を楽しむとともに、展示の見方に新たに気づいてもらうことを意図した。夜の博物館体験の後、MieMuでやってみたいことや知りたいことについて、参加者と意見交換を行った。

9.4 アンケート結果概要

1) 目的

博物館利用者の意見と要望、ニーズ、満足度、与えた影響を把握しながら、今後の施設利用や接遇、展示活動、交流創造活動、広報のあり方などを検討・改善し、利用しやすく地域の役に立つ博物館づくりを進めるために来館者アンケートを実施している。さらに、ビジョンや戦略目標、戦術における毎年の達成度を評価するためのデータ収集も目的としている。

2) 実施方法

展示観覧者に対するアンケートは、基本展示室、企画展示室、交流展示室の各展示室出口付近に机と椅子を置き、アンケート記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のアンケート用紙と鉛筆及びアンケート回収箱を置き、展示観覧者が自由にアンケートに記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

入館者に対するアンケートは、学習交流スペースに机と椅子を置き、ご意見記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のご意見記入用紙と鉛筆及びご意見回収箱を置き、来館者が自由にご意見を記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

交流創造活動参加者に関するアンケートは、事業実施前に配布資料とともにアンケートを配布し、事業終了時に記入いただくことで収集した。

3) 項目

アンケートは、基本展示用、各企画展示用、ご意見記入用、交流創造活動の4種類あり、それぞれ大人用とこども用を用意した。

展示については、①興味を引く資料の有無とその内容、②改善点の有無とその内容、③展示から新たな考えを得たかとその内容、④展示の満足度、⑤展示を知った媒体、を聞いた。さらに、MieMuについても、①MieMuの来館回数、②MieMuを一言で表すと、③ご意見・ご要望、を聞いた。アンケート記入者の属性については、①性、②年齢、③居住地、④今日を除いてミュージアムを訪れた回数、を聞いた(以下のとおり)。

ご意見記入用については、まずご意見・ご要望を聞き、アンケート記入者の属性及び、MieMuを知った媒体、MieMuの満足度を聞いた。

1) 基本展示アンケート

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する関係機関や関係以外の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示に関して、次の質問について具体的なご意見などがありましたら、ご記入ください。また「いいえ」欄にもお書きください。

- ・興味をひく資料、印象に残った展示コーナーがありましたか、

①いいえ ②はい (内容:)

- ・改善すべき展示内容や展示方法がありましたか、

①いいえ ②はい (内容:)

- ・展示を見て、何か新たな考えや発見を得ることができましたか、

①いいえ ②はい (内容:)

(2) ご覧になった展示に満足しましたか、**Q12**をおつけください。

①いいえ ②どちらかというと「いいえ」 ③どちらかというと「はい」 ④はい

(3) この展示をなにご知りになりましたか、**質問するものすべてにQ**をおつけください。

①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「県政だより」、
⑦館の公式ホームページ、⑧その他のホームページ・ブログ、
⑨館のTwitterやFacebook、⑩その他のTwitterやFacebook、
⑪県政、人から聞いて、⑫その他 ()

B 三重県総合博物館 MieMu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示を観るのは、今回が何回目ですか、**Q13**をおつけください。

①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) MieMu をひとことでも表すと、どんな言葉がふさわしいですか。

三重県総合博物館 MieMu は、_____です。

(3) MieMu についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなたご自身 (回答者ご本人) のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に**Q14**をおつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) 年齢 _____歳

(3) 居住地 (①津市内: _____町 ②三重県内: _____市町 ③三重県外: _____都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。

(④0回、①1回、②2回、③3回、④4回以上)

*「ミュージアム」とは、MieMuなどの博物館のほか、美術館、科学館、動物園、水族館、資料館などを指します。
裏面もご協力ください。

アンケート用紙表

基本展示室で印象に残った展示と改善すべき展示の場所と内容を記入してください。

※場所はおよそでも構いませんし、内容だけの記入でも構いません。

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙裏

4) 傾向

●展示アンケート

平成27年度の展示アンケート回答枚数は、基本展示897枚、企画展示4,496枚であった。なお、企画展示は企画展の他、交流展、トピック展を合わせた数である。展示観覧者に対する回答率は、3%であった。

【アンケート回答者の属性】

【男女比】基本展示と企画展示の1年間の合計で、女性49.5%、男性50.5%であった(図1)。

【各展示観覧者の年齢層】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、12歳までが38.8%、13-19歳が6.1%、20-34歳が9.1%、35-49歳が16.2%、50歳以上が29.9%で、小学生以下が約40%であった。なお各展示での年齢層は、「虫」、「くらしの道具」展で小学生以下が約60%と高く、「平和」「まちかど博物館」「文化財」「津」展では、50歳以上が50%以上と高い傾向にあった。なお「F1」展は35-49歳が、「明治」展は20-34歳が他の展示と比較して最も高かった(図2)。

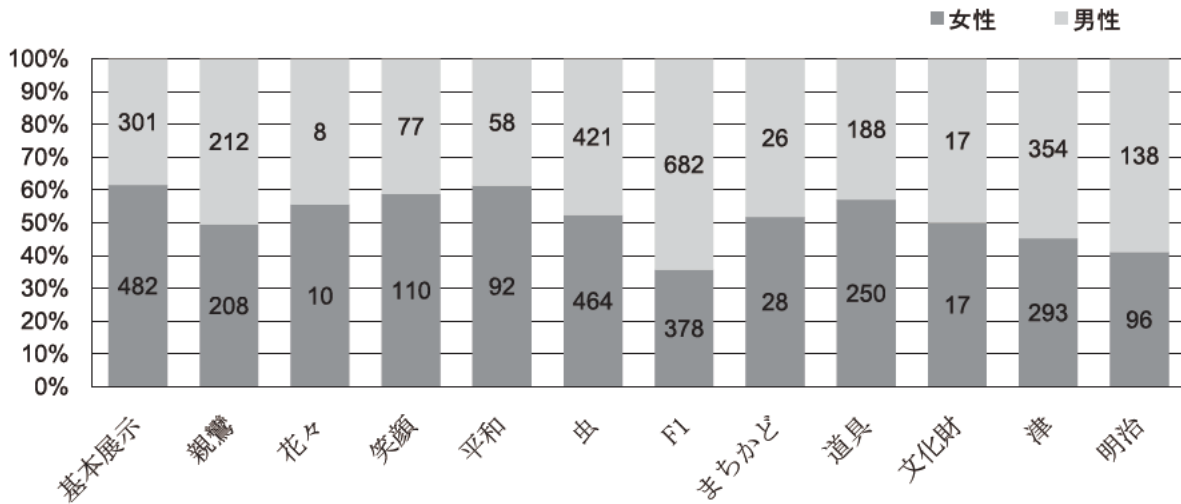


図1. 各展示観覧者の男女比

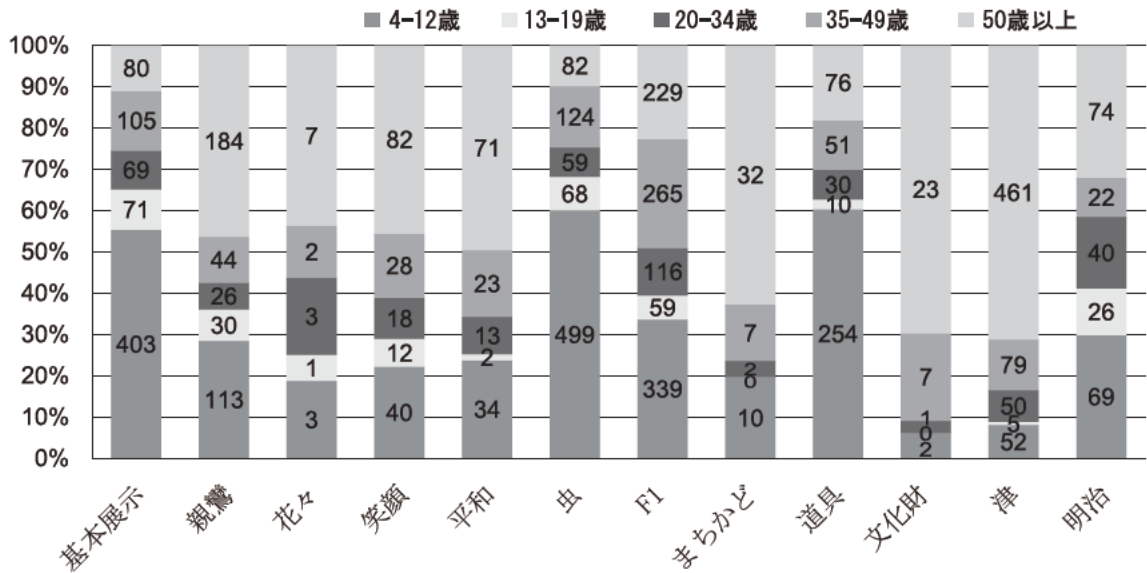


図2. 各展示観覧者の年齢層 (グラフ内の数字は展示観覧者数)

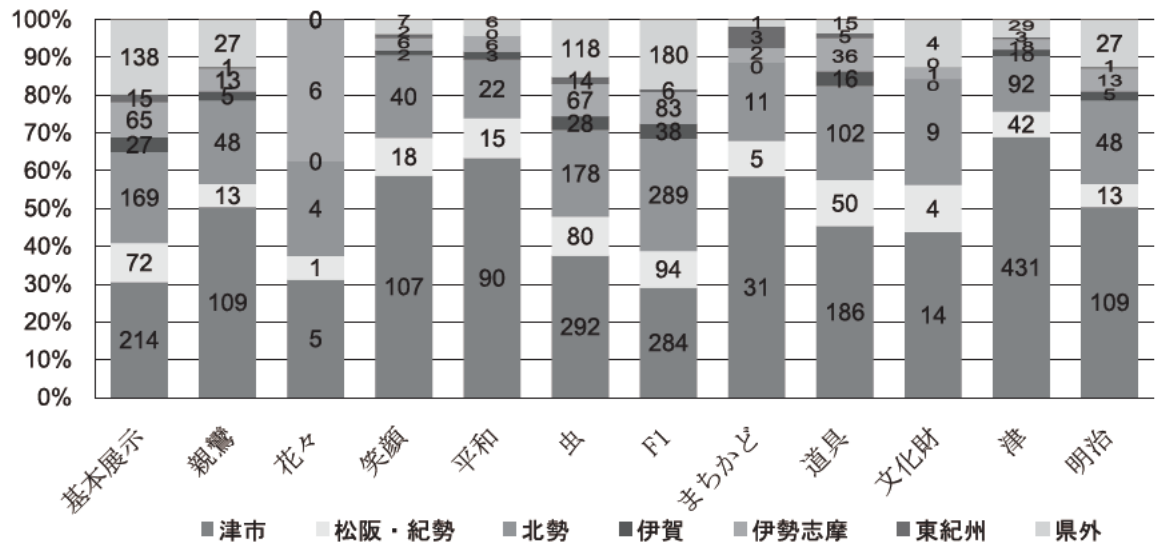


図3. 各展示観覧者の居住地 (グラフ内の数字は展示観覧者数)

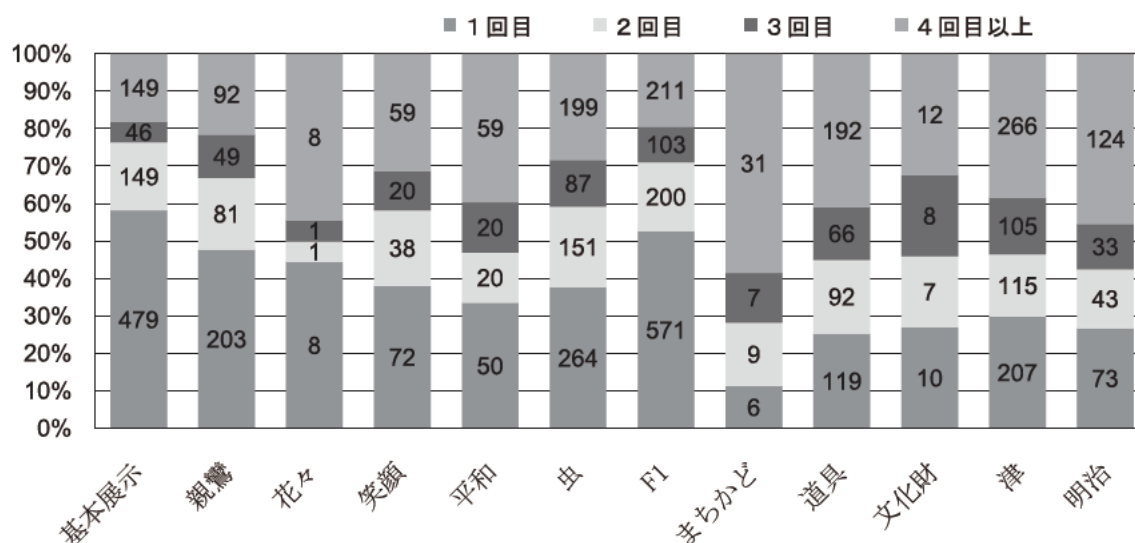


図4. 各展示観覧者のMieMuの来館回数（グラフ内の数字は展示観覧者数）

基本展示と企画展示の1年間の合計で、津市が43%、松阪・紀勢地域が9.4%、北勢地域が23.3%、伊賀地域が3.1%、伊勢志摩地域が7.3%、東紀州が1.2%、県外が12.7%であった。なお夏休みに開催した「虫」と「F1」は県外が15%以上だった。一方、「親鸞」「地球の笑顔」「平和」「まちかど博物館」「津」「明治」については津市が50%以上だった（図3）。

【MieMuの来館回数】

1回（初めて）割合が、「親鸞」「花々」「F1」展で40%以上と高く、秋以降の「まちかど博物館」「くらしの道具」「文化財」「津」「明治」はリピーターの割合が高かった（図4）。

【ミュージアム（博物館、美術館、科学館、動植物園、水族館、資料館など）をよく利用するかを尋ねる1年間のミュージアム訪問回数】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ほとんど利用しない1回以下が約31.3%で、よく利用する4回以上が約28.9%であった。

【展示に対する満足度】

基本展示において、「満足」の割合は約60%で、「どちらかという満足」が24%であった（図5）。企画展示は、「満足」が50-75%で、「どちらかという満足」を合わせるとどの企画展も満足が80%を超えた。不満な点については、毎日確認し、改善を行っているが、根本的な解決に至らない意見もあり、解決に向け努力している。

【観覧動機となった媒体】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ポスターが約24.9%、チラシが約22.5%、口コミが約23.1%で他と比べて高い。次に、新聞が約15.3%、館のホームページが約8.1%、テレビが約7.2%、県政だよりが6.5%であった。その他が約18%で、小学校の社会見学等の記載があった。

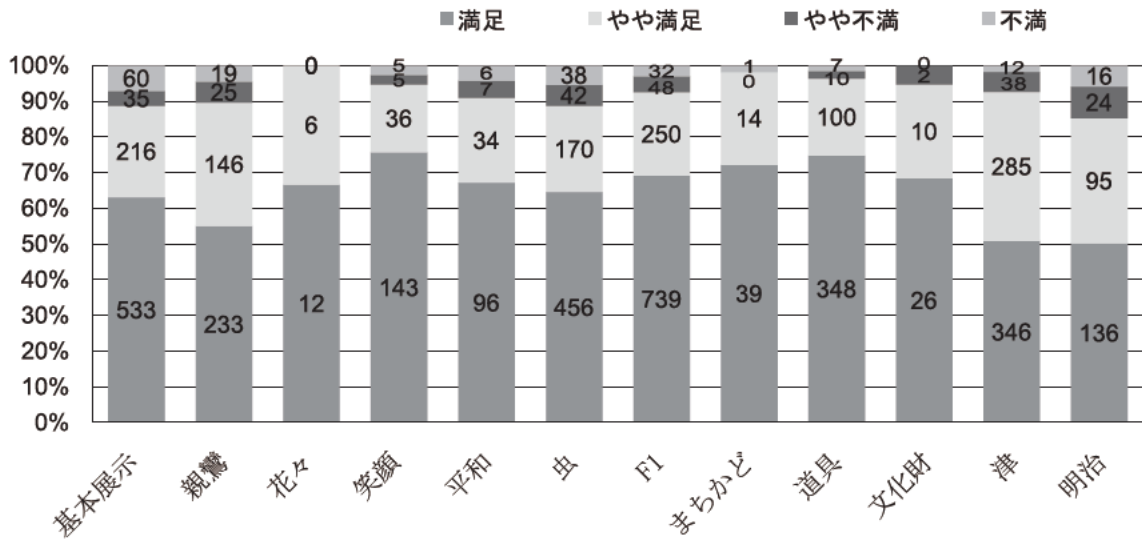


図5. 各展示観覧者の満足度（グラフ内の数字は展示観覧者）

●MieMuについてのご意見

展示観覧者・入館者アンケートから、MieMuの印象、全体のご意見・ご要望を聞いている。「こども体験展示室」や「トイレ」などについて意見をいただいた。これらの意見については毎日確認し、改善を行っているが、根本的な解決に至らない意見もあり、月初めの全体会議で共有し、解決に向け努力している。

Ⅲ 資料

1 条例・規則

1.1 三重県総合博物館条例

三重県総合博物館条例

公布 平成二十五年六月二十八日

施行 平成二十六年四月 十九日

(設置)

第一条 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産を保全し、継承し、及び次代へ生かすとともに、地域社会を支える人づくり及び個性豊かで活力ある地域づくりに貢献するため、博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第十八条の規定に基づき、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）を津市に設置する。

(事業)

第二条 博物館においては、次の事業を行う。

- 一 博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び一般の利用に供すること。
- 二 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての調査研究を行うこと。
- 三 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての講演会、観察会、見学会等を行うこと。
- 四 公文書館法（昭和六十二年法律第百十五号）の趣旨にのっとり、県が保有していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を博物館資料として保存し、展示し、及び一般の利用に供するとともに、これに関連する調査研究を行うこと。
- 五 前各号に掲げるもののほか、三重県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業を行うこと。

(休館日)

第三条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は別に休館日を定めることができる。

- 一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の最初の休日でない日）
- 二 十二月二十九日から翌年の一月三日までの日

(開館時間等)

第四条 博物館の開館時間（第三項において「開館時間」という。）は、午前九時から午後七時までとする。ただし、入館できる時間（第三項において「入館時間」という。）は、午後六時三十分までとする。

2 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用することができる時間（次項において「利用時間」という。）は、別表第一のとおりとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、開館時間、入館時間及び利用時間を変更することができる。

(指示)

第五条 館長は、博物館資料又は施設等の保全、館内の秩序維持その他博物館の管理上必要があると認めるときは、展示された博物館資料の観覧者（第七条の手續をした者をいう。以下「観覧者」という。）、博物館資料の利用者（第八条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）、施設等の利用者（第九条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）その他の関係者に対し必要な指示をすることができる。

(入館の制限)

第六条 館館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館を命じることができる。

- 一 めいてい者等他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げる者のほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかった者

(観覧の手続)

第七条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、教育委員会規則の定めるところにより、観覧の手続をしなければならない。

(博物館資料の閲覧等の許可)

第八条 博物館資料の閲覧、撮影等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(施設等の利用の許可)

第九条 施設等を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(許可の条件等)

第十条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前二条の許可を与えないものとする。

- 一 公益を害し、又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
 - 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれがあるとき。
 - 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第二号に規定する暴力団をいう。次条第三号において同じ。）の利益になると認められるとき。
 - 四 博物館の事業の実施に支障を来すおそれがあるとき。
- 2 教育委員会は、博物館資料に個人に関する情報その他の教育委員会規則で定める情報が記録されている場合には、第八条の許可を与えないことができる。
- 3 教育委員会は、前二条の許可に博物館の管理上必要な条件を付けることができる。

(許可の取消し)

第十一条 教育委員会は、博物館資料の利用者又は施設等の利用者が次の各号のいずれかに該当するとき、第八条若しくは第九条の許可を取り消し、又は博物館資料の閲覧、撮影等若しくは施設等の利用を中止させることができる。

- 一 偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 二 許可を受けた目的に反して博物館資料の閲覧、撮影等を行い、又は施設等を利用したとき。
- 三 暴力団の利益になると認められるとき。
- 四 前条第三項の規定により付けられた条件に違反したとき。
- 五 前各号に掲げるもののほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかったとき。

(観覧料)

第十二条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、別表第二に定める額の観覧料を納付しなければならない。

2 前項の観覧料は、前納しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(使用料)

第十三条 博物館資料の利用者又は施設等の利用者は、別表第三に定める額の使用料を納付しなければならない。

2 前項の使用料は、第八条又は第九条の許可の際に納付しなければならない。ただし、知事が特に必要が

あると認めるときは、この限りでない。

(博物館協議会)

第十四条 博物館法第二十条第一項の規定に基づき、博物館に三重県総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第十五条 協議会は、委員十五人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 前三号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 第一項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

(会長及び副会長)

第十六条 協議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第十七条 協議会の会議(以下この条において「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(罰則)

第十八条 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の過料に処する。

- 一 第五条の指示に従わなかった者
- 二 第六条の規定による入館の拒否又は退館の命令に従わなかった者
- 三 第七条の手続をしないで入館し、展示された博物館資料を観覧した者
- 四 第八条の許可を受けずに博物館資料の閲覧、撮影等を行った者
- 五 第九条の許可を受けずに施設等を利用した者
- 六 第十一条の規定による許可の取消し又は中止処分に従わなかった者

(他の条例との関係)

第十九条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例(昭和三十九年三重県条例第十三号)に定める事項については、その定めるところによる。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(委任)

第二十条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則又は教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十六年五月十八日までの間において規則で定める日から施行する。(平成二十六年二月三重県規則第三号で、同二十六年四月十九日から施行)ただし、附則第三項の規定は公布の日から、附

則第四項の規定は同年四月一日から施行する。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(三重県立博物館条例の廃止)

2 三重県立博物館条例(昭和三十九年三重県条例第四十九号)は、廃止する。

(準備行為)

3 この条例の施行に関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

(観覧料の納付の特例)

4 平成二十六年四月一日から附則第一項本文に規定する規則で定める日の前日までの間において、知事は、別表第二に規定する観覧料であって企画展示及び特別企画展示に係るものに限り、第十二条の規定の例により納付させることができる。

追加〔平成二六年条例五七号〕

附 則(平成二十六年三月二十七日三重県条例第五十七号)

この条例は、三重県総合博物館条例の施行の日から施行する。ただし、附則第一項の改正規定及び附則に一項を加える改正規定は、公布の日から施行する。

別表第一(第四条関係)

区分	利用時間
基本展示室 企画展示室 交流展示室	午前九時から午後五時まで
交流活動室 こども体験展示室 実習室 資料閲覧室 三重の実物図鑑 レクチャールーム レファレンスカウンター	午前九時から午後七時まで

別表第二(第十二条関係)

区分	観覧料			
	基本展示		企画展示及び特別企画展示	年間パスポート券による観覧
	個人	団体		
小学生、中学生、高校生及びこれらに準ずる者	—	—	展示等を行うのに要する費用を勘案してその都度知事が定める額	—
大学生及びこれに準ずる者	三〇〇円	二四〇円		一、〇二〇円
一般	五一〇円	四〇〇円		一、六四〇円

備考

一 基本展示の団体の欄に掲げる額は、観覧者が二十人以上の団体を構成している場合の当該構成員(団体の引率者を含む。)一人当たりの観覧料をいう。

二 特別企画展示とは、教育委員会が定める特別な企画による展示をいう。

三 年間パスポート券とは、交付を受けた日から起算して一年を経過する日までの間において、基本展示及び企画展示を観覧することができる券をいう。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

別表第三(第十三条関係)

区分	使用料
博物館資料	一回につき、一点五、一四〇円以下の範囲内において知事が定める額
交流展示室	一時間につき一、九四〇円
レクチャールーム	一時間につき一、七二〇円

備考 使用時間に一時間未満の端数があるときは、その端数は一時間とする。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

1.2 三重県総合博物館条例施行規則

三重県教育委員会規則第二号
三重県総合博物館条例施行規則

公布：平成二十六年三月十七日

施行：平成二十六年四月十九日

(趣旨)

第一条 この規則は、三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(用語)

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

(入館者の遵守事項)

第三条 博物館へ入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 触ることのできる表示のある博物館資料を除き、博物館資料に触れないこと。
- 二 展示室、資料閲覧室で鉛筆以外のものを使用しないこと。
- 三 撮影できない表示のある博物館資料の撮影をしないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 五 その他、係員の指示に従うこと。

(博物館資料の閲覧等の許可の申請)

第四条 条例第八条の規定により博物館資料の閲覧の許可を得ようとする者は、閲覧の形態に応じて、閲覧利用申請書（第一号様式その一からその三まで）をそれぞれ館長に提出しなければならない。

2 条例第八条の規定により、博物館資料の撮影等の特別利用の許可を得ようとする者は、特別利用申請書（第二号様式）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項を許可したときは、博物館資料特別利用許可書（第三号様式）を交付するものとする。

4 博物館資料の利用者は、善良なる管理者の注意をもって利用しなければならない。

(施設等利用の許可の申請)

第五条 条例第九条の規定により施設等の利用の許可を得ようとする者は、施設等利用許可申請書（第四号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項を許可したときは、施設等利用許可書（第五号様式）を交付するものとする。

3 施設等の利用期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを延長することができる。

(施設等の変更の禁止)

第六条 施設等の利用者は、博物館の施設等に変更を加え、又は特別の施設等を設けてはならない。ただし、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(利用の廃止又は中止)

第七条 施設等の利用者は、博物館の施設等の利用を廃止又は中止しようとするときは、施設等利用廃止（中止）届（第六号様式）をあらかじめ館長に提出しなければならない。

(利用者の遵守事項)

第八条 施設等の利用者は、次の各号に掲げる事項を守るとともに、善良なる管理者の注意をもって施設等を利用しなければならない。

- 一 営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売で館長の承認を受けたものは除く。
- 二 施設等の適正な管理及び火災防止に努めること。
- 三 その他、係員の指示に従うこと。

(資料の貸出)

第九条 博物館は、博物館資料を貸し出すことができない。ただし、当該博物館資料が学術上の調査研究又は教育の普及のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるときは、博物館の運営に支障をきたさない範囲において、次の各号に掲げるものに対して貸し出すことができる。

- 一 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二条第一項の規定による博物館及び同法第二十九条の規定による博物館に相当する施設
 - 二 三重県内の官公署
 - 三 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校
 - 四 その他館長が適当と認めるもの
- 2 前項ただし書の規定により、博物館資料の貸出しを受けようとする者は、資料貸出許可申請書（第七号様式）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該博物館資料が博物館に寄託された資料（以下「寄託資料」という。）であるときは、当該寄託をした者（以下「寄託者」という。）の承諾書を添付しなければならない。
- 3 館長は、前項の許可をしたときは、資料貸出許可書（第八号様式）を交付するものとする。
- 4 第二項の許可を受けた者（以下「借受人」という。）は、当該貸出しに伴う一切の費用を負担しなければならない。
- 5 博物館資料の貸出期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、この限りでない。
- 6 借受人は、善良なる管理者の注意をもって博物館資料を利用しなければならない。

(弁償の義務)

第十条 入館者、施設等の利用者及び借受人が故意又は過失により、博物館資料若しくは施設等を汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第十一条 博物館に資料を寄贈及び寄託しようとする者は、資料寄贈（寄託）申請書（第九号様式）を館長に提出し、その承諾を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の承諾をしたときは、資料受領書（第十号様式）を交付するものとする。
- 3 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。
- 4 博物館は、寄託資料が火災等やむを得ない事由により汚損し、破損し、又は亡失した場合には、その責めを負わない。
- 5 博物館が、寄託者の申出により、寄託資料の返還を行うときは、資料受領書と引き換えに行うものとする。

(歴史資料として重要な公文書の受入れ)

第十二条 博物館は、条例第二条第四号に掲げる県が保有していた歴史資料として重要な公文書等を受け入れるものとする。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十六年四月十九日から施行する。
(三重県立博物館条例施行規則の廃止)
- 2 三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）は、廃止する。
(三重県教育委員会教育長事務専決規則の一部改正)
- 3 三重県教育委員会教育長事務専決規則（昭和三十一年三重県教育委員会規則十五号）の一部を次のよう

に改正する。

別表中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(三重県教育委員会事務局組織規則の一部改正)

- 4 三重県教育委員会事務局組織規則（昭和四十三年三重県教育委員会規則六号）の一部を次のように改正する。

第十六条第一項第十二号中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則の一部改正)

- 5 知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則（平成二十年三重県教育委員会規則第二号）の一部を次のように改正する。

第二条第二項中「三重県立博物館」を「三重県総合博物館」に改め、「三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）及び三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）の改正及び廃止に関する事務」を「次に掲げる事務」に改め、「三重県立博物館条例第五条及び第七条」を「三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号）第五条及び第六条並びに三重県総合博物館条例施行規則（平成二十六年三重県教育委員会規則第二号）第四条から第九条及び第十一条」に改め、同項の次に次の各号を加える。

一 三重県総合博物館条例及び三重県総合博物館条例施行規則の改正及び廃止に関すること。

二 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二十一条及び三重県総合博物館条例第十五条第二項の規定に基づく博物館協議会委員の任免及び委嘱又は解嘱に関すること。

施行規則各種申請様式

第1号様式その1
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(当日閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日 (予約で希望したい日はご記入ください)	第一希望日	平成 年 月 日	
	第二希望日	平成 年 月 日	
	第三希望日	平成 年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無 ※下記にご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担当			
備考			

第1号様式その2
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(予約閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日	第一希望日	平成 年 月 日	
	第二希望日	平成 年 月 日	
	第三希望日	平成 年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無 ※下記にご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担当			
備考			

第1号様式その3
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(県が保有していた歴史資料として重要な公文書等 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏名	
	住所		
	電話	電話(携帯)	
	E-mail		
撮影の有無	有 / 無 ※下記(3)をご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(1) 文書に含まれる個人情報等、公開できない情報についての内容審査のため、閲覧までに2週間を要した期間を要します。
(2) 内容審査が終わった後、博物館から閲覧日程について連絡いたします。
(3) 三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担当			
備考			

(第2号様式)
平成 年 月 日
三重県総合博物館特別利用申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第4条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他()
内 容	(1) 閲覧(実物・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写(機写) (4) 撮影 (5) 転載(転載元:) (6) その他()
利用期間 (発行予定日、放映予定日・期間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日() : ～ 平成 年 月 日() :
利用場所 (出版物・放映等では掲載紙・番組表など)	
利用資料	資料番号 資料名 数量 備考
担当者	電話
備考	

● 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
(1) 善良なる管理者の注意をもって利用します。
(2) 施設、機材等の汚損、破損及び火災防止に注意します。
(3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の見検を受けず。
(4) 利用時間を遵守します。
(5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮します。
(6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
(7) その他、利用に際しては博物館職員からの指示に従います。
● 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または失ったときは、その修理または補正に要する費用を負担いたします。
● 画像等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部添削いたします。

(第3号様式) 第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料特別利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の利用は、下記のとおり許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他()			
内 容	(1) 複製 (実測・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他()			
利用期間 (発行予定日・放映予定日・期間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日() : ～平成 年 月 日() :			
利用場所 (出版物・複製等では 掲載紙・巻頭名など)				
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担当者	電話			
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
- (1) 善良なる管理者の注意をもって利用すること。
- (2) 盗取、複製等の汚損、破損及び失防止に注意すること。
- (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
- (4) 利用時間を遵守すること。
- (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮すること。
- (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
- (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
- 故障または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または失したときは、その修理または補正に要する費用を負担すること。
- 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部送付すること。

(第4号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可申請書

三重県総合博物館長 宛て
申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第5条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
利用者数				
備 考				

(1) 観覧会等で施設を使用するときは、展示資料の一覧を添付すること。
(2) 設備等を設置するときは、概要を確認できる図面を添付すること。

(第5号様式) 第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった施設等の利用は、下記のとおり許可します。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
利用者数				
備 考				
利 用 料				円

(第6号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用廃止(中止)届

三重県総合博物館長 宛て
住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第7条の規定に基づき、下記の事由により博物館の施設等の利用を廃止(中止)したいので届け出ます。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
廃止(中止)事由及び届日	(事由)			中止・廃止
備 考				

(第7号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第9条の規定に基づき、下記について申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()			
内 容	(1) 複製 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()			
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (保管・展示場所)				
貸出資料	資料番号	資料名	数量	備考
取扱責任者	電話			
輸送方法				
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
 - (1) 資料等について善良なる管理者の注意をもって利用します。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
 - (3) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (4) 貸出期間を遵守します。
 - (5) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
 - (6) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補正に要する費用を負担いたします。
- 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。
- 展覧会等で利用する場合、観覧会開催要項、展示会場、保管場所、警備体制、消防計画、職員体制、公開承認施設資格の有無等の資料を添付いたします。

(第8号様式) 第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可書

(申請者) 種 三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった博物館資料の貸出は、下記の条件の下に許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()			
内 容	(1) 複製 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()			
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (保管・展示場所)				
貸出資料	資料番号	資料名	数量	備考
取扱責任者	電話			
輸送方法				
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 貸出を受けた者 (以下「借受人」という。)は、貸出を受けた資料 (以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。
 - (2) 貸出に伴う一切の費用は、借受人が負担すること。
 - (3) 借受人は貸出資料を故意又は過失により、汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補正に要する費用を負担すること。
 - (4) 借受人は、貸出資料を本記載事項以外の目的、内容に使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (5) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (6) 貸出期間を遵守すること。
 - (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
 - (8) 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈すること。

(第9号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料寄贈 (委託) 申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第11条の規定に基づき、下記のとおり、資料を寄贈 (委託) したいので申請します。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間 平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで		

(第10号様式) 第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料受領書

種 三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の寄贈 (委託) は、下記のとおり、受領しました。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間 平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで		

1.3 三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

平成二十六年四月十九日

(設置)

第1条 三重県総合博物館協議会（以下「協議会」という。）に、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）の活動と運営に対して評価を実施するための三重県総合博物館協議会評価部会（以下「部会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 部会は、博物館の前年度の活動と運営の成果に対して、調査審議して評価を下し、その結果を協議会に報告する。

(組織)

第3条 部会は、協議会委員2名及びその他の有識者3名で構成する。

- 2 部会委員のうち、協議会委員については互選で選出し、その他の有識者については協議会の了承を得て、館長が委嘱する。
- 3 部会委員の任期は、協議会委員と同じとする。
- 4 部会委員は、再任されることができる。
- 5 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 6 部会長は、部会の会務を総理する。
- 7 副部会長は、副部会長を補佐し、部会長に事故あるときはその職務を代理し、部会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第4条 会議は、部会長が招集し、議長となる。

- 2 部会長は、必要があると認めるときは、会議に部会委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。
- 3 会議は、非公開とする。

(庶務)

第5条 部会の庶務は、博物館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成26年 9月 5日から施行する。

1.4 観覧料免除要項

三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館観覧料減免要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和39年三重県条例第13号）第3条の規定に基づき三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館（以下「博物館等」という。）の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「観覧料」とは、次に掲げるものをいう。

(1) 三重県立美術館条例（昭和57年三重県条例第1号。次条第1項第1号において「美術館条例」という。）

第12条に規定する観覧料

(2) 斎宮歴史博物館条例（平成元年三重県条例第6号。次条第1項第1号において「斎宮条例」という。）

第11条に規定する観覧料

(3) 三重県総合博物館条例（平成25年三重県条例第64号。以下「博物館条例」という。）第12条に規定する観覧料

(減免の対象)

第3条 観覧料の免除を受けることのできる者は、次に掲げる者とする。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて、美術館条例別表第1に掲げる企画展、斎宮条例別表第1に掲げる特別展、企画展その他特別な催物並びに博物館条例別表第2に掲げる企画展示及び特別企画展示を観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒

(2) 教育課程に基づく教育活動として観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒を引率する者

(3) 県内に設置されている児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設の在籍者で当該施設の職員に引率されて観覧する児童及び当該児童の引率者

(4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者

(5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者

(6) 知的障がい者と判定された者に対して公的機関が発行する療育手帳又は療育手帳に代わる証明書の交付を受けている者

(7) 前各号に該当する者のうち介護を要する者の介護を行う者。ただし、原則として対象者1人につき1人に限る。

2 前項に定めるもののほか、知事は、特に必要と認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

(減免の手続)

第4条 前条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、博物館等観覧料免除申請書兼承認書（様式第1号。以下「申請書」という。）に必要な事項を記載して博物館等の館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、同項第4号から第7号までに掲げる者が観覧料の免除を受けようとする場合には、同号に掲げる者であることを証する書類又は手帳の提示等をもって申請書の提出に代えることができる。

2 博物館等の館長は、申請書に基づく承認をしたときは、当該申請書にその旨を記して申請者に交付するものとする。

3 前条第2項の規定による観覧料の減免に関し必要な事項は、知事が別に定める。

(免除の手続の特例)

第5条 博物館等の館長は、前条第1項の規定による申請書の提出については、博物館等の館長が別に定めるところにより、博物館等の館長の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下この条において同じ。）と、申請をしようとするものの使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用して行わせることができる。

2 前項の規定により行われた提出は、同項の電子計算機に備えられたファイルへの記録がされた時に、博物館等の館長に到達したものとみなす。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。ただし、三重県総合博物館に係る規定は、博物館条例の施行の日から施行する。

（三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱の廃止）

2 三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱（平成20年三重県告示第199号。次項において「旧告示」という。）は、廃止する。

（経過措置）

3 この告示の施行前に旧告示の相当規定による免除についてなされた手続は、この告示に規定する免除についてなされた手続とみなす。

様式第1号（第4条関係）

博物館等観覧料免除申請書兼承認書

年 月 日

三重県総合博物館長 様

団 体 名
代 表 者 名
住 居 所

下記のとおり観覧料の免除を受けたいので申請します。

記

博物館等の名称	三重県総合博物館
免除申請の理由	
在 館 時 間	年 月 日() 時から 時まで
入 館 人 員	
引率代表者名	電話番号 FAX番号
備 考	

(注意) インターネットやファックスでも受け付けます。

上記の申請に対して、承認します。

年 月 日

三重県総合博物館長

2 事業成果一覧

● 入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308
入館者数(人)	21,619	21,382	14,185	23,128	40,565	21,143	21,536	22,959	10,633	18,474	11,129	26,347	253,100
1日平均(人)	831.5	791.9	567.4	856.6	1,560.2	813.2	797.6	918.4	443.0	769.8	463.7	975.8	821.8

● 展示観覧者数

(1) 基本展示観覧者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数(日)	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308	
有料観覧者	基本展示単独券利用	1,377	2,404	1,524	1,309	1,558	1,523	938	937	462	425	563	646	13,666
	セット券利用	1,690	1,345	0	1,593	4,403	1,891	2,111	839	508	715	883	295	16,273
	年間パスポート利用	1,870	994	294	581	884	572	473	334	284	387	257	188	7,118
	(小計)(人)	4,937	4,743	1,818	3,483	6,845	3,986	3,522	2,110	1,254	1,527	1,703	1,129	37,057
無料観覧者	高校生以下	1,757	1,740	1,117	3,340	7,627	2,211	1,473	2,068	859	1,850	784	3,395	28,221
	学校利用	1,554	854	883	335	85	420	2,171	1,727	404	603	325	102	9,463
	視察/招待	384	343	71	214	336	150	371	545	122	280	120	166	3,102
	障がい者及び付添	484	568	199	293	609	531	605	328	196	217	156	171	4,357
	キャンパスメンバーズ	174	126	83	230	187	119	189	687	98	153	145	77	2,268
	その他(※1)	674	0	848	0	0	325	0	1,561	0	979	0	4,317	8,704
(小計)(人)	5,027	3,631	3,201	4,412	8,844	3,756	4,809	6,916	1,679	4,082	1,530	8,228	56,115	
合計(人)	9,964	8,374	5,019	7,895	15,689	7,742	8,331	9,026	2,933	5,609	3,233	9,357	93,172	
1日平均(人)	383.2	310.1	200.8	292.4	603.4	297.8	308.6	361.0	122.2	233.7	134.7	346.6	392.5	

(2) 企画展示観覧者数

展示名	開館記念企画展 親鸞(※2)	第7回企画展 あんな虫、こんな虫、そんな虫	第8回企画展 SUZUKA 夢と挑戦のステージ	第9回企画展 くらしの道具	第10回企画展 明治の日本と三重	27年度 合計	
開催期間	H27.4.1H26.5.10 (H27.3.21~)	H27.7.11~ H27.8.30	H27.9.19~ H27.11.15	H27.12.12~ H28.1.24	H28.2.6~ H28.3.21		
開館日数(日)	35	44	50	32	39	200	
有料観覧者	基本展示単独券利用	3,028	2,614	4,385	758	377	11,162
	セット券利用	3,035	5,996	4,841	1,223	1,178	16,273
	年間パスポート利用	2,712	2,452	2,286	1,057	874	9,381
	(小計)(人)	8,775	11,062	11,512	3,038	2,429	36,816
無料観覧者	高校生以下	2,132	12,403	5,124	2,058	1,089	22,806
	学校利用	1,859	212	3,605	716	366	6,758
	視察/招待	1,469	909	1,721	507	501	5,107
	障がい者及び付添	783	847	1,307	317	275	3,529
	キャンパスメンバーズ	283	374	953	203	217	2,030
	その他(※1)	0	0	0	0	0	0
(小計)(人)	6,526	14,745	12,710	3,801	2,448	40,230	
合計(人)	15,301	25,807	24,222	6,839	4,877	77,046	
1日平均(人)	437.2	586.5	484.4	213.7	125.1	385.2	

(3) 交流展示・トピック展示観覧者数

展示名	荘厳と静寂の 回廊（※2）	写真展 “三重を彩る花々”	関口照生写真展 「地球の笑顔」	みんなの近くにも 戦争のキズあと がある	“生きる”の 入り口	三重のまちかど 博物館
開催期間	H27.4.1 ～H27.5.10 (H27.3.28～)	H27.5.16 ～H27.5.31	H27.5.23 ～H27.6.14	H27.6.6 ～H27.6.28	H27.11.3 ～H27.11.15	H27.12.1 ～H27.12.20
開催日数（日）	38	14	20	20	12	18
観覧者数（無料）（人）	12,950	1,838	5,231	5,474	4,831	3,219
1日平均（人）	340.8	131.3	261.6	273.7	402.6	178.8

展示名	すばらしい 三重の文化財 I	よみがえる 昭和の津のまち	伊勢型紙 JAPAN・BLUE	27年度 合計
開催期間	H28.1.9 ～H28.1.24	H28.1.13 ～H28.2.7	H28.3.10 ～H28.3.21	
開催日数（日）	14	23	11	170
観覧者数（無料）（人）	3,527	3,832	3,719	44,621
1日平均（人）	251.9	166.6	338.1	262.5

（※1）県民の日記念イベントの日、コーポレーション・デー、関西文化の日など

（※2）平成27年3月31日までの数値

● こども体験展示室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数（日）	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308
利用者数（人）	5,652	6,585	5,364	9,455	16,657	7,470	5,911	6,359	3,636	6,500	4,564	7,705	85,858
1日平均（人）	217.4	243.9	214.6	350.2	640.7	287.3	218.9	254.4	151.5	270.8	190.2	285.4	278.8

● 資料閲覧室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数（日）	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308
入室者数（人）	196	122	110	192	208	108	174	249	101	177	358	186	2,181
1日平均（人）	7.5	4.5	4.4	7.1	8.0	4.2	6.4	10.0	4.2	7.4	14.9	6.9	7.1
閲覧者数（人）	61	36	44	115	125	70	95	148	72	92	287	117	1,262
1日平均（人）	2.3	1.3	1.8	4.3	4.8	2.7	3.5	5.9	3.0	3.8	12.0	4.3	4.1

平成27年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術の内部評価結果・外部評価結果

計画期間(3年):平成26年度～平成28年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にわたるビジョンの実現に向けて、当面3年間に(=計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深淵から標高1,700m近くの山岳までさまざまな自然環境をもち、産業帯から自然環境まで幅広い生物多様性を育む日本列島の縮図の縮図の縮図の縮図の縮図の縮図を有しています。三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深淵から標高1,700m近くの山岳までさまざまな自然環境をもち、産業帯から自然環境まで幅広い生物多様性を育む日本列島の縮図の縮図の縮図の縮図の縮図を有しています。三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深淵から標高1,700m近くの山岳までさまざまな自然環境をもち、産業帯から自然環境まで幅広い生物多様性を育む日本列島の縮図の縮図の縮図の縮図の縮図を有しています。三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深淵から標高1,700m近くの山岳までさまざまな自然環境をもち、産業帯から自然環境まで幅広い生物多様性を育む日本列島の縮図の縮図の縮図の縮図の縮図を有しています。

進捗度	戦略目標	職務を評価するための指標	戦略の内部評価概要	外部評価	職務	アウトプット(産出量)	アウトカム(成果)	職務を評価するための指標	内部評価	外部評価	外部評価を受けた取組の方向と改善点
1	新たな利用者のすそ野が広がる。向度ともに、事業内容を充実させます。	<p>新規来館者の割合 (A)</p> <p>平成26年度 約80%</p>	<p>・企画展での幅広いテーマを設定し、年間開催件数の増加で、幅広い年齢層を獲得し、館全体としても多くの新規来館者(60%)を得たことは評価できる。</p> <p>・「リピーター」については、一定層(40%)は確保できているが、現状割合の維持や来館回数増加のためには、陳腐化を感じさせない、基本展示の計画的な更新や解説の充実が求められる。</p> <p>・前における経営資源を有効に活用し、効果的な展示内容の企画や、定員を確保し、職員が自らの能力を向上する努力をすること、効率的に事業を実施することが課題である。</p>	<p>・企画展(14本) 平成26年度 11本</p> <p>・定期展示(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p>	<p>1 多様な層を獲得するため、行ってみたい企画展を実施します</p> <p>2 基本展示を何年度も利用しても大丈夫な展示の更新や解説を実施します</p> <p>3 学校利用を促進するために、館内プログラムを充実します</p> <p>4 利用者が積極的に目に入るメディアに掲載してもらうため、メディア向け説明会や内覧会をします</p> <p>5 利用者が積極的に目に入る広報ツール(ポスター)を活用するため、みりよく企画展による広報活動を強化します</p> <p>6 多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が積極的に情報を得るアプリやスマートフォンを活用させます</p> <p>7 多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が積極的に情報を得るウェブサイトを更新します</p> <p>8 多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が積極的に情報を得るウェブサイトを更新します</p>	<p>短期的(変動)</p> <p>観覧者内訳(ア) 幅広い年齢層が観覧 12～19才が少なく、20代前半が幅広い年齢層を獲得</p> <p>中期的(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>館内プログラム(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>定期展示(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>学校利用(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>説明会(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>メディア向け説明会(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>アプリ(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p> <p>スマートフォン(観覧)者数の割合(ア) (41%) 平成26年度 約70%</p>	<p>・企画展(14本) 平成26年度 11本</p> <p>・定期展示(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p> <p>・学校利用(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p> <p>・説明会(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p> <p>・メディア向け説明会(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p> <p>・アプリ(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p> <p>・スマートフォン(観覧)者数の割合(%) 平成26年度 約97%</p>	<p>・三重について総合的に考慮し、幅広い年代層を獲得できた。・昨年度と同様に13～19才を獲得する力を入れている。・企画展チーム制を導入したが、その制が効果的な体制になるよう努力とともに、企画展を後援する必要がある。</p> <p>・定期的な展示更新は実施できたが、「基本展示ポスターガイド」の刷新は少ない。</p> <p>・お祭りの取組として、基本展示案内に「基本展示ポスターガイド」の刷新を、毎月開催など頻度を増やして、「お祭り感」を演出している。・一方、より多くの方へのアクセスや利用を促進するための工夫や広報は必要である。</p> <p>・展示の更新は4回実施した。</p> <p>・期間から継続している企画説明以外の館内プログラムは、職員対応体制の制約から、定期的なものとして実施していない。</p> <p>・利用を促す活動も、MieMuに来たらできること(フリー)を、MieMuに来たらできないこと(フリー)の区別を明確にしたい。</p> <p>・基本展示ポスターガイドの活用や、ワークショップ等のプログラムの整備を進める必要がある。</p> <p>・注目度の高い企画展(F展)に含ませ、記者向けの説明会を実施する。・新に三重をテーマとして展示することが出来た。</p> <p>・一方、取材や学芸員と記者が定期的に顔を合わせる場を設け、継続的な関係づくりが必要である。</p> <p>・平成27年度は、みりよく企画展を新体制に改める検討期間と位置付けながら、情報提供を行なった。</p> <p>・一方、取材や学芸員と記者が定期的に顔を合わせる場を設け、継続的な関係づくりが必要である。</p> <p>・平成27年度は、みりよく企画展を新体制に改める検討期間と位置付けながら、情報提供を行なった。</p> <p>・一方、取材や学芸員と記者が定期的に顔を合わせる場を設け、継続的な関係づくりが必要である。</p>	<p>・十分達成できている。・反面、館全体の経営資源の効果的な配分という観点からは、この戦略に力を入れている。・観覧者が過半数となっており、それを踏まえ、他館と比較し適正な目標値を設定すべき。</p> <p>・定期的な展示更新は実施できたが、「基本展示ポスターガイド」の刷新は少ない。</p> <p>・お祭りの取組として、基本展示案内に「基本展示ポスターガイド」の刷新を、毎月開催など頻度を増やして、「お祭り感」を演出している。・一方、より多くの方へのアクセスや利用を促進するための工夫や広報は必要である。</p> <p>・展示の更新は4回実施した。</p> <p>・期間から継続している企画説明以外の館内プログラムは、職員対応体制の制約から、定期的なものとして実施していない。</p> <p>・利用を促す活動も、MieMuに来たらできること(フリー)を、MieMuに来たらできないこと(フリー)の区別を明確にしたい。</p> <p>・基本展示ポスターガイドの活用や、ワークショップ等のプログラムの整備を進める必要がある。</p> <p>・注目度の高い企画展(F展)に含ませ、記者向けの説明会を実施する。・新に三重をテーマとして展示することが出来た。</p> <p>・一方、取材や学芸員と記者が定期的に顔を合わせる場を設け、継続的な関係づくりが必要である。</p> <p>・平成27年度は、みりよく企画展を新体制に改める検討期間と位置付けながら、情報提供を行なった。</p> <p>・一方、取材や学芸員と記者が定期的に顔を合わせる場を設け、継続的な関係づくりが必要である。</p>	<p>・重点を置く展示(入館料に際しての展示など)を次の開催回数を減らす方向。</p> <p>・平成28年度は企画展9本(企画展1本、交流展1本、トピック展1本)に留め、余力を基本展示や博物館での展示替えに投入する。</p> <p>・高松サミット(11/5・6)の開催に合わせた企画展(高松サミット)を開催し、新年の平安の鳥を展示する等、要員調整を活用した展示更新を行った。</p> <p>・昨年度、中学生・高学年に際しては基本展示のワークシート作成を進め、現場教師の利用を呼びかける。</p> <p>・今後の活動方針については記者向け(4月)記者向けの展示では、記者集団「阿修羅」に来ていただく等、距離づくりを努めた。</p> <p>・継続して情報発信に努めるとともに、チラシの配布先を大塚の地元のNPOでは学大に重点を置くなど、企画展ごとに定めたターゲットに置くよう工夫している。</p>	

戦略目標	戦略を推進するための指標		評価結果		外部評価	外部評価を受けるための取組の方向と改善点
	達成度	アウトカム（成果）	アウトカム（成果）	外部評価		
博物館活動の基盤となる資料の劣化を防止し、効果活用できるようにするために、博物館の活動と運営への関係者（市民・利用者）の参画を促進します	3	参加者数 (269名、21社) 平成26年度 202名、20社	アウトカム（成果） 定期的（定量） 参加者数 (269名) 平成26年度から25年度 230名 定期的（定性） 参加者への支援に対する満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	内部評価 ・引き続き、自立的な運営に向けた事業の推進に対する役割の強化が必要である。 ・登録者の博物館からの支援に対する満足度は低い。活動内容が充実している。参加者への支援を継続していく。	外部評価 ・支援回数が増加したことから、支援体制は充実している。 ・ミュージアム・パートナーの活動に期待している。活動の充実に向けて、パートナーの方々とともに取り組む必要がある。	・ミュージアム・パートナーの活動が、博物館の活動を支えている。活動の充実に向けて、パートナーの方々とともに取り組む必要がある。
	9	ミュージアム・パートナーへの支援回数 (28回) 平成26年度 25回 平成26年度 25回	登録者数 (269名) 平成26年度から25年度 230名 平成26年度 30%	・公立館での企業連携の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・企業との取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	10	協賛事業数 (19件) 平成26年度 25件 平成26年度 20社	協賛金額 (71,589円) ※累計 平成26年度 71,470円	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・協賛事業の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
地域の人材を育成し、博物館の活動を支える人材を確保する。	2	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	3	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	4	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
地域の人材を育成し、博物館の活動を支える人材を確保する。	11	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	12	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	13	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
地域の人材を育成し、博物館の活動を支える人材を確保する。	14	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	15	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	
	16	人材育成回数 (2回) 平成26年度 2回	参加者数 (269名) 平成26年度 230名 満足度 (7) (93%) 平成26年度 30%	・人材育成の取組は、全館に広がっている。先導的である。企業との取組は、企業ごとに進捗が異なる。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	・人材育成の取組については、公立館に比べて進捗が遅い。企業ごとに進捗を把握し、支援を継続していく。	

達成目標	達成度	戦略を評価するための指標		戦略	達成度	戦略を評価するための指標			評価結果	外部評価を受けての取組の方向と改善点		
		アウトカム(成果)	アウトカム(成果)			短期的(定量的)	短期的(定性)	内部評価			外部評価	
地域にある資料の学術的価値を高め、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1	各事業の内訳評価概要	外部評価 ・各分野で数回の実践が行ったが、運営委員会や連携推進委員会の準備等へ関係者の理解や関心の低さが、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す	1 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 1 1 1	短期的(定量的) アワード・バウチャー 1 1 1	短期的(定性) 地域づくりの進捗 1 1 1	内部評価 ・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す	外部評価 ・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す	外部評価を受けての取組の方向と改善点 ・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す	
6 2 1	2 1 1	アウトカム(成果) 各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性) 1 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
5	2 1 1	アウトカム(成果) 各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性) 1 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
4	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
3	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
2	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
1	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す
1	2 1 1	アウトカム(成果) アワード・バウチャー 2 1 1		外部評価が有効に働いているかを評価するために、評価士に定性的評価していただく予定です	3 1 1			改善の効果 (運営委員レビュール)				・地域づくりの進捗を確認できた。しかし、地域づくりに貢献できるような（特）がたあき町の地域の総合的活性化を実現し、地域が持続可能になることを目指す

三重県総合博物館 年報 通巻2号 (平成27年度)

Mie Prefectural Museum Annual Report No.2

平成30年3月 発行

編集・発行 三重県総合博物館 (MieMu)

〒514-0061三重県津市一身田上津部田3060

電話 059-228-2283

FAX 059-229-8310

印刷 共立印刷株式会社

Copyright © 2018 by Mie Prefectural Museum

